戦場的女武神3
COMPLETE ARTWORKS

目次

人物 Characters

軍事と博物 Militaly Affairs and Natural History

物語 Story

制作過程 process

インタビュー Interview

422

■週刊ファミ通　広告用イラスト(P6、P7、P8に掲載しているイラストの全体)

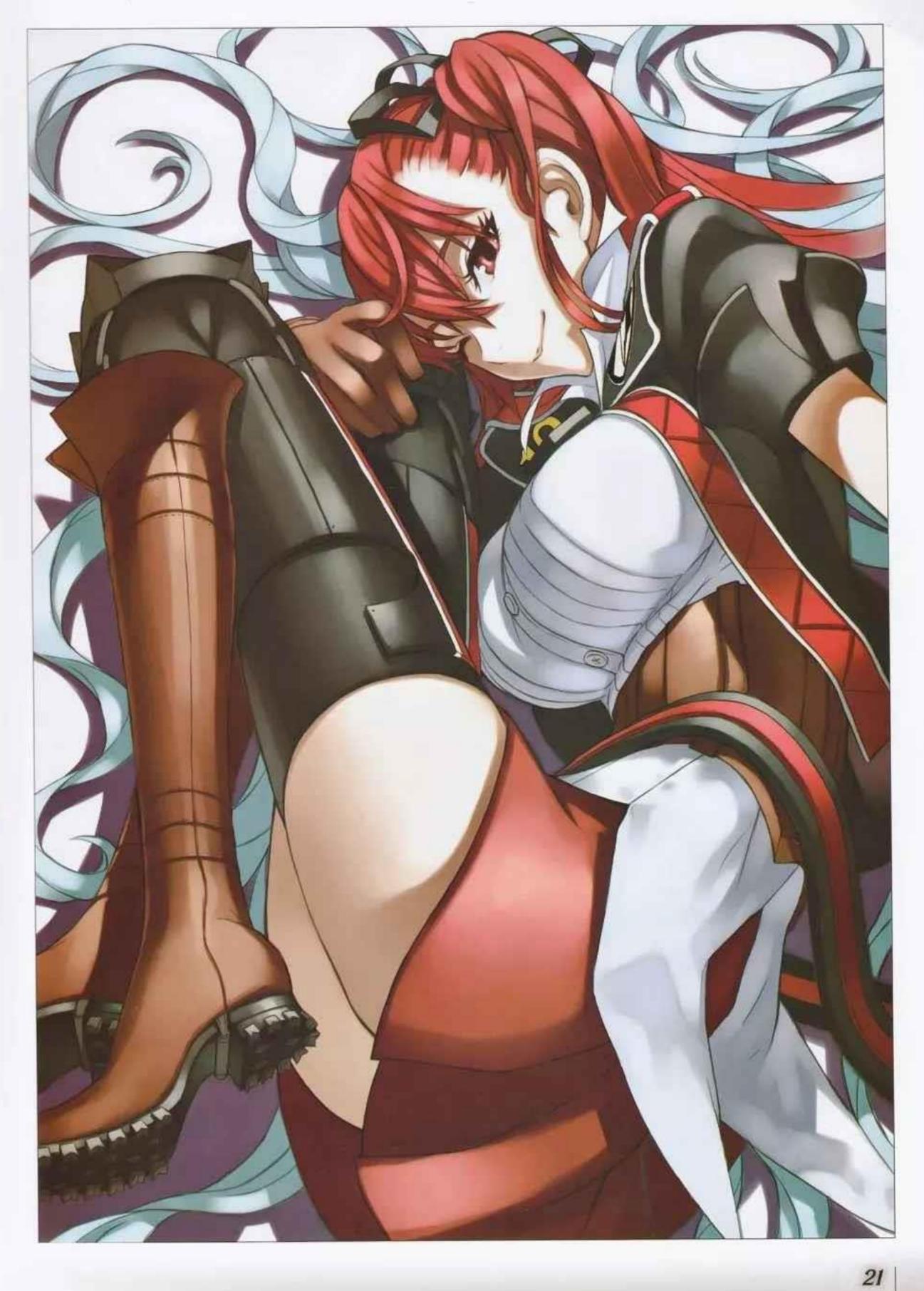
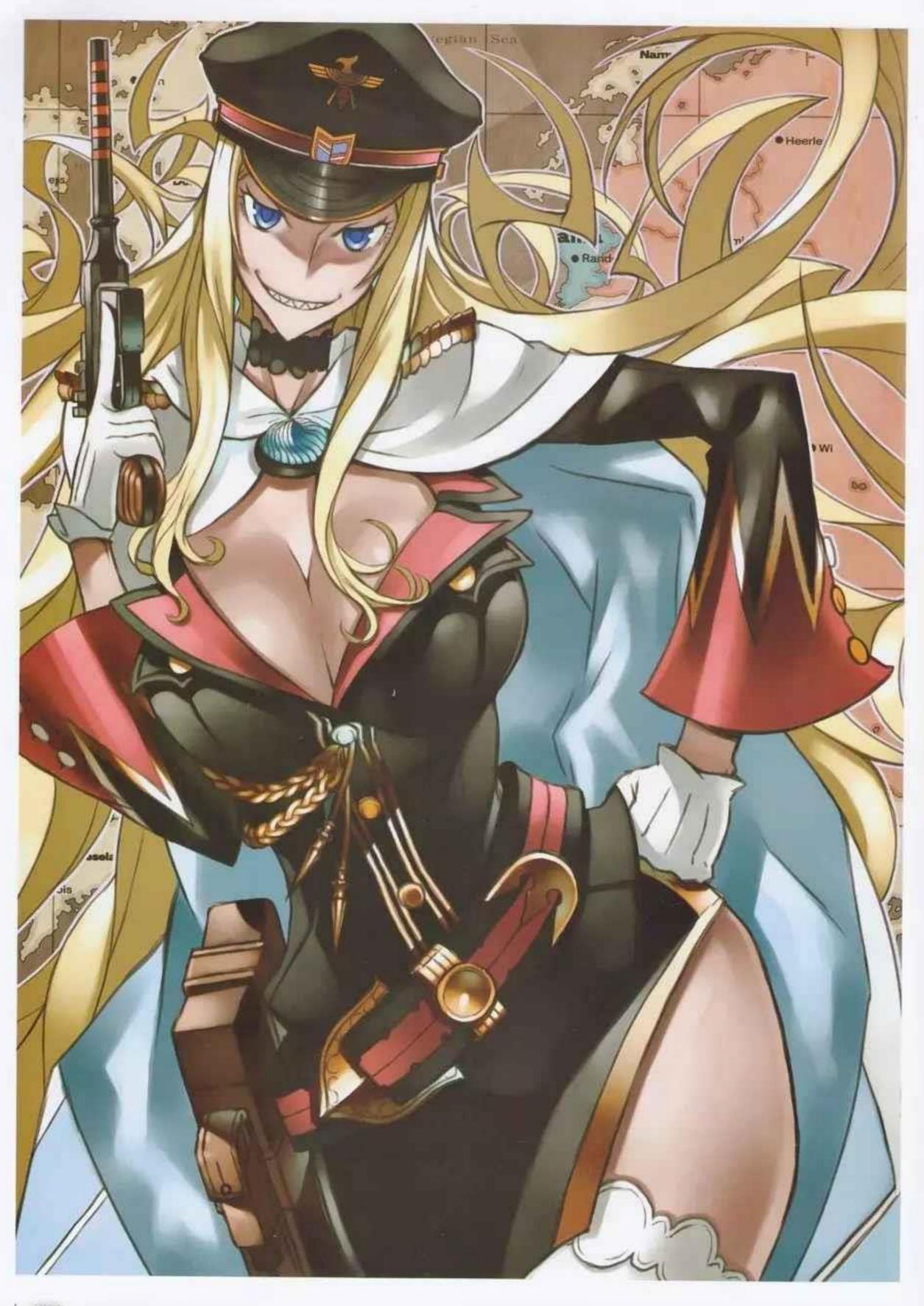
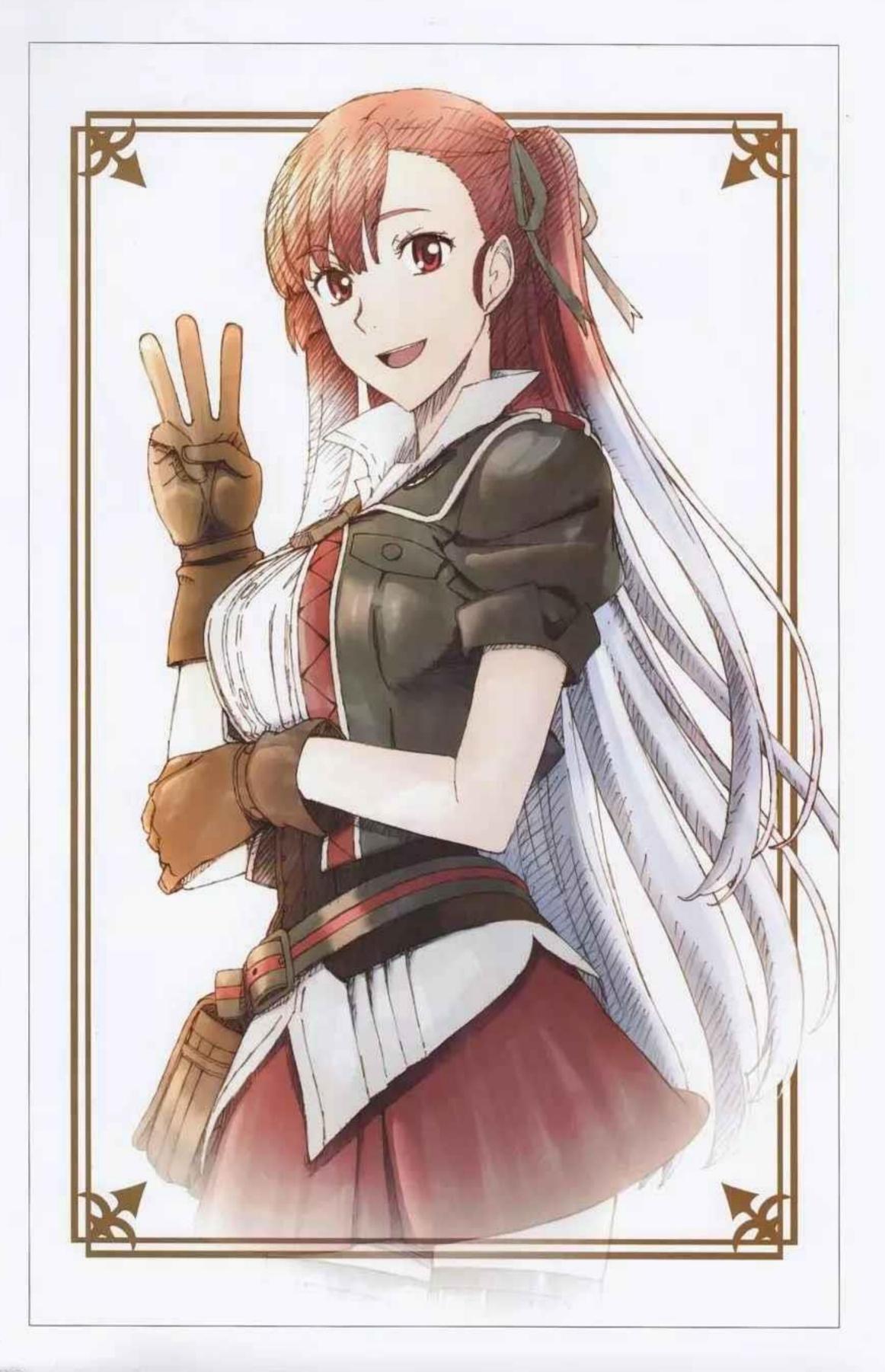
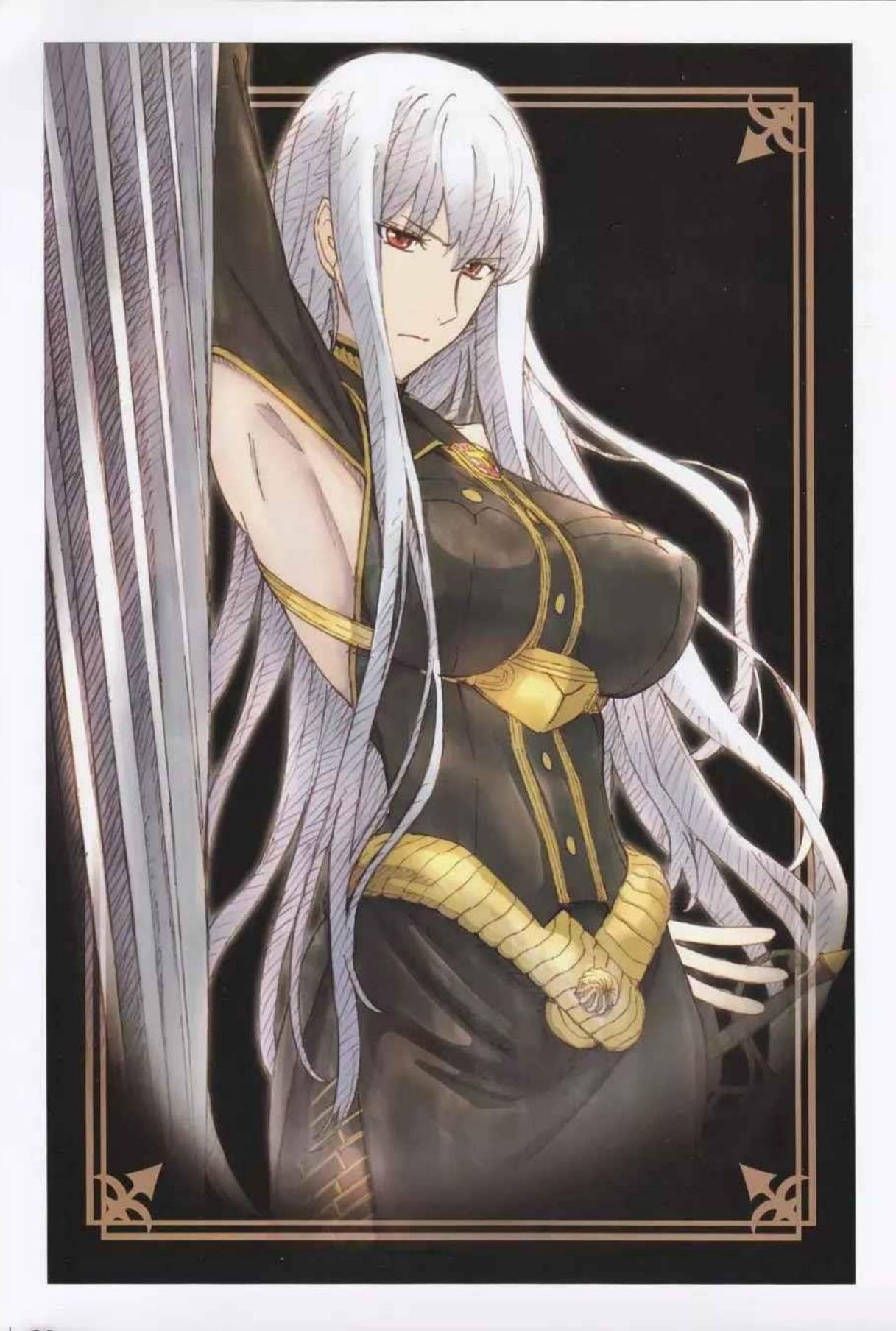
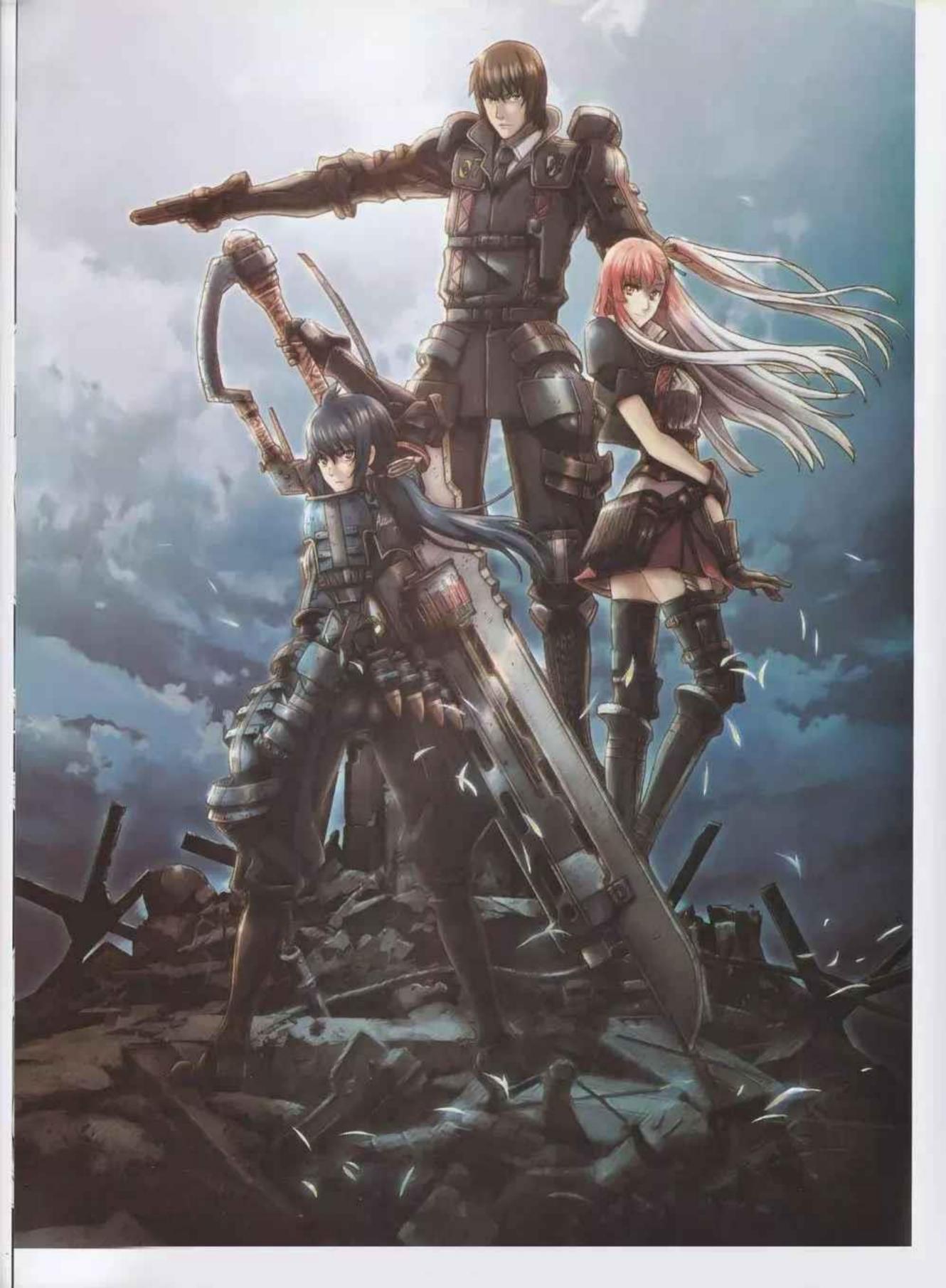
squad 422
No. 001
squad 422
No. 007
squad 422
No. 013
squad 422
No. 006

■コンプティーク　2011年3月号　掲載イラスト

■『戦場のヴァルキュリア3 極秘隊員ファイル』 カバー用イラスト

■本庄雷太氏 描き下ろしテレホンカードイラスト(COMG！[新潟県内]予約特典)

■本庄雷太氏 描き下ろし図書カードイラスト（アニメイト全店予約特典）

Koln
Namur
Emmen

■週刊ファミ通　2011年1月13日増刊号　掲載イラスト

戦場のヴァルキュリア3
UNRECORDED CHRONICLES
人物
Characters

クルト・アーヴィング
Kurt Irving

CV:中村悠一

性別:男性
年齢:20歳
身長:178cm
人種:ガリア人
出身:ガリア公国首都ランドグリーズ
家族構成:父、母
学歴:首都の公立高校を首席で卒業。
ランシール王立士官学校を首席で卒業
階級(登場時):少尉
(少尉のままネームレスに左遷される)
趣味:料理、ハーブ採り、スパイス調合
ネームレス入隊理由:国家反逆罪の容疑(冤罪)
得意兵種:突撃兵種、狙撃兵種

「名前は必ず取り戻す……必ずだ」

クルト・アーヴィング/Kurt Irving

無実の罪で名前を失った元士官
最善の結果へと全力を尽くす勤勉家

ガリア公国首都、ランドグリーズの出身で、実家は雑貨屋を営む。薄利多売の商いを営む両親を見て育ったこともあって、この世に無駄なものはないという哲学を持つ。派手さや贅沢を好まず、節約上手で、無駄をなくすという思考は、軍人となったあとの戦闘指揮においても役に立っている。

学費免除でランシール王立士官学校に推薦入学したのは、親に負担もかけないし、一般の職業より高みを目指せると考えたからだ。熱血漢というわけではないが、軍人が祖国を守るのは当たり前と考えている。

人並み外れた向上心を備え、学習と訓練を積み重ねて天才を凌駕する驚異的な努力の人。例えるなら、10秒でかけ算の九九を覚えるのが天才で、3日かけて九九を覚えるのが秀才だとしたら、3日かけて99×99まで覚えようとしてほぼ覚えてしまうのがクルト。たとえ98点の高得点を修めても、なぜあと2点取れないのかを真剣に考えるような男である。そのため、普通学校や士官学校でもエリートや才媛から一目置かれながらも変な奴だと距離を置かれている。他人にあまり関心を持たず、自分が高みを目指すことだけを考えていたが、どれだけ自分を高めても、彼は少しも幸福を感じなかった。

ランシール王立士官学校を首席で、それも歴代最高の成績を修めて卒業。正規軍士官となって戦場に出ると、ガリア中部での初戦に続き、ヴァーゼル近郊での戦いでも絶望的と思われた戦況をことごとく覆すなどガリア軍にめざましい戦果をもたらした。その獅子奮迅の活躍は少将であるアイスラーの目にも留まることとなり、クルトは将来を約束されたエリート士官としての道を順調に歩んでいるかのように見えた。しかし、偶然拾ったアイスラーと帝国との密書を中身も知らぬまま本人に届けてしまったため、秘密の露見を恐れたアイスラーの手により、無実の反逆罪を着せられ懲罰部隊ネームレスへと転属させられてしまう。もっとも過酷な戦場で指揮を執る身となったあとも、己の身に降りかかった不幸を呪うことなく、隊長として個性的な面々をまとめあげ、各地の戦線でつぎつぎと勝利を収めていく。また、その戦いのなかで他人と触れ合うことの難しさや喜びを知る。理屈を超越してクルトを信じて尽くしてくれるリエラ、自分以上に他人を拒絶するイムカと交流を重ね、人を信じ、人に信じられるということにクルトは初めて幸福を感じるのだった。

戦いが終わり、ネームレスを解散したあとは軍人を辞め、この世での栄達よりも大切な人との静かな暮らしを選んだ。クルトが率いた黒き部隊の活躍はガリアの正史に記されておらず、わずかな者たちの記憶にとどまるのみである。

暇なときは料理をしているか、野生のハーブを集めてスパイスを調合しているが、いまだ納得いく味を作り出せていないようだ。

クルト　デザイン設定 Design

ヴァルキュリアシリーズのメインキャラクターデザインを手がける本庄雷太氏は、シリーズ1作目から主人公をデザインするにあたって「軍服とは個性を消滅させる究極のアイテム」と話す。今作のデザインにおいても、軍服とキャラクター性の両立、および世界観やリアリティを壊すことなくキャラクターの魅力を際立たせることには苦心したとのこと。

▼上半身イメージスケッチ

今回ネームレスのメインカラーが黒なので、あまり奇抜な色は使えません。そこで、シルエットで主人公とわかるカッコよさ、ヒーローらしさを念頭にデザインしました。とくに肩アーマーや大きく広がった襟などがその記号です。装飾を増やすとファンタジーに、装備を増やしても時代錯誤になってしまうため、全体のバランスを調整するのが難しかったです。髪の色、瞳も含め、全体的にモノトーンになるように設計しています。　（本庄）

イベント用ポーズ&表情

poses and expressions

▼イベント用ポーズ

▼表情

クルト・アーヴィング／Kurt Irving

Kurt Irving

クルト・アーヴィング

▼ガリア正規軍

▼未公開イラスト

▼ファーストトレーラー用イラスト

キャラクター誕生エピソード

ダークヒーローにしたいというのが、そもそものスタートです。最初は父親がスパイ容疑で検挙されて、士官学校から転落していくという案もありましたね。1作目の主人公であるウェルキンが天然の天才系、2作目のアバンが熱血系の主人公でしたので、今回は戦略の鬼、といいますか努力型の天才にしました。（セガ・小澤）

挿入ムービー用

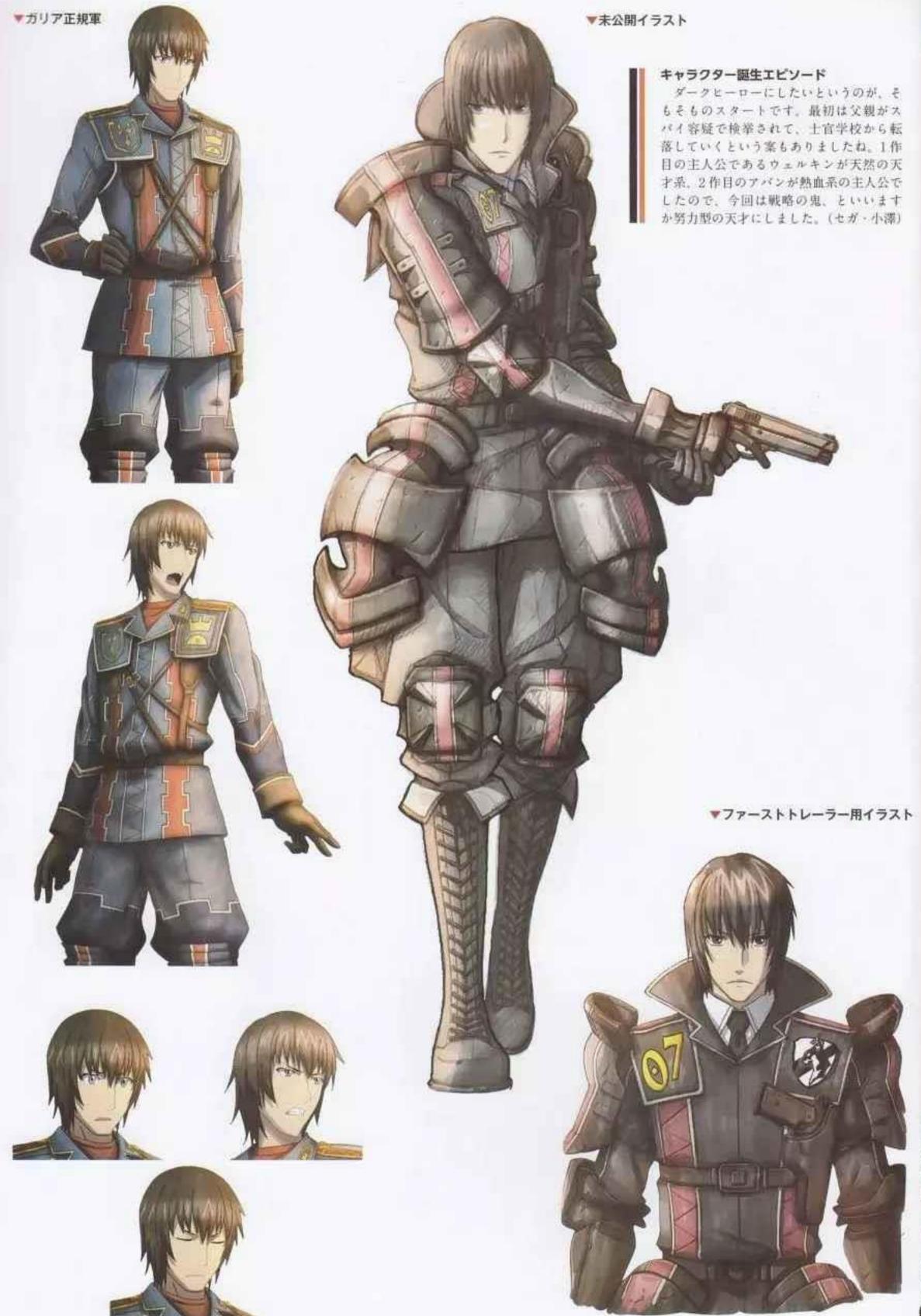
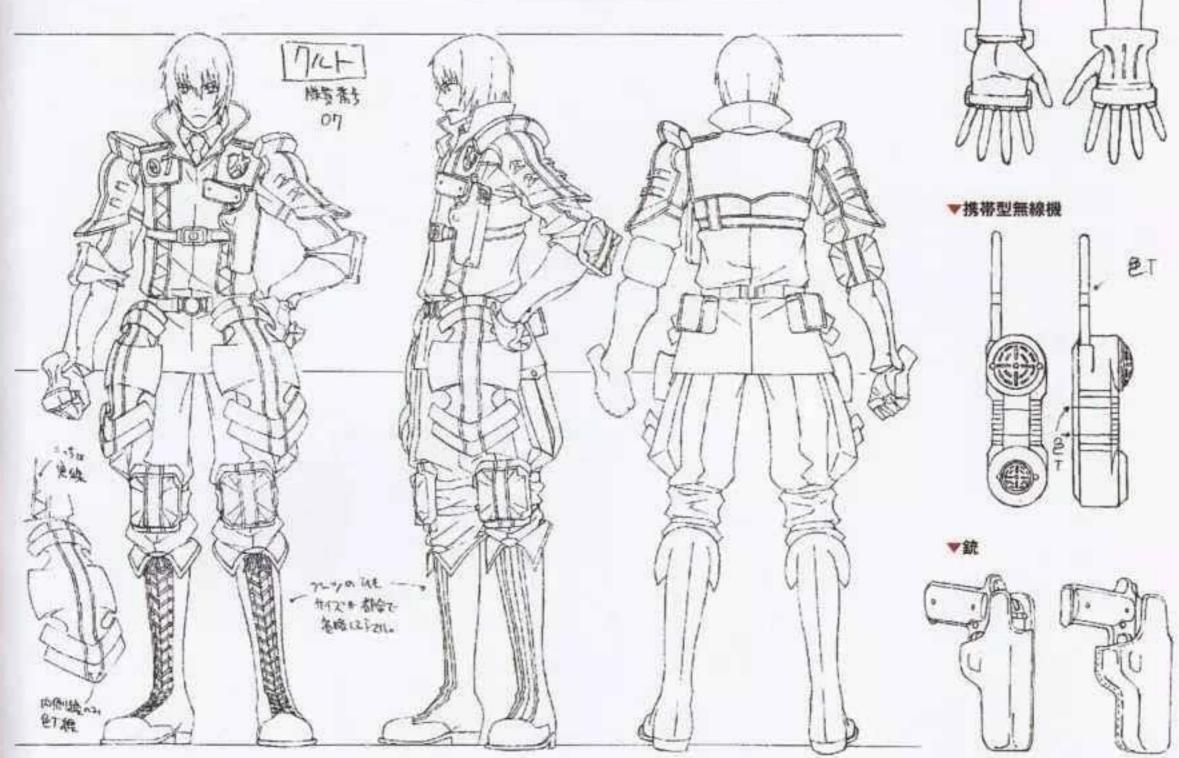
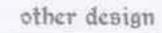
the original picture on movie

▼グローブ

▼携帯型無線機

▼銃

各種デザイン

other design

クルトの軍服初期デザイン案

軍服という制約のなかで、主人公としてキャラクターを立たせるための試行錯誤が重ねられた。レシーバーとピストルは隊長を表わすアイテムだが、ネームレスのナンバーが隠れてしまうため、レシーバーは外された。肩のアーマーとエリで主人公としてのシルエットを作り出している。

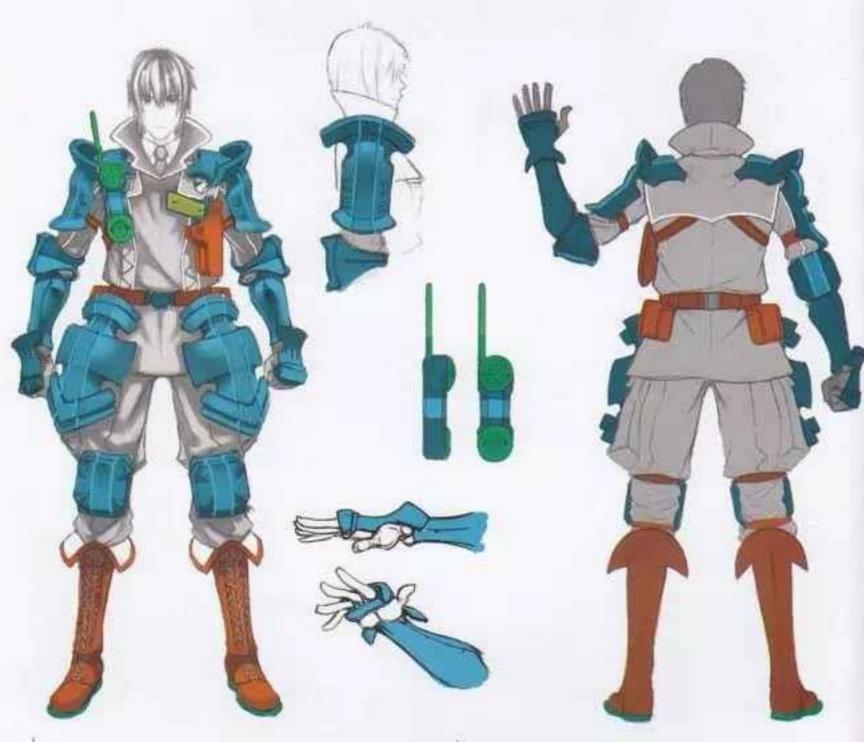
後ろはたすきがけ、前はクロスなしです。ホルスターの取り付け位置の角度的に拳銃がこれほど正面を向くことはないと思いますが、そこは嘘をついてでも演出的に正面気味に見せています　（本庄）

襟元や髪の色の検討案

ほかのキャラクターの髪の色に黒以外が多かったので、主人公はツヤなしの黒になりました。襟元は士官であることや知性を表わす意味でスカーフの案もありましたが、最終的にはネクタイに。この白いスカーフは、ヴァンパイアっぽいという意見もありましたね（笑）。（本庄）

クルトの戦闘服素材指定

戦闘服や身に着けるパーツにの素材について、下図のように色を分けて指定されている。木材は拳銃のグリップの部分にのみ使用。戦闘服のラインやワッペンには、縫い付けに関する細かい指定が存在する。

- 布（コットン）・基本的に戦闘服黒色部分は厚手、襟元とシャツは薄手
- 金属もしくは金属に塗装
- 革
- 合成樹脂
- 木材

服部分と金属部分以外はコットン素材。
細い白ラインはパイピングという縫製処理です。胸部ジグザグは縫い目です。

左肩部隊章部分
白色、黒色がそれぞれ刺しゅうされている
2～3mm厚のワッペンを軍服に縫い付け

左肩兵員番号部分
黒色フェルト素材ベースに黄色は刺しゅうされている
2～3mm厚のワッペンを軍服に縫い付け

クルト・アーヴィング／Kurt Irving

イベント衣装デザイン

event costume design

水着

水着に関しては、あまり時代設定にとらわれずに作っています。理論派のクルトはデザインにはこだわらないと思うので、現代の競泳選手が使いそうな、機能性を重視した水着ですね。
（本庄）

エプロン姿

イムカとのエンディングで身に着けているエプロンです。黒はカフェのマスターのように見えるという意見がありまして、孤児院の保育士さんっぽい青いエプロンになりました。イムカとのおそろいです。
（本庄）

結婚式衣装

リエラとの結婚式で着る白いモーニングです。結婚式の主役は花嫁ですし、あそこでクルトの衣装を奇抜なデザインにするのは意図に沿わないので、とくに遊びは入れていません。クルトはスタイルがいいので、まぁ何を着ても似合いますね。（本庄）

クルト　初期デザイン

early design

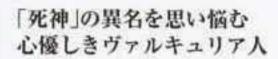
クルト・アーヴィング／Kurt Irving

本庄氏の線画に、田林氏がCANVAS加工を施したクルトの初期画。企画スタート時に伊豆で行なわれた合宿において本庄氏が提出したもので、クルトの顔や髪型はこの時点でほぼ決定稿に近い状態になっている。

リエラ・マルセリス
Riela Marcellis

CV:遠藤綾

性別:女性
年齢:21歳
身長:162cm
人種:ガリア人(ヴァルキュリア人)
出身:ガリア公国の名もない田舎
家族構成:養父、養母(ともに故人)
学歴:村の小中合同学校卒
階級(登場時):二等兵
趣味:ダイエット、幸運グッズ集め
ネームレス入隊理由:5度に渡る作戦失敗のため(所属する部隊がことごとく全滅したための厄介払い)
得意兵種:偵察兵種、支援兵種

「死神」の異名を思い悩む 心優しきヴァルキュリア人

ガリア公国のとある田舎村で捨て子として生まれ育ち、両親の記憶はない。老夫婦に育てられたが、1年ほど前に養母が亡くなり、孤独の身になったときにガリア戦役が勃発。銀髪赤眼という特異な外見を忌み嫌われ、村に居場所がなかったため募兵に志願して義勇軍に入る。ところが所属した部隊がつぎつぎとリエラだけを残して全滅。わずか1ヵ月で5度の部隊全滅を経験した彼女は、「死神」と呼ばれ、ネームレスに送られることとなった。

明るい性格で情に厚く、過去の度重なる全滅の際にも可能な限り仲間を救おうと最後まで戦場に留まって戦ったが、敗北は避けられなかった。また、どんな悲惨な敗北でも生き残ることが不気味がられ、ネームレスでも誰もリエラとかかわりたがらなかった。だが、クルトは過去にリエラのせいで隊が壊滅したという論理的根拠がないと主張し、リエラの死神ジンクスを払拭してみせてくれた。この件に感激したリエラはクルトのために献身的に頑張り、ネームレスの隊員たちもリエラを受け入れていく。

度重なる部隊の全滅を経験してもひとり生き残ってきたのは、ヴァルキュリアの治癒能力がすでに覚醒しているためだったが、リエラはまだそれを自覚していなかった。フェルスター博士によって自身の持つ力を知るが、使いこなせないヴァルキュリアの能力のせいで仲間を殺して自分だけが生き残ってしまうことを恐れる。しかし、その力と業をともに背負うと言ってくれたクルトとともに、ヴァルキュリアの力を使って仲間を守りつつ、ガリア戦役を生き抜いた。戦後は最愛の人と結ばれ、ついに幸せを手に入れた。

戦場以外では世話好きで人なつっこい性格。体重が増えやすい体質で、とくに胸がすぐ大きくなって服がきつくなる。減量のために運動するのだが、なかなか成果が上がらず困っている。また、よく食べるが味覚が鈍感なため、クルトの料理の感想を求められてもいい言葉が浮かばず、いつもヘンな感想を言ってしまう。牛乳が好物で、そのせいで胸が大きい可能性もあるが、リエラは牛乳はカルシウムだよ!と言い張る。また、幸運グッズを集めていて、ヘンなものもたくさん持っているのだが、まだ四つ葉のクローバーは見つけたことがなく、流れ星も見たことがないらしい。

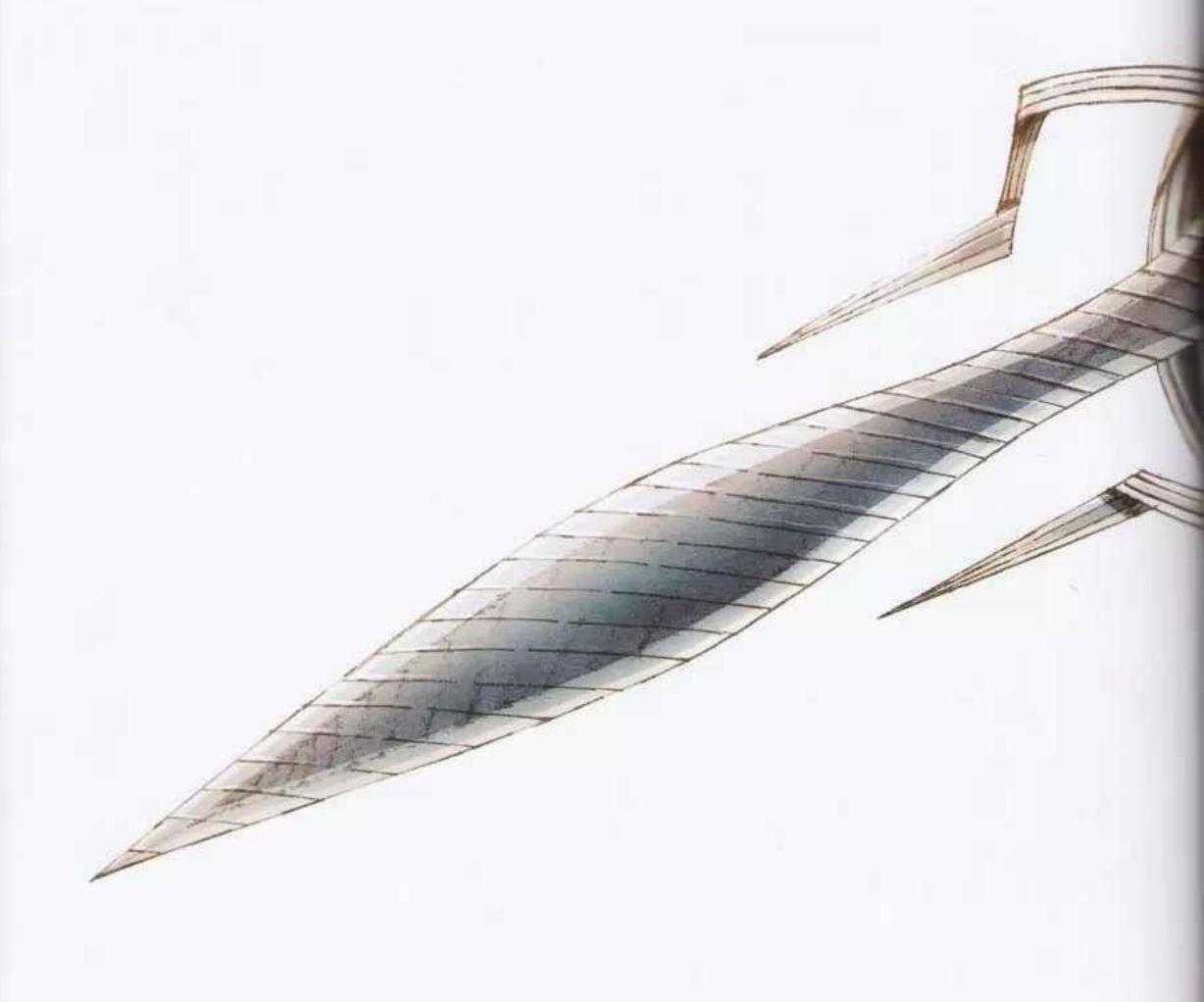
「だけど、私を『死神』じゃないって言ってくれた人がいる」

リエラ　デザイン設定 Design

途中から銀髪となるロングヘアーは、不完全なヴァルキュリア人というリエラの特性を表現している。また、上着を締められないほど大きいバストは、コルセットで締められた細いウエストによってより際立つ。偵察兵として戦場を駆けるため、戦闘服は身軽で、形見のナイフは右腿に装備している。

リエラ・マルセリス／Riela Marcellis

ダブルヒロインはデザインの面でも対比にしています。あと、やはりヒロインですから、黒の面積を減らして肌の露出は多めに。コルセットも女性的なラインを際立たせる重要なアイテムです。（本庄）

リエラ・マルセリス／Riela Marcellis

キャラクター誕生エピソード

ヴァルキュリア人ということが決まってからは、オーソドックスなヒロインとして作りました。クルトは放っておくと恋愛ごとに関しては何もしないタイプなので、物語を動かすうえでリエラの積極性には助けられましたね。主人公よりも年上というのを受け入れにくいユーザーさんがいるとは思ったのですが、この包容力は年下では出せませんし、イムカが年下でしたので、21歳という年齢設定になりました。
（セガ・小澤）

リエラ・マルセリス
Riela Marcellis

▲未公開イラスト

イベント用ポーズ&表情

poses and expressions

▼イベント用ポーズ

▼表情

挿入ムービー用

the original picture on movie

▼衣装パーツ

▼ファーストトレーラー用イラスト

▼表情

リエラ・マルセリス / Riela Marcellis

リエラ　初期デザイン

early design

もうひとりのヒロインであるイムカに対して、ストレートな正統派のヒロインとして描いたものです。ロングヘアーや華やかさ、豊満な体型、ミニスカートといった要素を取り入れています。（本庄）

イムカがツリ目なので、対比の面でリエラはタレ目にしたかったのですが、お姉さんキャラということで、母性と包容力を表わすツリ目にしました。ツリ目のほうが生命力ありそうですし、ヒロインとして華があるんですよね。（本庄）

髪型、服装デザイン検討案

hair and clothes

▼髪色衣装の検討

黒い軍服とヒロインは、本当に食い合わせが悪くて苦心しました。カーディガンやケープはさすがに戦場に不向きなので、黒のベストと白いシャツに。上のイラストでは、ヘソ出しですね。時代設定にはあまりとらわれずに、ギターを持っていそうなちょっと活発なイメージです。（本庄）

イベント衣装デザイン

event costume design

リエラはグラマラスなスタイルなので、ワンピースよりは絶対にビキニというのが共通の意見でした。リエラは髪の色で十分にキャラクター性を主張していますし、スタイルもいいので、シンプルなデザインの水着にして、色は可愛らしいピンクにしています。　（本庄）

▼水着最終デザイン

▼水着検討案

▼ウエディングドレス（最終デザイン）

Riela Marcellis／リエラ・マルセリス

リエラの結末には、ヴァルキュリアの力を封印して山奥でひっそりと暮らす、という案もありました。ですが、それではあまりにも悲しいですし、ヴァルキュリアシリーズのプレイヤーさんにはハッピーエンドを好む方が多いので、変更しました。女の子の幸せを理屈抜きで映像でわかりやすく表わすには、結婚式しかない！という意見があって、あのエンディングが生まれました。（セガ・小澤）

ヴァルキュリアとしてのリエラ

Riela as a Valkyria

ヴァルキュリアのイメージイラスト

DLC断章『反逆のヴァルキュリア』をクリアすると使えるようになる隠しユニット。ユグド教がイメージする古代ヴァルキュリア人の姿であり、リエラがモデルになっている。胸の下の装身具にあしらわれたヴァルキュリアの螺旋は、ユグド教のシンボルマークであり、この螺旋模様は腕や脚、角のほか全身にわたって取り入れられている。

ヴァルキュリア人について

ガリア正史で確認されているヴァルキュリアは、あくまでセルベリアとアリシアのふたりだけです。2作目に登場したエイリアスもそうですが、ヴァルキュリアとしてのリエラを知っているのは、その場にいた目撃者だけです。ですので、シナリオではそのあたりについて気を使いましたね。　（セガ・小澤）

▼ヴァルキュリアとしてのリエラ フィニッシュワーク

▼イベント用ポーズ

リエラ・マルセリス / Riela Marcellis

ヴァルキュリアとしてのリエラ　初期デザイン

Riela as a Valkyria

ヴァルキュリア衣装のデザイン案で、ユグド教の教徒たちから信仰対象として崇め奉られるときの衣装です。今回は、セルベリアやエイリアスに見られる、これまでにあったヴァルキュリアとしてのイメージを一度捨ててデザインしてみてほしいと、リクエストを受けていました。なので、色も含めてディテールは今作独自のモノになってます。（本庄）

ヴァルキュリアの槍と盾

spear and buckler

槍と盾の展開手順

①槍と盾の収納状態を左手に持ちます

②左手の操作によって槍部分の末端がシャキンと飛び出します。
飛び出した空間には槍の柄が見えます。　右手をその空間の隙間に突っ込んで
柄をつかみます

③柄を掴んだ左手を、鞘を腕から抜くように引っ張っていきます。
槍と盾の境目が伸び始めます。
盾は回転しながら展開、徐々に直径を拡大していきます

④さらに引き出していきます。槍と盾の間でなめらかな
うねりが続いていきます。
表面は硬質ですが、板状のものが螺旋状に綺麗に整列しているので
粘りのあるものでくっついているような感じです。
槍の末端がつぼみのように開き始めます。
盾は旋回しながら直径の拡大を続けます

⑤右腕と左腕を開いていって大きく腕を広げたあたりで
槍と盾が離れます　以降盾は完成形まで展開します

⑥槍が分離出来ましたがここからさらに伸びるので
上に向けます。
展開時の槍の柄の部分に輪がありますがそれがここで
半分ずつ展開し始めます
柄のつぼみ状のパーツは開花寸前まで膨らみます

⑦槍全部がジャキンと伸びきり2本の角状のパーツも外側に広がります
柄のつぼみ状の物はパッと開きます
輪の部分のわっかも完成します
このタイミングで盾も展開が終了します。

フェルスターがリエラにヴァルキュリアの槍と盾を渡す場面があるので、持ち運べるよう収納時はツボのような形になるデザインで、本庄さんにデザインしていただきました。そこから槍を抜き出すシーンをやりたいという私の無茶な要望を、田林が考えてくれたのが上の図ですね。　（セガ・本山）

ヒロインAとしてのリエラ　初期デザイン

ダブルヒロインのひとり、ヒロインAとして誕生したリエラは、下の初期設定画のとおり、決定稿とはかなり異なっている。このデザインで制作は進行していたが、現在のリエラへとデザインが変更された。しかし、スタッフの愛着があった初期リエラは、クラリッサとして生まれ変わったのだ。

リエラ・マルセリス／Riela Marcellis

空前絶後の大幅なデザイン変更

3作目ということもあり、ほんわかとした感じのちょっと変化球のヒロインとして生まれたのが、この初期リエラです。でも"ヒロイン感"が決定的に足りないということで、作業をすべてストップし、ヒロインとは何かということを徹底的に洗いなおしました。そこでロングヘアーや、暖色の持つ柔らかさ、衣装の華やかさといった要素を加えていき、いまのリエラとなったわけです。グラマラスなプロポーションだけは、最後まで誰も異論を差し挟みませんでした(笑)。　(セガ・本山)

Rough

おっとりとした、やや天然系なお姉さんキャラとして最初にデザインされたリエラ。眠たそうな目とマフラー、ニットのカーディガンが特徴。

リエラ・マルセリス

Riela Marcellis

ヴァルキュリアとしてのヒロインA　初期デザイン

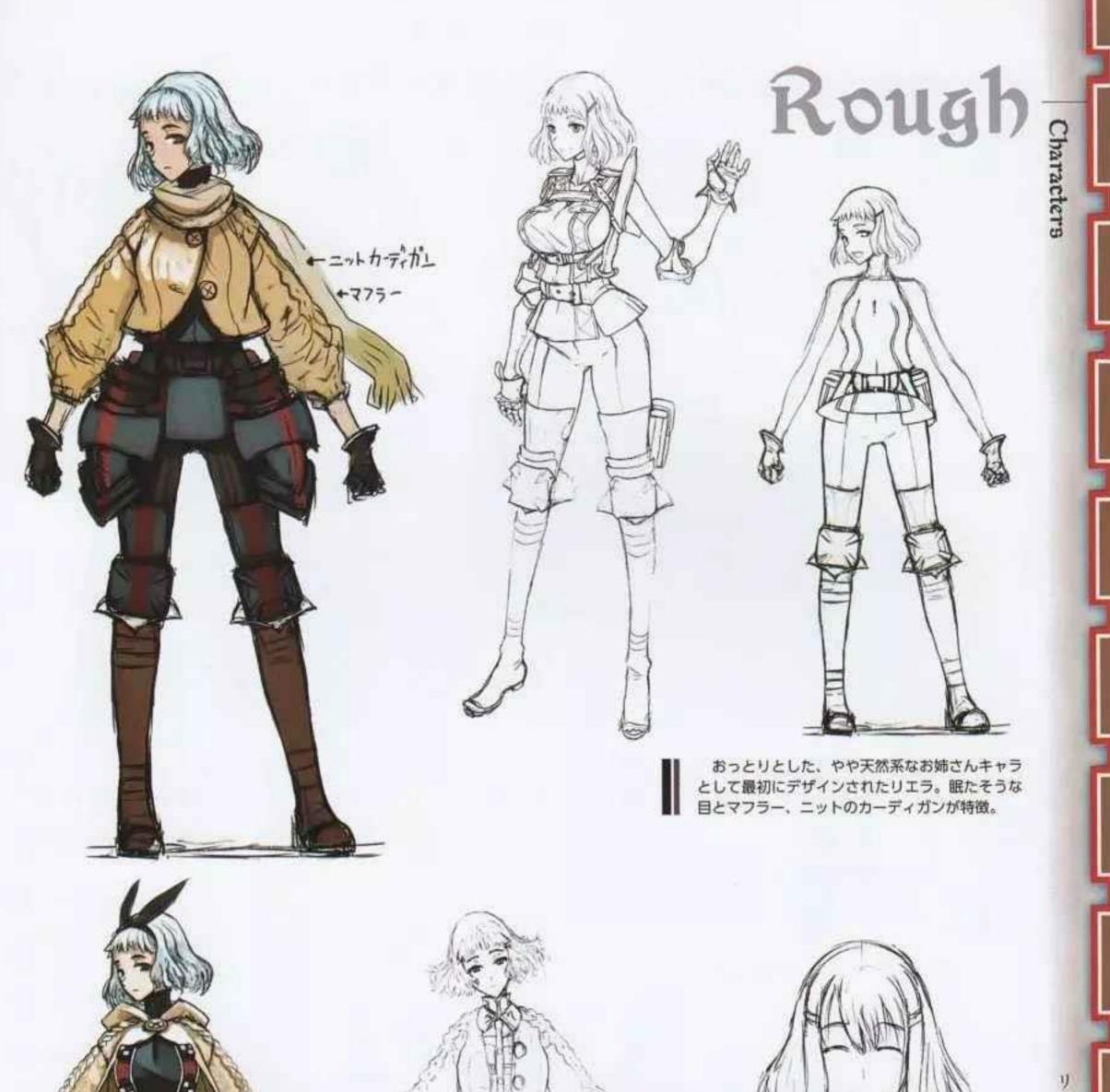
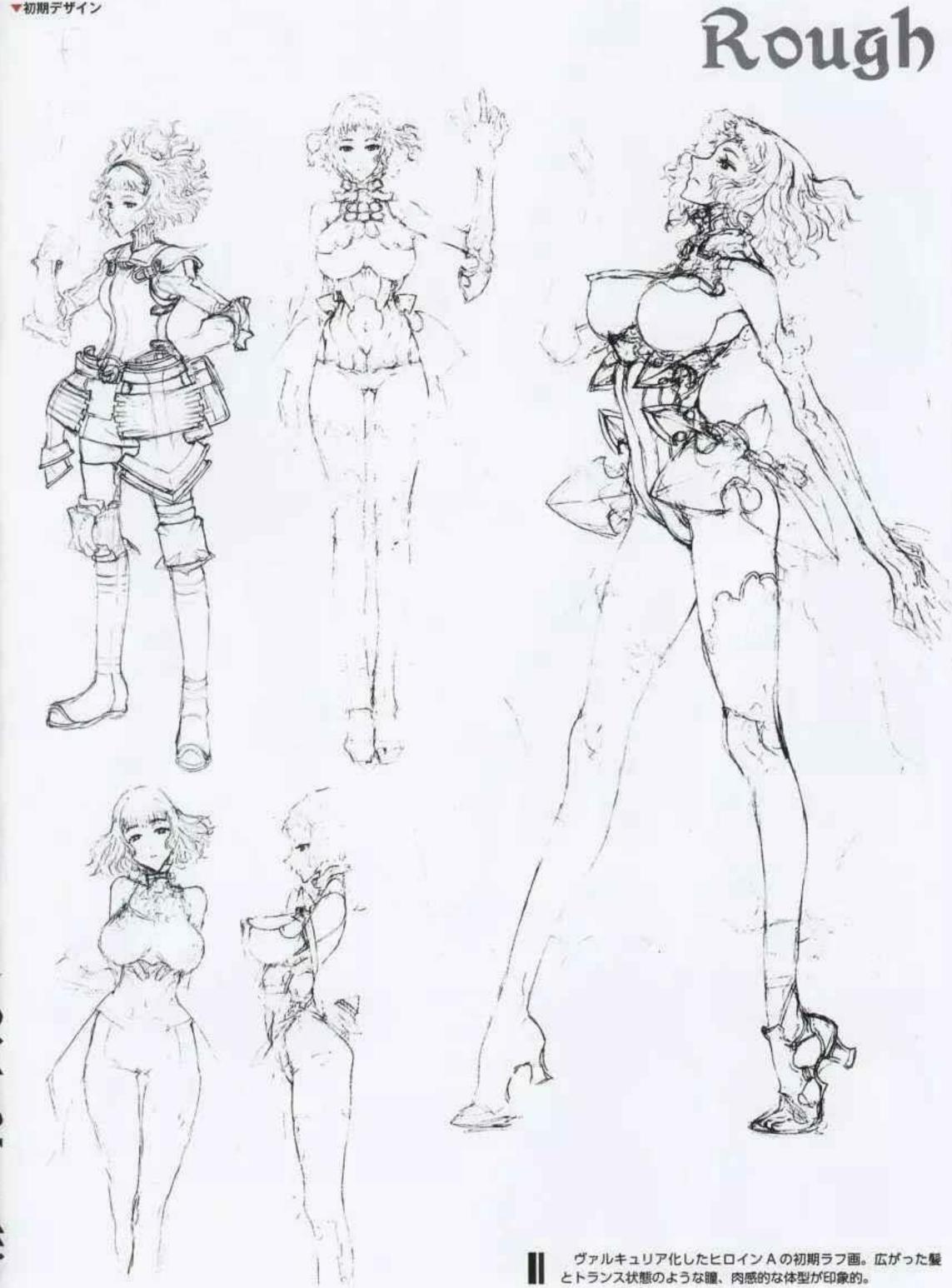
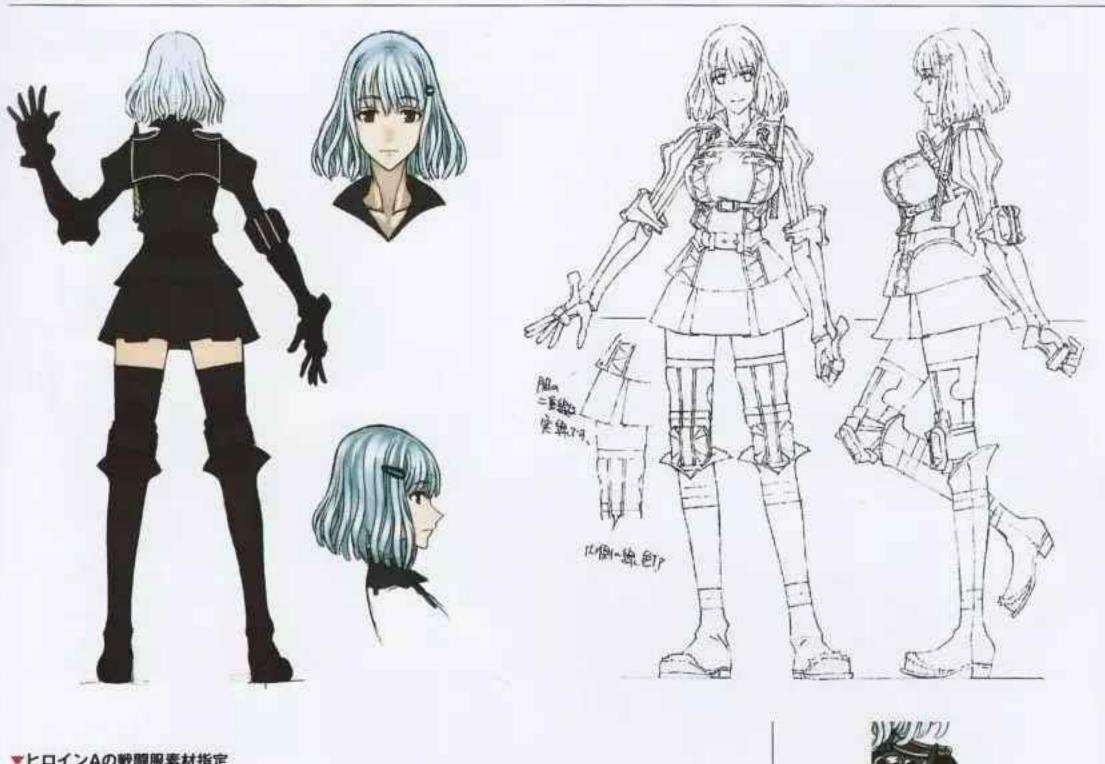
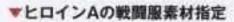
heroine A as a Valkyria

▼初期デザイン

Rough

ヴァルキュリア化したヒロインAの初期ラフ画。広がった髪とトランス状態のような瞳、肉感的な体型が印象的。

挿入ムービー用(ヒロインA)

▼ヒロインAの戦闘服素材指定

- 布(コットン)・基本的に軍服黒色部分は厚手、ふとももストッキングは薄手
- 金属もしくは金属に塗装
- 革
- 合成樹脂
- 木材

ナイフの柄は象牙や水牛の角のような硬質素材です

上半身、縦に目の大きい部分はミリタリーセーターのような厚手ニット素材です

レギンスは革素材、折り返しの白色はボア素材です

イムカ
Imca

No.01

CV:浅野真澄

性別:女性
年齢:17歳
身長:150cm
人種:ダルクス人
出身:帝国のティルカ村
家族構成:父、母、弟(すべて故人)
学歴:不明
階級(登場時):一等兵
趣味:自己鍛錬
ネームレス入隊理由:志願
得意兵種:対戦車兵種、剣甲兵種

故郷を奪った悪魔を追い 復讐のためだけに生きるエース

イムカは、帝国領のティルカ村という小さなダルクス人の村で育った。しかし4年前、ヴァルキュリア化実験の最中にセルベリアが力の制御に失敗したことで、村ごと消滅してしまう。偶然森に遊びに出ていたイムカは、唯一の生存者となった。蒼い炎に燃える村から出てくるセルベリアを目撃したイムカは、仇を撃つことのみを目的として生きるようになる。帝国領内でひとりで狩猟生活をしていたが、冬の寒さと雪から逃げるようにガリア領内へと放浪。行き倒れたところ、ガリア軍諜報部のクロウにスカウトされてネームレスに配属された。ネームレスの現在のメンバーの中では最古参であり、No.1(エース)と呼ばれる。

セルベリアへの復讐だけを目的として生きており、誰にも心を開かず、ほとんどしゃべらない。作戦指示に一切従わないものの、戦闘では誰よりも先行し、戦果はあげるため誰も文句は言わない。打倒セルベリアのため放浪中に鍛錬したため腕力もあり、俊敏で気配を消して人の背後をとることができる。

偏食が激しく、苦いコーヒー、牛乳、きのこなど食べないものが多い。とくに過去に野生のきのこを食べて猛烈な食あたりをした経験があり、きのこ類には触ることもできず、食べ物を口にする時は必ず少量毒味をするようにもなった。また、放浪中に寒さと雪に苦しめられた過去があり、寒さは大の苦手。

始めの頃はクルトのことを完全に無視し、クルトの提案に対しても「無い」の一言。それが「無くはない」、「悪くない」となり、さらに「やるしかない」に変化していく。否定形で話すのは変わらないがクルトへの態度は柔軟になっていき、クルトと気持ちを確かめ合うそのときには、一度だけ「はい」と肯定の言葉を口にした。

ネームレスでの行動理念はセルベリアに出会うまで生き延びることと、イムカの目的のために協力すると約束したクルトへの義理を果たすことであったが、クルト指揮の下で仲間と戦ううちに、徐々にネームレスへの愛着が生まれていった。

村と家族の仇であるセルベリアの死後も生き延びたイムカは、ネームレスの解散後、自らの手で人を殺め、悲しみを生み出した事実を背負い、少しでも償うために孤児院を開く。孤児院で子供たちに囲まれるイムカは、かつての笑顔を取り戻していた。

「この世にいるただひとりの死……。
それ以外は何も望まない」

イムカ　デザイン設定 Design

ニッカボッカのようなズボンと、ヴァール用の巨大な弾薬ベルトが特徴。ヴァールを構えるときに標的の方を向く左腕にはアーマーを装備している。アーマーの色が正規軍のものに近いのは、イムカが正規軍のパーツを拝借して独自に作り上げたためと推測される。すべて戦闘を第一として彼女が作り上げたスタイルだろう。

キャラクター誕生エピソード

ヴァルキュリア人のヒロインに対抗できるのは、ダルクス人しかいないだろう、ということで決まりました。年齢、性格、プロポーションも、もうひとりのヒロインであるリエラとの対比で決めています。クルトとの恋愛関係もリエラが犬なら、イムカは猫ですね。（セガ・小澤）

▼ヴァール

イベント用ポーズ&表情

poses and expressions

▼イベント用ポーズ

▼表情

挿入ムービー用

the original picture on movie

▼表情

▼ファーストトレーラー用イラスト

イムカ戦闘服デザイン

■ヒロインBのカラー別案です。
今のままだと地味なので華を持たせるべく、思案中。
ネームレスは濃紺や黒が基調なので、差別化出来ると思います。
■左腕まで律儀に
赤にする必要無いかな。
防盾が無い分もっと
ゴツくても良いかも
しれません。
パワーアシスト付き
小型内燃機関。
←防盾
←アイゼン
←アイゼン
リボン
左腕

▼ヴァールとアーマーのカラー検討案

アーマーとヴァールは、いろいろな色を試しました。いったんは赤に決まったのですが、デザイン変更後のリエラのパーソナルカラーが赤になったため、イムカのアーマーとヴァールは青になりました。結果的にはイムカのクールさがより際立ってよかったと思います。（セガ・小澤）

▼イムカの戦闘服素材指定

- 布（コットン）。基本的に軍服黒色部分は厚手
- 金属もしくは金属に塗装
- 革
- 合成樹脂
- 木材

イムカのイベント衣装デザイン

event costume design

イムカの水着は色気を徹底的に排除して、ビーチバレーの選手が着るようなスポーティなものにしました。エプロンは戦闘服のイムカとの対比を見せるために、女の子らしさや母性を表わしています。着飾らない彼女はピンクよりブルーを選ぶでしょう。　（本庄）

▼水着

▼エプロン

▼水着の没デザイン

ヒロインBとしてのイムカ　初期デザイン

eary design as heroine B

背は低いけれど運動神経抜群。豹のようなしなやかさと俊敏さを持つボーイッシュな女の子で、無骨なアーマーや短髪のせいもあって色気は皆無になっています。頭の"アホ毛"はオシャレを気にしない無頓着さの表われでもあるのですが、エースであるがゆえのツノととらえて頂ければカッコイイかも。　（本庄）

ヴァールのデザインと設定

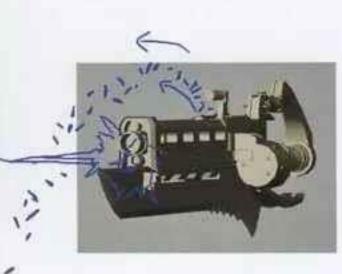
Design

1作目と同時代の裏側を描くうえで、セルベリアとヒロインの対決はぜひ入れたい要素でした。一部の人のみがヴァルキュリアと知るリエラにはその役目はできない(※編集部注:P55参照)ので、イムカの復讐という案になりました。ただし、一般人がヴァルキュリアに戦いを挑むには生半可な武器では通用しません。そこでイムカに神秘の力が、みたいな設定は絶対にやりたくなかったので、アンチ・ヴァルキュリア兵器としてヴァールが生まれました。リエラ対イムカという、ダブルヒロインの対決シーンを描くうえで、大きな武器が欲しいというのもありましたね。

(セガ・小澤)

▼装填と砲撃の仕組み

▼マシンガンとしての機能設定

当初の案の中には、ラグナイトブレードで刃の部分が青白く光るというアイデアもありました。なお、ゲーム中では特殊化「武装開放」でマルチロックから一斉に弾を発射していますが、実際には左上の図のように1発ずつ込めて、撃ちます。OVAの後編で描かれているのが正しい描写ですね。　（セガ・三神）

グスルグ

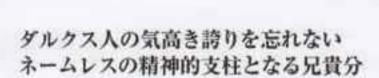
Gusurg

No.06

CV：桐本琢也

性別：男性
年齢：25歳
身長：185cm
人種：ダルクス人
出身：ガリア公国のとある場所
家族構成：父、母、姉
軍歴：ガリア義勇軍からネームレスへ
階級（登場時）：曹長
趣味：剣術（ダルクス人に伝わる古流剣術）
ネームレス入隊理由：ダルクスの人権活動家であることが問題視されたため
得意兵種：戦車長

「何のしがらみもない、自由な空に
ダルクス人の魂はある……」

ダルクス人の気高き誇りを忘れない ネームレスの精神的支柱となる兄貴分

ダルクス人としては名家の生まれで、ダルクス人の人権向上を考える活動家だった。戦争が始まり、徴兵され義勇軍に配属されたが、ダルクスの人権活動家であることが問題視されてネームレスに送られた。

差別を受け、ネームレスで挫折を味わっていたグスルグだったが、落ち着きがあり、人望もあるので、前隊長の死後、隊員からネームレスの次期隊長に推される。しかし、リーダーの器ではないと固辞。そんなとき、クルトが左遷されてきたので、士官階級でもあるクルトに、その役目を託した。能ある鷹は爪を隠すの言葉どおり、凡人感をアピールしているが大抵のことは人並み以上にこなせる。また、人情的でクルトより人間味もあり、他人から相談を持ちかけられやすい。解決するのも上手だが、イムカだけはどうにもならなかった。人当たりがよくて面倒見がよく、指導力や責任感もあるが、ネームレスのためにそれを使おうとはしない。あくまでもダルクス人のために生きる、ということがグスルグの理念、理想である。そのため、ネームレスにはとくに思い入れはなく、むしろ差別や非道な作戦を強要するガリア軍上層部に失望していた。

情やしがらみに流されず、最善を尽くし、上を目指すというクルトの考え方に共感し、最初から好感を持って行動を共にし、クルトの苦手な隊員との調整役としても貢献した。ただし、食に関してはクルトとは合わず辛党で、アフターバーナーという激辛香辛料を好んで使う。

ダルクス人独立自治区建設の大望を抱き、それを実現しつつあるカラミティ・レーヴェンのダハウと出会い、グスルグの心は徐々に揺らいでいく。のちにガリア公国軍の命令に強い反発を覚え、ネームレスを離脱してダハウの元に参じ、カラミティ・レーヴェンの一員として虐げられたダルクス人の解放という理想実現のため戦うことになる。ダハウの副官であるリディアからはスパイの嫌疑をかけられ危険な任務を与えられるが、ネームレスでの扱いと比べればそんなものはまだ楽だった。ダルクス人の犠牲の上に成り立つ独立を良しとしないダハウの理念を理解しつつも、ダルクス人独立を実現させるために自らの手を汚すことを決意する。そのためにはリディアを利用、犠牲にすることも厭わなかった。

首都ランドグリーズでの戦いにおいてクルトに敗れたグスルグは、ダルクス人の未来をダハウに託し、戦場に散る。クルトの腕の中で息を引き取ったグスルグの死に顔はどこか安らかであった。

グスルグ　デザイン設定(ネームレス)　Design

フライトジャケットは飛行機乗りが着るものですが、グスルグは戦車乗りなので同じパイロットということで取り入れてみました。エンブレムは、元人権活動家として地下組織で活動していたときのものです。工業技術の高いダルクス人をイメージする歯車や工具がデザインされています。　(本庄)

キャラクター誕生エピソード

裏切りを描きたくて、作ったキャラクターです。本庄さんには誰からも好かれる、頼れる兄貴分ということでデザインをお願いしました。ダルクス模様をどこに入れるかは、最後まで引っ張りましたね。最終的にはジャケットに入っていますが、ダルクス模様のタトゥーを入れるという案も出ていました。　(セガ・小澤)

イベント用ポーズ&表情(ネームレス)

poses and expressions

▼イベント用ポーズ

▼表情

戦車長であるグスルグは、ヘッドホンを首にかけ、腰の左側にコンパス付きマップケース、右脚に信号銃を装備している。腰嚢にはフラッシュライトや筆記用具など、作戦活動に必要となるさまざまな小物が入っている。

グスルグ　デザイン設定(カラミティ・レーヴェン)

裏切ったあとのグスルグも本庄さんにデザインをお願いしていました。本山から"前から見たシルエットでも裏切ったあとのグスルグだとわかるように"という要望があったのですが、髪を後ろで束ねるという本庄さんのアイデアでうまくいきましたね。　（セガ・小澤）

イベント用ポーズ＆表情（カラミティ・レーヴェン）

▼イベント用ポーズ

▼表情

グスルグはダルクス人のために生きている人なので、カラミティ・レーヴェンに寝返ったあと、ためらうことなくネームレスへも攻撃をしてきます。「君達とは戦いたくはないんだが……」みたいなセリフはいっさい言いません。（セガ・本山）

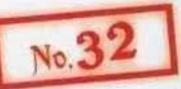
寝返ったグスルグがダルクス人のために行動するのも、つねにベストを尽くすというクルトの影響なんですね。一部のユーザーさんは、グスルグがかつての仲間を攻撃することに葛藤を見せないことに違和感を覚えたようですが、前述のとおり、迷いなく挑んでくることが、クルトとの友情の表われのひとつなんです。（セガ・小澤）

グスルグ　初期デザイン

cary design

迫害されるダルクス人で元活動家という後ろ暗さ、のちに裏切ることと腹に一物持っていること、頼れる兄貴というのがキーワードですので、あまり明るいものや"ひょうひょう"としているものは候補から外していきました。（本庄）

ジュリオ・ロッソ

Giulio Rosso

CV:会一太郎

性別:男性
年齢:30歳
身長:180cm
人種:ガリア人
特技:料理、即興で歌を作る
弱点:虫が苦手
ネームレス入隊理由:軍規違反(備蓄食料の無断使用)により義勇軍から転属
得意兵種:対戦車兵種、支援兵種

自信の料理を振る舞って
世界平和を目指す陽気な料理人

幼いころに両親を亡くしたジュリオは、お腹を空かせていたときに、ひとりのシェフが飲ませてくれた一杯のスープによって身も心も救われた。そのことをきっかけとして料理人を目指す。ガリア軍所属のコックとなり夢を実現したものの、軍施設に備蓄されていた食材の無断使用をくり返したために、懲罰としてネームレスに転属させられた。それ以後は戦闘のさなかに各地で手に入れた名産品を使った料理を研究する日々を送る。

「料理は人を幸せにする」がジュリオの信念で、料理にこそ異文化間の架け橋となる力があると確信している。

戦後は流しの料理人として各国を渡り歩き、味の探求を続けている。異国でも持ち前の陽気さですぐに溶け込み、暇さえあれば女の子を口説くが、軽い男と見られてしまうようで、なかなか恋人はできないようだ。

「料理には世界中を笑顔にする力があるんだぜ。メシは剣より強し！　なんてな！」

キャラクター誕生エピソード

料理人を部隊に入れたい、ということから生まれました。よくつるんでいるフェリクスが男前なので、やや三枚目のツッコミ役として、序盤の物語をまわす役回りですね。明るくて誰からも好かれるタイプです。　　（セガ・小澤）

▼表情

ジュリオ・ロッソ／Giulio Rosso

ジュリオ　デザイン設定

フェリクス・カウリー
Felix Cowley

No.21

CV：松原大典

性別：男性
年齢：21歳
身長：178cm
人種：ガリア人
特技：子守り（自称）
弱点：鈍感（おもに恋愛事情と女心）
ネームレス入隊理由：軍規違反（命令無視）で正規軍から転属
得意兵種：突撃兵種、対戦車兵種

「家族は絶対に守る。ガキの頃にそう決めたんだ」

ネームレス隊員に家族の面影を見る頼れるリーダー格

第一次ヨーロッパ大戦で家族を失い、故郷で自警団を作って仲間とともに暮らしていたが、優れた統率力を活かすためにガリア正規軍へ入隊する。軍人として高い評価を受けていたが、無能な指揮官に意見したことで、反抗的であるとしてネームレス部隊へ転属させられた。

正義感が強く裏表のない性格で面倒見もいい。周囲を引っ張れるリーダー気質が男性隊員を中心に一目置かれているが、女心に鈍感なために失言が多く、女性隊員の機嫌を損ねることもしばしば。戦争で家族を失った経験により心に深い傷を負った彼は、隊員を自分の家族だと考えており、ときには命をかけてでも守ろうとする。

戦後は傭兵として各国の軍事組織や自警団に参加し、帝国軍との戦いを続ける。まっすぐな人柄と豊富な経験により信頼は絶大だが、相変わらず女性への失言が多く、まったくモテない。

キャラクター誕生エピソード

女性が使いたくなるようなキャラクターが少ない、という意見を受けてカッコいい男性隊員として作りました。タイトルが違えば主人公を張れるぐらいの男前。女心にニブい、という設定も女性スタッフの要望です。　（セガ・小澤）

▼表情

フェリクス　デザイン設定

アルフォンス・オークレール

Alfons Auclair

CV:松本考平

「おれはずっと青臭いデブのまんまさ」

性別:男性
年齢:23歳
身長:173cm
人種:ガリア人
特技:パズルなどの頭脳ゲーム
弱点:モテない。格好つけるけどキマらない
ネームレス入隊理由:軍規違反(個人情報流用)により義勇軍から転属
得意兵種:偵察兵種、技甲兵種

ガリア随一の情報収集能力を誇る金髪の伊達男

首都ランドグリーズにある由緒正しい貴族の家系に次男として生まれた。昔ながらの因果・因習に縛られた貴族の生活にはなじめないという理由から、家を捨てて一人暮らしを始め、探偵稼業を経て義勇軍へと入隊する。しかし、軍で個人情報を盗み見たのが発覚し、懲罰部隊のネームレスに転属させられた。

性格は明るくさっぱりしており、気配りができるタイプ。ムードメーカー的役割を進んで担い、自分の体型をネタにして場の空気を和ませることも多い。女性に対してはつねに紳士的に接し、しばしばシャレた決め台詞を発するものの、なぜかモテない。自称「ガリアの隼」。女王様気質のレイラとは馬が合ったのか、腐れ縁となる。

探偵稼業で身に付けた話術と情報収集能力を駆使し、秘密や謎を解明することを大の得意としている。その手腕は一流で、ガリア貴族が裏で働いた悪行ですらつぶさに調べ上げているほど。

戦後は探偵家業を戻るものの、愛する祖国の悪を正せないことを無念に思っている。

キャラクター誕生エピソード

公式サイトのニュースブログ「陣中日誌」の進行役として女王様キャラであるレイラの相方を務めるために、おデブさんに。この見た目にもかかわらず誰からも「かっこいい」と思われるキャラクターを目指しました。
（セガ・小澤）

▼表情

アルフォンス　デザイン設定

ダイト
Deit

No.56

CV:橋詰知久

性別:男性
年齢:27歳
身長:191cm
人種:ダルクス人
特技:針金細工つくり
弱点:妹、涙もろい
ネームレス入隊理由:軍規違反により義勇軍から転属(じつはダルクス人という理由から)
得意兵種:技甲兵種、狙撃兵種

愛する妹のため義勇軍に志願した何事にも後ろ向きな青年

ガリア北部の貧しい地域の出身。長身で目立つうえ、ひねくれた性格のせいでいじめられやすく、不遇な少年時代をすごす。少年時代から殴られ慣れているため、痛みに対しては我慢強くなってしまった。

無職同然の無気力な生活をしており、唯一の肉親である妹のダイナが生活費を稼いでいた。そんな最愛の妹を安心させるために一念発起し、義勇軍へと志願。しかし、ダルクス人というだけで、ネームレス送りとなってしまう。そのショックから他人との交流を拒否し、本名すら明かさずにほかの隊員を頑なにナンバーで呼ぶ。ネームレス送りになったことも妹には伝えていない。無口ではあるが、感情をそのまま言葉にすることが多いために、他人と衝突しやすく孤立しやすいが、世話好きのエイミーにはわずかながら心を開いている。

ネームレス解散後は得意とする針金細工で日銭を得ながら、大陸各地のダルクス人の元を訪れる旅に出る。多くのダルクス人と触れ合ううちに、みずからのルーツを知りたいという思いが芽生え、クルトとリエラの結婚式でヴァレリーと再会した際、彼女が取り組んでいるダルクスの災厄についての研究に、彼もダルクス人として協力したいと申し出るのだった。

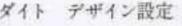
キャラクター誕生エピソード

今作ではイムカやダハウなど、すごいダルクス人が目立つので、初めてプレイした方に向けて典型的なダルクス人が必要でした。そのため、迫害を受けて徹底的に卑屈になった人物になっています。(セガ・小澤)

「……どうして、妹が死んで俺が生きてる?」

▼表情

ダイト　デザイン設定

ダイト軍用レンチ

セルジュ・リーベルト
Serge Liebert

CV：河本啓佑

性別：男性
年齢：18歳
身長：169cm
人種：ガリア人
特技：ダーツ
弱点：甘党（角砂糖を常備）
ネームレス入隊理由：志願により正規軍からの転属
得意兵種：支援兵種、狙撃兵種

戦地に己の死に場所を求める
余命わずかの支援兵

卓越した銃の腕を持つ狙撃兵であり、正規軍の若いエースとして将来を嘱望されていた。しかし、自身が不治の病に侵されて余命がわずかであることを知り、死に場所を求めてネームレスに転属を希望する。

物静かかつ繊細な気質で言動からは覇気が感じらず、ときとして周囲から存在さえも忘れられてしまうほど。軍人として戦場で命をまっとうしたいと願っているため、作戦行動中は精力的に活動し、度を越した危険行為に及ぶこともあった。しかしクルトに自分の命の価値を教えられ、残り短い生に希望を見出す。ネームレスに配属されたクルトの才覚をいち早く見抜き、彼の才能を強く尊敬している。

ネームレス解散後もクルトを隊長と仰ぎ、「クルトの命令なくして、死ぬことはできない」と、彼の命令を待ちながら、とある高原の羊飼いのもとでゆったりと余生を送っている。

「苦しい……そうか。まだ、生きているから……」

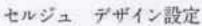
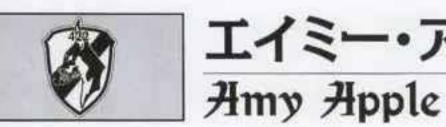
キャラクター誕生エピソード

余命わずか、という人物を登場させたくて、可愛い系として作ったセルジュと合わせました。沖田総司っぽいよね、というところからうまくエピソードが固まっていきましたね。クルトへの想いは純粋な尊敬です（笑）。（セガ・小澤）

▼表情

セルジュ　デザイン設定

エイミー・アップル
Amy Apple

No.15

CV:津田美波

性別:女性
年齢:15歳
身長:自称150cm(実際は149cm)
人種:ガリア人
特技:家事全般
弱点:身長
ネームレス入隊理由:志願(高い給金を得るため)により義勇軍から転属
得意兵種:偵察兵種、機関銃兵種

「あなたが死んだら私が泣く」

父に似たダメ男に尽くしてしまうしっかり者の女の子

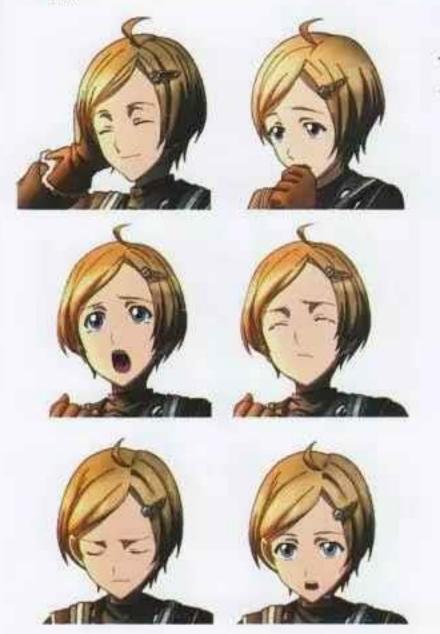
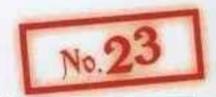
借金癖があるちゃらんぽらんな父親の面倒を見ながら育ったせいか、しっかり者で世話焼き。幼いころから貧しい生活を強いられたが、本人は他人が思うほどに不幸とは感じていない。ネームレスに入ると高い給金が得られると説明され、故郷の家族に仕送りするために転属する。グロリアが「嫁にするならエイミー」だと言って、ほかの女性隊員たちに見習わせようとするほどのできた子。困っている人間やダメな人間を放っておくことができない性格で、とくに、何をやってもうまくいかない同僚のダイトに対しては父親に似た親近感を覚え、何かと世話を焼き続ける。また、身長が149cmと低いことがコンプレックスとなっており、1cmだけさばを読んでいる。

戦後はダイトについていこうとしたが、放浪の旅に出た彼に置いていかれてしまった。グロリアの人脈でまっとうな職を得たものの、平凡な暮らしを物足りなく思っている。

キャラクター誕生エピソード

ダイトを癒せるキャラクターとして生まれたのがエイミーです。また、老人キャラのグロリアを際立たせるためや、ネームレスの年齢のバリエーションを表現するためにも、15歳の少女という彼女が必要でした。　（セガ・小澤）

▼表情

エイミー　デザイン設定

レイラ・ピエローニ
Leila Pieroni

CV:庄司宇芽香

性別:女性
年齢:20歳
身長:165cm
人種:ガリア人
特技:ムチ使い
弱点:くすぐり
ネームレス入隊理由:軍規違反(上官への暴力行為)により義勇軍からの転属
得意兵種:突撃兵種、対戦車兵種

愛のムチで男性を"教育"して世界平和を目指す女王様

義勇軍に所属していたが、日ごろから部下を恫喝し、女性隊員に夜の相手を強要しようとした中隊長にムチを当てたことで、そのことが罪に問われネームレスに転属させられる。支配欲が強く、相手を従わせることに喜びを感じるという性癖の持ち主で、その女王様気質は義勇軍第3中隊第7小隊に所属する実弟のホーマーを教育する過程で目覚めた。ホーマーに対する愛情は本物で、そのきびしいムチは弟への期待が込められたもの。

ゴシック・ファッションを好み、手には乗馬用のムチを携えている。自信過剰で高慢だが、自身を曲げない強さともいえ、世界中のダメ男を再教育して平和な世界を築くことを最終目標にしており、ネームレスに所属してからも、そのアグレッシブな性格をもって男性隊員をムチで鼓舞していく。戦後は世界平和のため、職業は調教師と自称し、夢であったダメ男を教育する旅に出る。どうしようもない男というのはどこにでもいるもので、教育相手に事欠かないようだ。

キャラクター誕生エピソード

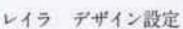
「陣中日誌」の進行役としてピエローニ家に白羽の矢が立ち、ドMのホーマーの姉、ということで女王様になりました。いわゆるSMの女王様と思わせておいて、じつは真面目で気位が高い、本物の女王様のように感じてもらえるようなキャラクターを目指しました。　(セガ・小澤)

「私があんた達のために戦争のない世界を作ってあげるわ!!」

▼表情

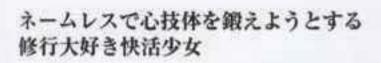
レイラ　デザイン設定

アニカ・オルコット
Annika Alcott

No.24

CV:丸山未沙希

性別:女性
年齢:17歳
身長:161cm
人種:ガリア人
特技:力仕事(怪力)、体力を使うこと
弱点:頭を使うこと(計算が苦手)
ネームレス入隊理由:刑事犯(傷害事件)
※過剰防衛により相手が大怪我
得意兵種:突撃兵種、剣甲兵種

キャラクター誕生エピソード
クルトの才能を素直に評価する人物も必要でした。序盤から疑いなくクルトを認めるという設定上、結果的に体力バカ的な人になりましたが、アスリート系の隊員も入れたかったのでちょうどよかったかも。（セガ・小澤）

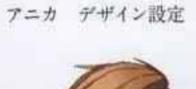
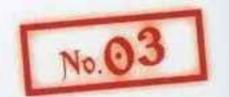
ネームレスで心技体を鍛えようとする修行大好き快活少女

幼いころに自分の村を救ってくれた軍人に憧れを抱き、彼のような強い人間になることを目標にしていた。だが、街中でごろつきにからまれた際に過剰防衛でけがを負わせて逮捕されてしまい、ネームレス配属となる。しかし、強い相手と戦えるという理由から、入隊させられたたことをそれほど嘆いてはいない。

身体能力が高く女性としては突出した力を持ち、得意技はひじ打ちとローキック。さらに修行に励むも、寝技の練習相手がいなくて困っているとか。明るく元気な性格だが、真面目すぎて人の言うことをすぐ信じるため、騙されてしまうことが多い。また、快活で人から好かれやすいが、根が単純で冗談が通じないという側面もある。ネームレス配属後はグロリアを師匠として、心のほうも鍛えていく。

ネームレス解散後は、前々から考えていた世界を巡る武者修行に意気揚々と旅立った。グロリアの元には修行の成果を知らせる手紙を送っておりいま、いまもなお師弟関係は続いている。

「心と体、どっちが欠けても本当の強さにはならないんですね！」

▼表情

アニカ　デザイン設定

グロリア・ダレル
Gloria Durrell

CV:池田千草

性別:女性
年齢:62歳
身長:160cm
人種:ガリア人
特技:昔はモテモテ、人相占い(自己流)
弱点:高所恐怖症
ネームレス入隊理由:刑事犯(武器横領)
※余罪が多くネームレスに
得意兵種:対戦車兵種、機関銃兵種

キャラクター誕生エピソード

隊員の年齢層の幅広さを表わすうえでもバアチャンを出そう、というのは初期から決まっていました。また、ネームレスや戦争について説明する長老的な役回りでもあります。本人も言っているとおり、若いときはすごい美人です。

(セガ・小澤)

「アタシはまだ現役だよ。兵としても女としてもね」

裏社会にも顔が利く「人間」を知り尽くした古参兵

酒とタバコを愛する、齢62歳を数える女性隊員。自らをババアと称するなど、バアさん呼ばわりされることに抵抗はないが、年寄り扱いされると怒る。若いころはかなりモテたとのことで、本人いわくいまも現役。

国外の武器を密輸入した容疑で逮捕されて以来、自身の希望でネームレスに残り、イムカにつぐネームレス部隊の古参として活躍してきた。あけすけで口が悪いが、基本的には面倒見がよく、女性隊員にはよく目をかけている。

娼館の女将を長く務めていたために幅広い人脈があり、ガリアの裏社会にも顔が利く。また、豊富な人生経験を経て肝がすわっており、大抵のことでは動じない。正当な手段でだけではガリアは救えないと考え、マフィアと手を組むことも。若いころに息子を亡くした際ガリア政府が非協力的だったため、それ以来政府に不信感を抱いている。

裏社会に生きるグロリアは国籍を失っても国を捨てる必要がなく、ネームレス解散後はガリアで裏社会の本業に戻った。そのなかで、表の社会から流れてくる若者にエイミーやアニカのことを語り、人の道を説く毎日を送っている。

▼表情

グロリア　デザイン設定

ヴァレリー・エインズレイ
Valerie Aynsley

No.12

CV:佐々木愛

性別:女性
年齢:28歳
身長:168cm
人種:ガリア人
特技:頭を使うこと(頭脳明晰)
弱点:味覚が鈍い
ネームレス入隊理由:刑事犯(ランドグリーズ城への無断侵入)
得意兵種:偵察兵種、支援兵種

「真実の歴史を知るには、その影に埋もれている敗者の歴史が必要なのよ」

真実の探求に自身の人生を捧げるアクティブな歴史学者

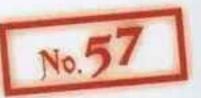
　若くして大学(ウェルキンも通うランドグリーズ国立大学)の助教授となり、歴史学者を務めていた才女。ガリア公国の歴史を探求し、「ダルクスの災厄」の裏づけをとるために政府管轄の遺跡やランドグリーズ城への違法侵入をくり返ししたため、元首がダルクス人であることを隠したい公国側から危険視され、ネームレス送りとなった。
「歴史を知ることは、世界を知ることであり人間を知ることである」という師の言葉を信じ、正しい歴史を知ることが戦争や偏見、差別をなくすことにつながると考え、ガリアの歴史を解き明かすために人生を捧げている。中立的な視点で物事をとらえ、立場や年齢に関係なく他人と接することができるが、研究に没頭するあまり、周りが見えなくなることも。
　戦後、大学での地位を失い研究を続けることはできなくなったが、他国の親交がある研究者を頼り、一からやり直すことを決意する。

キャラクター誕生エピソード

　今作がヴァルキュリア人とダルクス人をよりクローズアップするものになるので、その歴史を語れる人物が必要と思い、生まれました。知的で大人な女性ということで、雰囲気はバーロットに近いですね。　（セガ・小澤）

▼表情

ヴァレリー　デザイン設定

ザハール・アロンソ
Zahar Alonso

CV：森岳志

性別：男性
年齢：59歳
身長：172cm
人種：フィラルド王国（現帝国領）人
特技：チェス、お酒
弱点：お酒
ネームレス入隊理由：軍規違反
（酒に酔っての暴行）により義勇軍から転属
得意兵種：突撃兵種、剣甲兵種

故国の滅亡で酒におぼれてしまった フィラルド王国の元将軍

フィラルド王国出身の呑んだくれ軍人。第一次ヨーロッパ大戦によるフィラルド王国の崩壊後、傭兵として諸国を放浪した末にガリア軍に志願。実力を買われて義勇軍に配属されたが、ところかまわず酒を飲んでは問題を起こし、「アル中」の烙印を押されたうえ、ネームレス送りとなった。

一日の大半を呑んだくれて過ごしており、たびたび無責任な言葉を放つうえ、うんちくを語りだすと止まらなくなることから、ほかの隊員から疎まれていた。

でたらめな生活を送るザハールだが、かつてはフィラルド軍の優秀な将軍で、イェーガーにその座を譲り、引退し国から離れていたあいだに国を滅ぼされ、自責の念から酒におぼれてしまった、という噂がある。真偽のほどはさだかではない。また、本来は陽気な性格で、年齢や家柄など関係なく他者の意見に耳をかたむける誠実な男であったともいわれる。

終戦を機に故国のあった地へと戻り、古い人脈を利用してある人物を影ながら支援している。

キャラクター誕生エピソード

ただの酔っ払いのジイチャンがじつはイェーガーの元上官だった、という案が面白そうだったので生まれました。イェーガーとの関係が真実なのか、それとも酔っ払いの戯言なのかはみなさんのご想像にお任せします。（セガ・小澤）

「こちとらイェーガーが小便たれてた時から知ってんだ」

▼表情

ザハール　デザイン設定

ザハール・アロンソ／Zahar Alonso

No.58

シン・ヒューガ
Shin Hyuga

CV：小原雅人

性別：男性
年齢：27歳
身長：170cm
人種：ガリア人（外国人との混血）
特技：故郷の剣術、掃除
弱点：潔癖性、頭が固い
ネームレス入隊理由：軍規違反による義勇軍からの転属（じつは異国人という理由から）
得意兵種：偵察兵種、剣甲兵種

武士道の魂をその行動で体現する極東生まれの若きサムライ

旅商人として世界を旅していたガリア人の父と極東の国出身の母との間に生まれた黒髪の青年。母の死をきっかけに父とともにガリアへと移住し、救国の志を持って義勇軍に入隊するも、純粋なガリア人でないことを理由にネームレス部隊へと転属させられた。

真面目で融通の利かない性格のため、隊員たちからは気難しい人だと思われている。無口なことも近寄りがたい要素のひとつとなっている。カタブツで無愛想だが、季節の移り変わりや自然美を愛する風流な一面も持つ。国を追われた自分を受け入れたガリアに感謝しており、主君であるコーデリアに忠義を尽くしたいと考えている。同じ修行好きであるアニカに気に入られている模様。

戦後はグロリアの説得に応じてガリアを離れ、某国の港でラグナイト貿易商の用心棒として働いている。

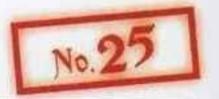
「だが、それでも自分は主君のために生き、そして死ぬつもりだ」

キャラクター誕生エピソード

サムライを出したい、ということがきっかけです。設定では混血ですが、見た目を中途半端な侍にすると伝わらないので、デザインははっちゃけました。結果的に、のちにDLCとして日本刀を配信するといった試みにもつながりました　（セガ・小澤）

▼表情

シン　デザイン設定

セドリック・ドレーク
Cedric Drake

CV：小原雅人

性別：男性
年齢：47歳
身長：181cm
人種：ガリア人
特技：なんでも
弱点：なし
ネームレス入隊理由：刑事犯（複数の凶悪犯罪）での司法取引
得意兵種：突撃兵種、機関銃兵種

戦場で英雄となることを目論む ガリアの歴史に残る希代の犯罪者

窃盗から殺人までひととおりの犯罪に手を染め、ガリアの歴史に名を残すとまでいわれる凶悪犯罪者。逮捕後、極刑が確実視されたため、司法取引をしてネームレスへと志願。恩赦を受けるのが目的だが、もうひとつ、戦場で何人殺せば英雄になれるのかを試すつもりもあって、素性と名前を隠してネームレスの一員となる。知能と体力に優れ、どのような分野であってもその才能を遺憾なく発揮する天才。

ひょうひょうとしており人当たりはいいが、目的達成のためなら味方の犠牲もいとわないドライなところがあるなど、つかみ所がない性格。

ネームレスに落ちてまで執拗に自分を裁こうとする刑事のエイダを愚か者として見下していたが、彼女に命を救われてからは、おもしろい存在であると認めるようになった。

ネームレス解散後はどこかへ身を隠し、その行方はようとして知れない。ガリア国内で凶悪犯罪があるたびにセドリックの仕業ではないかと報じられるものの、毎度ガセネタか偽者による犯行である。

キャラクター誕生エピソード

懲罰集団であるネームレスを表わすうえで、犯罪者の象徴となる隊員が必要でした。本物の犯罪者ですね。「悪いことしてるとセドリックが来るよ」とお母さんが子供に言うほど、ガリアでは名の知れた大悪党です。（セガ・小澤）

「面白いだろう？ 世界一の罪人が 世界一の英雄になったらさ」

▼表情

セドリック　デザイン設定

マルギット・ラヴェリ
Margit Ravelli

No.33

CV：池田千草

性別：女性
年齢：22歳
身長：163cm
人種：ガリア人
特技：植物の栽培（ガーデニング）
弱点：道に迷いやすい
ネームレス入隊理由：軍規違反（作戦失敗の責任をとって）。正規軍からの降格処分
得意兵種：対戦車兵種、偵察兵種

「ここにいるのが当然の貴方達とは違うの。気安く話しかけないでよね」

指揮官としての能力不足を思い悩む花を愛する名家出身の令嬢

ダモン将軍の親戚筋にあたる軍人の名家に生まれ、ランシール王立士官学校を卒業後、コネを活かしてガリア正規軍の士官となった。少尉として指揮を執るも、力不足から作戦行動において失敗が続き、ついにはネームレス送りとなってしまう。

仕官出身というプライドが邪魔をして、素直にほかの隊員たちに接することができず、ついきつい言葉が口をついて出てしまうこともしばしば。時間があるときは花の世話をしている。自信家で根拠のない発言も見られたが、クルトの指揮下で戦ううちに指揮官のありようを少しずつ学び、ほかの隊員の無事を真剣に願うまでになる。いつのころからか、クルトに対しては感謝以上の感情を持つようになった。

戦後は軍人としての本分を全うするためにガリアを出国。クルトの教えを胸に、いまも戦い続けている。

キャラクター誕生エピソード

ランシール出身の隊員が欲しくて生まれました。ヒロインのひとりがランシール出身という当初の案の名残でもあります。シリーズ伝統のお嬢様が、ネームレスに落ちてきて隊に馴染むのを描きたいというのもありました。　（セガ・小澤）

▼表情

マルギット　デザイン設定

クラリッサ・キャラハン
Clarissa Callaghan

No.46

CV:照井春佳

性別:女性
年齢:21歳
身長:162cm
人種:ガリア人
特技:編み物、ダンス
弱点:運動ベタ
ネームレス入隊理由:軍規違反(捕虜逃亡の手助け)により正規軍衛生部隊から転属
得意兵種:支援兵種、技甲兵種

儚げな雰囲気をまとう 心優しい白衣の天使

野戦病院で正規軍付きの衛生兵として働いていたが、治療していた帝国軍の兵と恋に落ち、彼を故郷に逃がした罪でネームレスに転属させられた。

儚げな表情と優しく献身的な性格で、野戦病院時代から男性に人気があった。特技はやせるために始めたダンス。衛生兵として人間の死を見続けていたことで、感情が希薄になっていたが、治療を担当していた帝国軍の捕虜に励まされて元気を取り戻す。逃亡前に彼が残した「迎えに来る」という約束を信じ、一途に相手を想い続けている。生来の優しさが自己犠牲精神の強さにつながっている側面があり、それを同僚のフェリクスに心配されることもあった。

戦後はダンサーとして旅芸人の一座に加わり、ペンダントの写真を手がかりに帝国領内で想い人を探す。無事に結ばれ、一児の母となった。

キャラクター誕生エピソード

帝国軍の兵士と恋に落ちて、そのせいでネームレスに落ちてきた白衣の天使を描きたくて生まれました。恋人が普通の一般兵だったことにショックを受けたというユーザーさんが多かったのは意外な反応でしたね(笑)。(セガ・小澤)

▼表情

クラリッサ　デザイン設定

エリオット・オーツ
Elliot Oates

No.18

CV：橋詰知久

性別：男性
年齢：36歳
身長：177cm
人種：ガリア人
特技：ビリヤード
弱点：大食漢
ネームレス入隊理由：刑事犯（結婚詐欺）
得意兵種：偵察兵種、技甲兵種

男女を問わずに鮮やかに欺く生まれついての天才的詐欺師

数々の結婚詐欺事件を起こした天才的なウソつき。義勇軍の上官が交際していた女性兵士に手を出したことが発覚したことで、ネームレス送りとなった。

一見すると物腰が柔らかく上品な雰囲気の紳士なため、男女を問わずコロッとだまされてしまう。他人を欺くことに罪悪感は持っておらず、口説き落とした女性の数は、百人を超えているという。ただし、子供をだますのは苦手。また、彼の手腕を持ってしても、ネームレスの女性隊員を口説き落とすことはできなかった。

十代のとき、本気で愛した女性との結婚を考えたが、女性の家族に結婚を猛反対されて別離を余儀なくされる。そのトラウマから女性を本気で愛することに恐怖を覚え、まっとうな恋愛ができなくなった。

戦後に国籍を失ってしまったが、女性さえいれば問題なく生きていけるようだ。しかし、いまだに初恋の女性が忘れられず、真剣な恋愛はできずにいる。

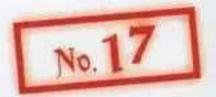
キャラクター誕生エピソード

ネームレスへの入隊理由となる犯罪を考えたときに、結婚詐欺という案が出て、そこから生まれました。本人は被害者の女性全員を愛していたので、騙したという意識はないんですけどね（笑）。（セガ・小澤）

「ぼくがネームレスに送られた理由、それは一言で言えばモテない男のひがみだ」

▼表情

エリオット　デザイン設定

イルマリ・ガソット
Ilmari Gasotto

CV:森岳志

性別:男性
年齢:29歳
身長:184cm
人種:ガリア人
特技:ラッパ演奏
弱点:女性と子供
ネームレス入隊理由:刑事犯(徴兵逃れ)
得意兵種:支援兵種、狙撃兵種

キャラクター誕生エピソード

ゲームクリア後に追加されることが決まっていたキャラクターで、風来坊の話をやりたいというスタッフの要望で生まれました。音楽とリエラが好き、という要素を追加したことでエピソードができていきました。　（セガ・小澤）

「別に死にゃあしないって。気楽にやろうぜ……」

好きな女性のためなら命を張れる放浪癖のある無気力な青年

イルマリはかつてはガリア屈指の音楽学校に在籍しており、楽器演奏を得意としていた。しかし、生来の無気力さから「面倒くせぇ」というただそれだけの理由で音楽学校を中退。それからは定職にもつかず、トランペット片手に放浪の旅を続けていた。のちに徴兵を逃れた罪でネームレスに配属される。

人や物に対する執着心がなく、ひとつの場所に長くとどまることはない。何事にも無頓着な脱力系で、何より束縛を嫌う。固定観念に縛られず自由な発想力を持っているが、行き当たりばったりでやる気がない。ただし、リエラへの愛情は純粋で、「好きなもののためなら死ねる」と言い切るほど。そのエネルギーをなぜほかのことに活かせないのか。それは人類に共通する永遠の謎である。

ネームレス解散後は、リエラを追わず再び放浪の旅に出て、各国をフラフラしている。旅の途中で釣りに目覚め釣った魚を食べながらダラダラと暮らしているようだ。

▼表情

イルマリ　デザイン設定

エイダ・アンゾルゲ

Ada Ansorge

CV：丸山未沙希

性別：女性
年齢：28歳
身長：173cm
人種：ガリア人
特技：コーヒーの知識
弱点：不器用（料理、裁縫などの家事が苦手）
ネームレス入隊理由：刑事犯（不正行為）
得意兵種：対戦車兵種、狙撃兵種

キャラクター誕生エピソード

恋愛とは違ったキャラクターの組み合わせとして、犯罪者とそれを追う刑事というコンビの案が出ました。そこでセドリックを捕まえることしか頭にない、ややサイコな刑事として誕生したのがエイダです。（セガ・小澤）

「私の魂は今でも刑事だ。甘く見るな」

セドリックの断罪に執念の炎を燃やすガリアの元エリート刑事

エイダは首都ランドグリーズの刑事だったが、犯罪者セドリックがネームレスに入隊したことを聞きつけ、自身の犯した罪を暴露してネームレスにもぐりこむ。

過去にセドリック逮捕まであと一歩と迫ったものの、彼が隠し持っていたナイフに刺され取り逃してしまう。この一件でエイダは刑事としての名誉と誇りを失い、同時に閑職へ追いやられてエリート街道から外れてしまい、人生を狂わされる。以降は彼を逮捕するという目的のために不正行為を働いたり、情報提供の見返りに犯罪を見逃すなど、手段を選ばない悪徳刑事となった。セドリックに異様なほどの執着心を持ち、彼を法の裁きの下で殺すことを強く願っている。口調はぶっきらぼうで愛想がなく、セドリック以外にはあまり興味がない。女性らしい飾りっ気もなく、濃いブラックコーヒーとタバコをたしなむ。セドリックに法の裁きを受けさせることを渇望するあまり、戦場で彼の命を助けることもあった。

ネームレス解散で国籍と刑事の職を失ったが、セドリックの逮捕はまだあきらめていない。現在はコネを使って裏社会に潜伏し、セドリックの出現を待っている。

エイダ　デザイン設定

ジゼル・フレミング
Gisele Fleming

No.26

CV:照井春佳

性別:女性
年齢:24歳
身長:156cm
人種:ガリア人
特技:火おこし
弱点:犬
ネームレス入隊理由:刑事犯(連続放火)
得意兵種:突撃兵種、剣甲兵種

キャラクター誕生エピソード

ネームレス入隊理由となる犯罪のひとつとして放火というアイデアが出てきて、そこから炎を偏愛するサイコな女の子という設定で誕生しました。ゲーム発売まえのPVでかなり人気が高かったのですが、ガチでサイコだったことでユーザーさんがやや引いちゃったみたいですね(笑)。　(セガ·小澤)

友達である紅蓮の炎と
ひとり語らうミステリアスな女性

孤児院で育ったジゼルだが、幼いころとても知能指数が高く、そのせいで対等に付き合える友だちがいなかった。能力を認められ国が管轄している研究施設に入所するも、唯一の友だち「燃える炎」との遊びが過ぎて、彼女は逮捕されてしまう。さらに服役中にも放火事件を起こしたことで、ネームレス送りとなった。

放火に対して罪悪感を抱いておらず、ネームレスに配属されたことさえも、監獄を離れられたと喜んでいる。必要以上に言葉を発することはなく、表情も豊かとはいえない。また、食事にあまり興味が無く、どんなにまずい食事でも食べられるという。非道な行ないも平然とこなすが、自分のやりたくないことはやらない。しかし、上官のクルトの命令には素直に従った。

ネームレス解散後、クルトとの別れの際に法に背くことはしないように釘を刺されたジゼルはそれを守り、山で炭焼き職人の手伝いという職を得た。たまに山を焼きたくなるが我慢しているらしい。

「……うふふ。風に乗った火薬の匂いがする……」

▼表情

ジゼル　デザイン設定

フレデリカ・リップス
Frederica Lipps

CV:津田美波

性別:女性
年齢:27歳
身長:166cm
人種:不明
特技:賭けごと
弱点:オバケが苦手
ネームレス入隊理由:軍規違反
(風紀を乱した)により義勇軍から転属
得意兵種:偵察兵種、突撃兵種

「ホント、男ってバカでかわいいんだから」

大人の色香で男性を惑わす 妖しげな魅力の情報屋

各国に情報を売り渡して生きる情報屋で、帝国や連邦、ガリアへの潜入をくり返してきたスパイでもある。そのため、各国の政府関係者や軍上層部の秘密を数多く握っている。軍の情報を得るためにガリアの義勇軍に所属していたが、正体が発覚しそうになったため、追及の手を逃れる目的で自ら軽い軍規違反を犯してネームレスに入り込む。ネームレス入隊後も、ついでとばかりに情報収集をしていたようだ。

すれっからしで、さばさばした性格。つねに余裕たっぷりで、同僚の男性隊員はおろか、上官のクルトでさえも子ども扱いすることがあった。自身の利益を第一に考えており、しかるべき代金さえ払えば、相手が誰であっても情報を提供してくれるし、場合によっては色仕掛けもいとわない。そんな彼女だが、じつはオバケが大の苦手で、ひとりで寝るのが怖いという、かわいらしい、もとい知られざる弱点を持っている。

ネームレス解散後は、本業であるスパイ稼業に戻る。ネームレス時代にかき集めた貴重なネタにはひときわ高い値段がつくという。

キャラクター誕生エピソード

色っぽい女スパイを登場させたいというのがきっかけです。ベッドの上で相手から情報を聞き出します。自分の武器をよく知っているたくましい女性ですね。　(セガ・小澤)

▼表情

フレデリカ　デザイン設定

カリサ・コンツェン
Carisa Contzen

No.63

CV:佐々木愛

性別:女性
年齢:年齢不詳
身長:161cm
人種:ガリア人
特技:お金の計算
弱点:辛いもの
ネームレス入隊理由:毒ガス砲弾の管理の責任不備として正規軍から転属(グスルグの代わりとして入隊)
兵種:戦車長

愛想のよい笑顔をふりまきながらお金稼ぎに奔走する毒舌お姉様?

経済的に困窮した家庭で育ったせいで苦労が絶えなかったカリサは、節約と処世術に長けた賢い女性になった。ガリア軍に入ったあとはネームレスのキャンプに武器・戦車パーツなどを補給する兵站部隊の兵士となる。自身の悲惨な少女時代が想起されたためか、ネームレスに肩入れしていたが、グスルグが裏切ったあとに、その責任をなすりつけられてネームレスへと送られる。

話すテンポこそおっとりしているが、内容はときに毒舌で遠慮がなく、本心がよくわからない人。苦労人なためお金への執着が強く、つねに笑顔を浮かべているのも上手に世渡りするため。一次大戦時代には戦車を乗り回していたと言われ兵士歴は短くないが、童顔なせいもあって年齢不詳。本人いわく20歳以降、歳は数えていないとのこと。

ネームレス解散後は多彩な商品を携えて各国の商業地を渡り歩いている。商いのある場所こそが自分の居場所と考え、結婚する気はまったくないらしい。

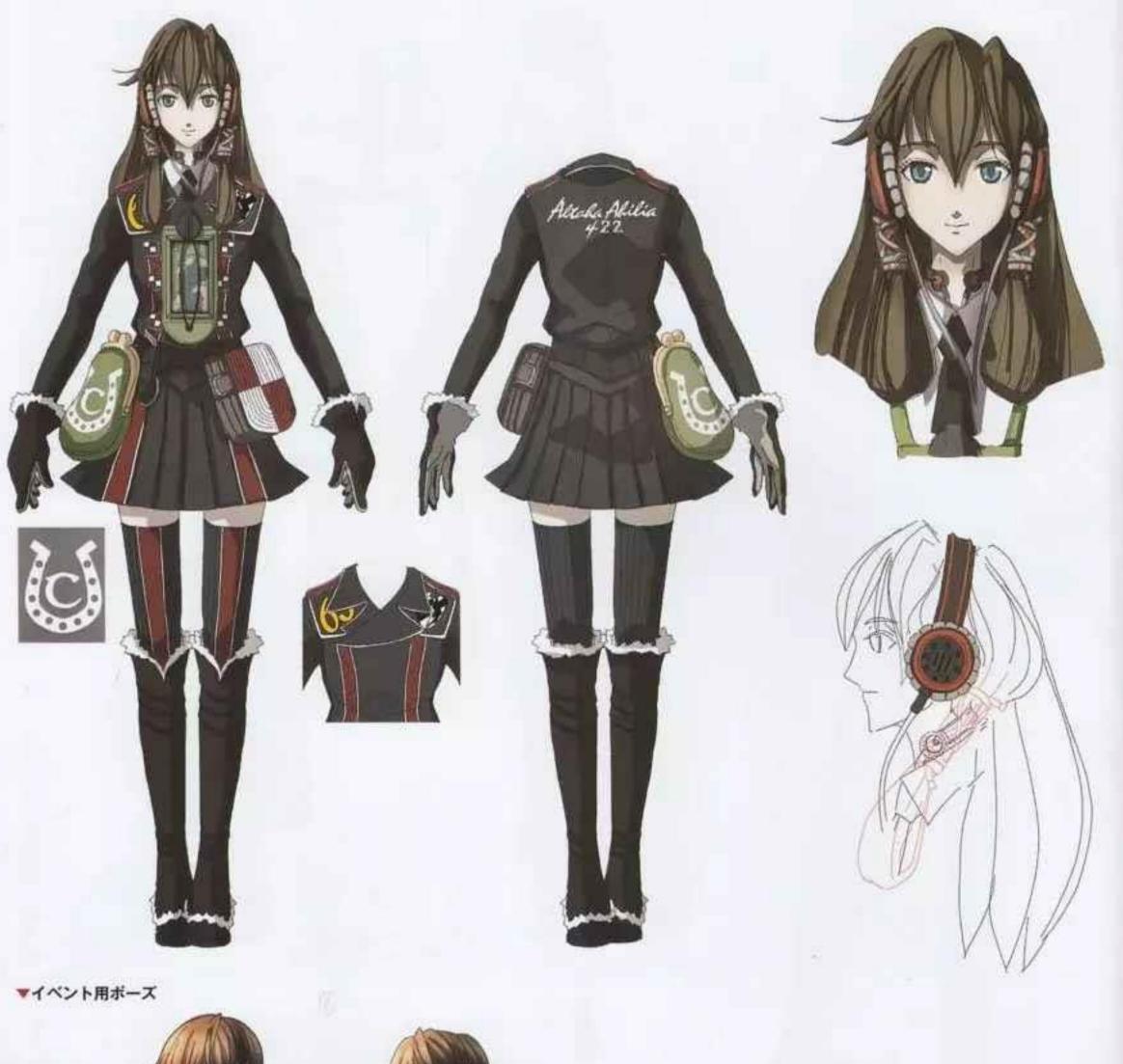
「神様はお客様、じゃなくてお金様ですよね」

▼表情

カリサ　デザイン設定

design

▼イベント用ポーズ

カリサ・コンツェン／Carisa Contzen

キャラクター誕生エピソード

店番のお姉さんというのは決まっていて、それが毒舌、さらにグスルグの後釜の戦車乗りに。また、女性隊員の年齢層が高めだったので少女案が出ました。しかし、少女の戦車乗りという部分に本山が懸念を抱き、そこで見た目は幼いけどじつはベテランで、装甲車に乗って武器を売りに来るという設定で本山を説得しましたね。　　　（セガ・小澤）

カリサ・コンツェン／Carisa Contzen

▼カリサ(正規軍)

戦車長を示すアイテムとしてヘッドセット、マップ、喉マイクなどを付けています。あとは守銭奴ということで大きなガマ口を。マークはヨーロッパで伝統的なお守りである馬蹄(ホースシュー)を模しています。年齢不詳という部分をことさらデザインに取り入れようとするよりも、単純にかわいい女の子として理屈抜きの直感で作成し、ギャップが出たほうがおもしろいと思いました。リエラを超えるくらいのつもりで、全力の直球で作りました。開発中、スタッフのあいだでも好評でしたし、人気は出るだろうなと思っていました。(セガ・田林)

アントニオ・ホセ・ロドリゲス

Antonio José Rodriguez

No.100

CV:岸野幸正

性別:男性
年齢:48歳
身長:185cm
人種:ガリア人

訓練場でネームレスの面々を鍛える職人気質の鬼教官

実戦ではたいした戦果をあげられなかったが、訓練場教官として優れた手腕を発揮し、指導訓練の内容には定評がある。すでに実戦に出ない身だったが、グスルグ離反後に造反部隊の一員として正規軍から存在を抹殺されかけて激怒。この恨みを晴らすまでは絶対に死ねないと、ネームレスと心中する覚悟を決める。

終戦後はカリサの紹介で某国の武器商の元で検品係の職を得る。なお、義勇軍第7小隊の教官で、その後ランシール王立士官学校にて教官を務めるカレルヴォ・ロドリゲスと見た目がそっくりでファミリーネームも同じだが、関係は不明である。

「よくきたな！　イヌども！」

アントニオ　デザイン設定

キャラクター誕生エピソード

前2作の教官とは別人ですが、シリーズの訓練場教官は、つねに「～・ロドリゲス」さんにしたい、と思っています(笑)。（セガ・小澤）

「100」という突き抜けた隊員番号を見ただけで、ほかの隊員とは違う立ち位置なんだなと理解しましたね(笑)。（セガ・本山）

カール・アイスラー
Karl Eisler

CV：掛川裕彦

性別：男性
年齢：42歳
身長：180cm
人種：ガリア人

策謀をめぐらして保身に奔走する ガリア公国軍に巣食う毒蛇

ガリアの士官学校を優秀な成績で卒業し、ガリア正規軍の士官となったエリート将校。ガリア正規軍では数少ない有能な仕官として軍の誰もが認める人物だった。

やや芝居がかった話し方で善良な紳士然としているが、本来は非常に用心深い策士で、都合の悪い人間は策謀をめぐらし叩き潰す執念深い性格。加えて猜疑心が強く、他人をまったく信用しない。また、女性にはまったく興味を示さなかった。

以前からガリア軍司令部の無能・無策ぶりに対して嫌悪感と強い危機感を抱いており、帝国軍とまともに戦うガリアを救えるのは優秀な能力を持つ自分だけであると考えていた。軍の中で功績を上げ、順調に出世して少将という地位を得たアイスラーは、祖国滅亡を回避したいという思惑から、ついに裏切り行為に走る。

ヴァルキュリア人を信仰対象にするユグド教枢機卿のボルジアと内通し、ガリアと帝国の戦争長期化を手伝う代わりにボルジアの支援を取り付け、軍における地位の向上を目論み、最終的に軍を掌握しようと暗躍する。そんななか、見込みのある新人士官としてクルトを執務室に招いた際に、ボルジアとの密書をクルトに見られてしまったと考え、クルトを過酷な懲罰部隊であるネームレスへと転属させる。それ以後は、自らがクルトをネームレス送りにしたことはおくびにも出さず、戦争の長期化とクルトの抹殺を実現するために、ネームレスをもっとも危険な戦場へと投入しつづけた。

上層部に不信を抱き始めたクルトが軍事法廷で余計なことを喋る可能性を危険視したアイスラーは、ネームレスを造反部隊と認定し、クルトたちを追い詰める。また、ボルジアのヴァルキュリア救世説に不都合な存在であるヴァルキュリア人のリエラ抹殺を画策。しかし、あまりにもネームレス絡みの謀略に入れ込みすぎたために周囲が見えなくなり、クロウによってボルジアと内通している動かぬ証拠を握られて、失脚を余儀なくされた。

「可能性は否定できない。ならば……決断せねばなるまい」

▼表情

アイスラー　デザイン設定

▼イベント用ポーズ

カール・アイスラー／Karl Eisler

キャラクター誕生エピソード

ボルジアが登場するまでの前半の黒幕として作ったキャラクターです。手段は選ばない男でしたが、本当にガリアのことを考えていた軍人ではあります。クルトで直接攻撃する機会を作れなかったのは、ちょっと心残りですね(笑)。

（セガ・小澤）

前作までに登場した上官はわりと無能が多かったのですが、アイスラーは貴族でありながら戦闘も指揮できるという設定でしたので、ダンディでややシリアスな軍人といった感じでまとめています。

（セガ・田林）

ラムゼイ・クロウ
Ramsey Crowe

CV：石川英郎

性別：男性
年齢：34歳
身長：191cm
人種：ガリア人

「見張りをつけるなら
せめて女にしてくれよ。
なあ？」

酒と女をこよなく愛する
ネームレスを率いるいい加減な士官

ガリア公国の辺境に領地を持つ三流貴族の出身。ガリア正規軍に所属するたたき上げの軍人だが、出自の関係ですでに出世は望んでおらず、かつての情熱も失い、捨て駒部隊ネームレスを率いる身に満足していた。軍上層部への忠誠心は皆無であり、面倒な仕事はすべて部下に丸投げするといういい加減な仕事ぶりのせいで、酒と女をとったら何も残らない、と陰口をたたかれるほど、軍のお荷物的存在。しかし、クロウは自身への評価には興味がなく、窓際の立場をそれなりに、のんびりとエンジョイしていたようだ。

酒と女が大好きで、かなりの酒豪。嫌なことがあると痛飲し、しばしば酔いつぶれたり、勢いで暴れたりする。女と見ると見境なく口説き、出会ってすぐに「今夜空いてるか？」などのセクハラまがいの誘い方をすることもある。本人はいい女を誘って何が悪いと開き直っているが、恥知らずな積極性が功を奏すのか、実際に女性にはかなりモテるようだ。

しかし、やる気がなく仕事をまったくしない「愚者としてのクロウ」は世を欺く仮面であり、本当はガリアの置かれた状況や戦況を誰よりも正確に把握している。そのため、自分の配下であるネームレスをここぞ、という最高のタイミングで戦場に投入することができ、人知れず戦局を支えている影の功労者となっていた。第三者からみると、ネームレスを適当な判断で無謀な戦線に投じているだけにしか見えないため、その評価は上がらず、危険な切れ者として上層部に目をつけられることもなかった。

上官のアイスラーを優秀だが信用がおけない人物として警戒しており、彼から下される無茶な作戦指示に辟易しつつも、中間管理職という立場上から、抗弁をせずに命令を受け入れていた。他人を褒めるのは苦手なため言葉にはしないが、クルトをはじめとするネームレスの奮戦ぶりは少なからず称賛する気持ちを持っていたようだ。

のちに、ダスルグの離反を理由にネームレスを造反部隊として陥れつぶそうとしていたアイスラーの尻尾をつかみ、軍法会議で証拠を突きつけて彼を失脚させるという大仕事を成し遂げる。

ガリアと帝国の停戦後、ダハウ掃討のために帝国領に乗り込もうとするクルトに対しては最大の敬意を払い、全員を戦死として処理したあとで「お前さんが敵じゃなくてよかったよ」と笑って送り出した。

ラムゼイは、全キャラクターのなかでいちばんウキウキしながら描いていました。ギャップがまたカッコイイですよね。魅力的なおっさんがいると物語に人間味が出てくるので、大好きなキャラのひとりです。（本庄）

イベント用ポーズ＆表情

poses and expressions

▼イベント用ポーズ

▼表情

ラムゼイ・クロウ／Ramsey Crowe

キャラクター誕生エピソード

ネームレスという特殊な部隊を率いているということで、軍人然とした上官よりも、いい加減な人物のほうが絶望感を表わせるんじゃないかと思いました。

（セガ・本山）

ネームレスのまとめ役となると、やはりエリートコースから外れた軍人のほうがふさわしい。ネームレスの愚連隊っぽさを一発で表わすデザインを希望しました。

（セガ・小澤）

エレノア・バーロット
Eleanor Varrot

CV:田中敦子

性別:女性　身長:172cm
年齢:35歳　人種:ガリア人

「時代は変わったのだ。軍も、戦争も……」

失った恋人の仇をとるために軍での出世を目指した悲運の軍人

義勇軍第3中隊の中隊長を務めるベテラン兵。一次大戦時に義勇軍へ参加し、めざましい活躍により、ガリア軍でも珍しい女性士官に抜擢された。戦火で失った恋人フレデリックの敵をとるために戦後も軍に残ってキャリアを積み、大尉にまで昇進する。ラルゴとは一次大戦時に同じ小隊で戦ったパートナー。息の合ったコンビネーションで5輌もの敵戦車を撃破するという大戦果をあげ、勲章を授与されたこともある。戦後ラルゴが軍を離れたために、士官と下士官という階級差がついたが、互いの信頼はかわらず厚かった。

長らく帝国への復讐に呪縛されたエレノアだったが、ラルゴの影ながらの支えにより、心を囚われた生き方から解放される。

ウェルキン・ギュンター
Welkin Gunther

CV:千葉進歩

性別:男性　身長:175cm
年齢:22歳　人種:ガリア人

「家族なら遠慮してすれ違うより、ぶつかり合ってお互いを知る方がずっといいんだ」

自然をこよなく愛する英雄の血を引く放任主義の智将

前大戦の英雄として活躍したいまは亡きベルゲン・ギュンター将軍の息子で、軍の入隊後に義勇軍第3中隊第7小隊隊長となった智将である。優しく穏やかな好青年で、大学では生物社会学を専攻し、動物や虫の研究に没頭していた。

ひょうひょうとしているが、争いが生物の本質であることを自然界から学んでおり、隊員同士のケンカをあえて仲裁しないなど、独自の哲学に基づいた放任主義をとる。指揮官としての能力は高く、優れた手腕で隊を率いて戦場を駆け抜けた。

ガリア戦役後は、きびしい戦いのなかで自身の補佐役をまっとうし、かけがえのない存在となったアリシアとともに生きる道を選ぶ。軍を退役後にアリシアと結婚し、南部ガリアの学校にて教鞭をとる身となった。休日にはアリシアと仲良く花や虫の観察に出かけているようだ。戦場で失った妹「イサラ」の名をつけたひとり娘がいる。

アリシア・メルキオット
Alicia Melchiott

CV:井上麻里奈

性別:女性　　身長:159cm
年齢:19歳　　人種:ガリア人(ヴァルキュリア人)

パン屋になることを夢に描く明朗快活な第7小隊のまとめ役

ブルールの孤児院で育った、パン屋になることを夢見る女性。義勇軍第3中隊第7小隊の所属でウェルキン・ギュンター少尉付きの下士官を務める。ヴァルキュリア人の末裔だが、本人は気づいていなかった。

孤児院では人と仲良くすることの大切さを教えられたが、その教えに忠実であろうとするあまり、いつしか本音を隠し、他人との衝突を避けるようになっていた。放任主義のウェルキンを補佐し、部隊の中心として奔走するうちに、家族のように本音をぶつけ合える仲間がいることの素晴らしさを学ぶ。

退役後、心と身体に美味しいパン作りを目指したアリシアは、パンのマイスター試験に合格し、ウェルキンと結婚。周囲にはヴァルキュリア人であることを隠したまま、ウェルキンとのあいだに授かった愛娘「イサラ」を育てている。

イサラ・ギュンター
Isara Gunther

CV:桑島法子

性別:女性　　身長:152cm
年齢:16歳　　人種:ダルクス人

技師として兄とともに運命と戦ったダルクス人の儚き少女

天才的技師であった父テイマーの死後、ベルゲン・ギュンター将軍に引き取られ、ウェルキンの義妹となったダルクス人の少女。兄ウェルキンとともに戦うため、義勇軍第3中隊第7小隊の戦車操縦士となる。

とても素直で優しい性格だが、自身の信念に関してはテコでも動かない頑固さも併せ持つ。ダルクス人を嫌い何かと辛らつな態度をとるロージーとは口論が絶えず、いつも一歩も退かずに反論して周りの隊員を驚かせていた。イムカの携行武器ヴァールをひとめ見て詳細な改良点を指摘できるほど、技師として高いセンスと技量を持つ。余暇を利用して独自に飛行機の研究をし、大空を自由に舞う夢を描いていたが、征暦1935年8月23日、マルベリー海岸戦において戦死。イサラに世話になったイムカは、密かに彼女に謝辞を述べる機会を待ち望んでいたが、その願いが叶うことは永遠になかった。

「兄さんと共に戦うために
私も義勇軍に志願しました」

ラルゴ・ポッテル

Largo Potter

CV：江川央生

性別：男性　身長：185cm
年齢：36歳　人種：ガリア人

若者たちに道を指し示す野菜大好きな優しきベテラン兵

ガリア義勇軍第3中隊第7小隊所属の古参兵。一次大戦で義勇軍に参加して以来、勇猛な軍人としてつねに前線で士官を支えてきた。何度か昇進の機会はあったがすべて辞退し、最前線に出られる軍曹に留まった。隊では、実戦経験の浅いウェルキンたちを指導する立場として、その技量を活かす任に就く。

自身の肉体の8割が野菜でできていると主張し、「野菜万歳！」とまで叫ぶほどの猛烈な野菜好き。野菜の栽培も大の得意で、軍事施設内にある畑は彼が無断で作ったものである。

上官のエレノアとは同期。当初は反目していたが、のちに戦友として互いを認めあう仲となる。恋人の死によって復讐の念に囚われていたエレノアの心を解放したのもラルゴだった。ガリア戦役後、ついにエレノアにプロポーズする。

「誰も腹を割って話してくれないのも辛い。そんな環境で人は育たねぇ」

ラルゴ・ポッテル／Largo Potter

ロージー（ブリジット・シュターク）

Rosie[Brigitte Stark]

CV：豊口めぐみ

性別：女性　身長：168cm
年齢：27歳　人種：ガリア人

ダルクス人を激しく憎む男勝りな戦う歌姫

義勇軍第3中隊第7小隊に所属する血気盛んできっぷのいい切り込み隊長。従軍前に酒場の歌姫をしていたため、当時の芸名である「ロージー」と呼ばれている。

ダルクス人の多く住む地域に産まれ育つが、帝国のダルクス人狩りに巻き込まれたことで家族を失い、ダルクス人に対し逆恨みからくる敵対心を持つようになった。しかし、ダルクス人のイサラと出会い、本音をぶつけ合ったケンカをくり返したりともに戦場で戦ううち、自身の偏見に満ちたダルクス人観を徐々に改めていく。イサラの戦死後は彼女の死を悼み、自身の差別意識を完全に捨て去った。

退役後は再び歌姫として生きる道を選ぶ。戦場で散っていった者たちのために歌を歌い、のちにヨーロッパを代表する世界的な歌手となる。

「ダルクス人になめられるぐらいなら死んだ方がマシさ！」

ロージー（ブリジット・シュターク）／Rosie[Brigitte Stark]

イーディ・ネルソン
Edie Nelson

CV:鹿野優以

性別:女性　身長:157cm
年齢:17歳　人種:ガリア人

わがままな性格で周囲を振り回す第7小隊の自称アイドル

　ガリア義勇軍第3中隊第7小隊に所属する自称アイドル。幼いころからチヤホヤされて育ったため、自己顕示欲が強く、わがまま放題の傲慢な娘になってしまった。語尾に「ですわ」とつけるお嬢様言葉を使うが、名家の生まれというわけではない。自分より注目されている人物に対して強いライバル心を抱く困った性格で、元歌姫のロージーを一方的にライバル視していたが、まったく相手にされていなかった。本隊とはぐれたときに持ち前の行動力を活かして臨時の「イーディ分隊」を勝手に作り、以後は分隊長として彼らを従えて行動していた。
　退役後、歌って踊れる本物のアイドルを目指すも、致命的に歌が下手であることに(ようやく)気がつき女優志望に転向。国民的女優を目指し、いまも努力を続けている。

「またひとつわたくしの伝説が生まれてしまいましたわね！」

ホーマー・ピエローニ
Homer Pieroni

CV:庄司宇芽香

性別:男性　身長:160cm
年齢:15歳　人種:ガリア人

ピンチになればなるほどより快感が高まるレイラの弟

　ガリア義勇軍第3中隊7小隊に所属する柔和な雰囲気を漂わせる軍人。天使のようにおだやかで、繊細な心の持ち主。生まれつき体が弱く、軍人には向かない体質だったが、危機的な状況に追い込まれるほど快感を得られるという、難儀な性癖を持っていることに気がつき、あえて義勇軍に志願した。その人格が形成された理由にはサディスティックな気質の姉、レイラの影響もあったと思われる。イーディの分隊に自ら望んで入っているのもそのためで、彼女の叱責すら彼にとってはこのうえないご馳走であった。
　ガリア戦役後も、周囲の反対を押し切って義勇軍に留まる。当然ながら、危機的な状況にあってもつねに微笑みを絶やさないため、事情を知らない者は彼を尊敬し、英雄視しているという。

「ふふ……死と絶望と快楽の待つ戦いのはじまりだよ」

スージー・エヴァンス
Susie Evans

CV：戸塚利絵

性別：女性　　身長：158cm
年齢：19歳　　人種：ガリア人

家名とか弱き人々を護るために戦争に参加した深窓の令嬢

スージーはガリア辺境の資産家の令嬢として育った。戦争を嫌悪する博愛主義者だが、家名の存続と、戦争を早く終わらせて犠牲者を減らすために、あえてガリア義勇軍に志願。義勇軍第3中隊第7小隊所属となる。

箱入り娘だったため、じつにおっとりとした性格。また、世情や相場にも疎く、お金で苦労したことがないため、とても気前がいい。自ら軍に入ったとはいえ、本来は争いごとが苦手なため、戦場で傷つく人を見るたびに強く心を痛めている。

ガリア戦役後は周囲の反対を押し切って私財を投じ、戦争被災者のための支援施設を開設。二度と戦争の悲劇が起こらないよう願いつつ、彼女自身も被災者の救済活動に奔走する毎日を送る。

「殺すのも……殺されるのも……もうたくさん……」

ヤン・ウォーカー
Yang Walker

CV：平井啓二

性別：男性　　身長：187cm
年齢：27歳　　人種：ガリア人

ムキムキの筋肉をこよなく愛する可憐な乙女の心を持った青年

筋骨隆々としたたくましい大男。しかし、見た目とは裏腹にその心は女性的で、とても繊細な性格。面倒見のよさを活かし、戦前はベビーシッターをしていた。

筋肉美を愛し、美しい筋肉を持つ男性に目がない。義勇軍の第7小隊に入隊してからはラルゴに想いを寄せており、よく菓子や弁当の差し入れをしていた。ラルゴには気が利く奴だと思われる程度であり、最後までその気持ちが報われることはなかった。

戦後は故郷に戻り保育施設を開園。普段は保育士、ときに用心棒として、エプロン着用で子どもたちの世話を焼いている。子どもたちからは親しみをこめて『ヤンヤン』と呼ばれている。

「これぞ筋肉の極致よ！」

マリーナ・ウルフスタン
Marina Wulfstan

CV：阿川りょう

性別：女性　身長：165cm
年齢：24歳　人種：ガリア人

狙った獲物は逃さない孤独を愛する第7小隊の凄腕ハンター

義勇軍第7小隊に所属する孤独を愛する美しきハンター。猟師の娘として生まれ、物心ついたときから父親に狩りの技術を叩き込まれている。銃の腕前は他人に邪魔されない状況でこそ真価を発揮するため、自分のペースを崩されることを嫌い、つねにひとりでいることを好む。戦場ではその高い射撃技術を活かして活躍した。
　ガリア戦役後は父親の跡を継ぎ猟師となる。狙った獲物を撃ちもらすことはなく、凄腕の猟師として名を馳せる。かわいい動物を好み、ケガをしている小動物は家に連れ帰り、傷が癒えるまで保護しているようだ。

「ずっと独りでやってきた…」

リィン
Rein

CV：川庄美雪

性別：女性　身長：160cm
年齢：20歳　人種：ダルクス人

恋人の力になるために危険な戦地に赴いた心強き女性

義勇軍第7小隊所属のダルクス人の女性。帝国の迫害を逃れるために身を隠して暮らしていたが、恋人のカロスを支えるため、自ら義勇軍へ志願した。
　従軍前は銃器に触れたことすらなかったが、カロスにより素質を見いだされ、短期間でかなりの実力を身につけることができた。孤独を苦手とする奥ゆかしい性格をした女性だが、心の芯は強い。戦後は無事にカロスと結婚し、故郷のファウゼンに戻る。子どもを授かってからはダルクス人以外の住民とも積極的に交流を持つようになり、ダルクス人への偏見をなくす運動を始める。

「我らダルクスの誇りと共に…」

ヴァイス・イングルバード

Vyse Inglebard

CV:河本啓佑

性別:男性／年齢:17歳

困難な状況ほど燃える熱い男

義勇軍第7小隊所属の隊員。アイカとともに世界中を冒険しており、ヨーロッパ大陸から遠く離れた異国の地からやって来たという。未知なるものを求めて、つねに新しい冒険を求めており、空についての話を始めると、止まらない。トレードマークは右目のゴーグルで、銃だけでなく剣の扱いも並々ならぬものがある。

「いいねぇ！ 大ピンチってやつだ！」

「まだまだこっからよ！」

アイカ・トンプソン

Aika Thompson

CV:藤堂真衣

性別:女性／年齢:17歳

粘り強い性格でヴァイスとは幼なじみ

義勇軍第7小隊所属の隊員。ヴァイスとともに異国からやってきた。竹を割ったような物言いの明るい女の子で、幽霊とゴキブリが大の苦手。大きく編み込んだ髪と大きな瞳がチャームポイントで、おてんば娘のように見えるが、髪をほどいておろした姿はなかなかの美人だとか。

ファイナ・セラーズ

Fina Sellers

CV:池田千草

性別:女性／年齢:17歳

じつは三つ子の三姉妹で、みな衛生兵

義勇軍第7小隊所属の衛生兵。献身的な看病で兵士の心身を癒しており、男女を問わず人気がある。普段はヴァイス、アイカといっしょにいることが多い。おとなしく物静かだが、以前はもっと寡黙だったという。戦場のどこにでも駆けつける脚力と勇敢さは外見からは想像もつかないが、くぐってきた修羅場の数は歴戦の兵士に勝るとも劣らないと、彼女をよく知る者は語る。

「ヴァイス！ 今助けます！」

バルドレン・ガッセナール

Baldren Gassenarl

CV：緑川光

性別：男性　**身長**：186cm
年齢：24歳　**人種**：ガリア人

崩れ行く祖国の現状を憂いて新秩序による国家を形作ろうとした剛の者

ガリア公国の名門貴族、ギルベルト・ガッセナール伯爵の長男として生まれ育ち、現在は北部攻撃軍第一大隊の隊長を務める軍人。軍事的才覚に恵まれ、あらゆる兵科をこなす天才肌の青年で、戦場では自ら最前線に出向く勇猛果敢さで味方を鼓舞する。高い志と高潔な政治理念を抱く理想家でもあり、腐敗しきった政府や軍司令部、臆病な貴族の姿を見てガリアの行く末を憂い、ガッセナール家を中心とした新しいガリアを妹のオドレイとともに構想、乱れきった祖国を改革する機会を虎視眈々と狙っていた。また、ガリア人こそがもっとも優れた民族であるという選民思想を持っているために、ダルクス人に対しては強い敵がい心を抱き、大陸からダルクス人を殲滅することに並々ならぬ力を注いでいた。

ガリア戦役後、コーデリア大公がダルクス人の血統であることを国民に明らかにしたことを重大な裏切りととらえて激昂。ガリア人によるガリアの統治を国民に訴えて、一族とともに革命闘争を開始し、ガリアに血で血を洗う内戦を引き起こすことになる。

オドレイ・ガッセナール

Audrey Gassenarl

CV：川澄綾子

性別：女性　**身長**：170cm
年齢：23歳　**人種**：ガリア人

冷徹なリアリズムを武器に戦うヴァルキュリアを信奉する「鋼馬の戦乙女」

ガリア公国の名門貴族、ギルベルト・ガッセナール伯爵の長女でバルドレンの妹。北部攻撃軍第一大隊の副隊長として兄を補佐するポジションに就いていた。敬虔なユグド教徒であり、ヴァルキュリアを信奉している。

激情家の兄とは対照的に、つねに物事を冷静にとらえて合理的に考える理性を持つリアリスト。政治と軍略の両面で非凡な才能を発揮し、戦闘で挙げた数々の功績により帝国軍から「鋼馬の戦乙女」と呼ばれ、恐れられる。祖国の行く末を案じており、兄と共にガッセール家中心とした国家統治のビジョンを描いていた。

ヴァルキュリアの末裔であるとされるランドグリーズ家に長らく仕えてきたが、ガリア戦役後にコーデリア大公がダルクス人であることを公にしたことで、一族とともに革命闘争を決意。内乱を起こし、「偽りのないガリア統治」の実現を目指した。

レオン・ハーデンス
Leon Hardins

CV:保志総一郎

性別:男性　身長:185cm
年齢:19歳　人種:ガリア人

輝ける未来が約束されていたガリアの英雄候補でアバンの兄

義勇軍第3中隊第4小隊に所属する対戦車兵を務める青年で、階級は軍曹。アバン・ハーデンスの実兄で、アバンからは頼りになる兄として非常に尊敬されていた。快活で義心にあふれる人柄は誰からも好かれ、勇敢さと優れた指揮能力も備える英雄の卵。義勇軍入隊後、戦闘中に隊長が逃亡したのを契機に、第4小隊の隊長代理として隊員を率いる身となった。故郷で自警団を率いていた経験を活かして隊をまとめるが、自分にきびしい彼はつねに力量不足を感じていたようだ。

ガリア戦役後、「赤き獅子」と称された実績を評価され、ランシール王立士官学校へ編入する。しかし、同校に在籍中に課された特殊任務についたのを最後に、その消息を絶ってしまう。

「指揮官は最後まで戦う姿勢を隊員達に示すものだ」

レオン・ハーデンス／Leon Hardins

ユベール・ブリクサム
Hubert Brixham

CV:置鮎龍太郎

性別:男性　身長:180cm
年齢:32歳　人種:ガリア人

いかなる状況にも冷静に対処できるガリアを代表するクールなスナイパー

「蒼き死神」の異名をとるガリアでも有数の狙撃兵。つねに笑みを絶やず、どんな危機な状況にも平常心で対処できるため、戦場では抜群の戦果をあげた。ひょうひょうとしていて、一見すると他人に興味がなさそうな印象を受けるが、じつは好奇心が強く、かなりのお節介焼き。興味を持った隊員の素性を知るために、わざわざ相手のもとに出向くこともあった。ナジアル会戦において目を負傷してしまい、狙撃兵の命である視力が低下。軍人としての未来を絶たれた彼は退役を決意する。

ガリア戦役後は、軍上層部にそれまでの功績を認められ、彼自身の母校でもあるランシール王立士官学校の教官となり、若き士官候補生の育成に力をそそぐこととなった。

「強いて言えば……悩める若者を放っておけないからでしょうか」

ユベール・ブリクサム／Hubert Brixham

アバン・ハーデンス

Avan Hardins

CV：吉野裕行

性別：男性　身長：170cm
年齢：15歳　人種：ガリア人

優秀な兄に近づくために奮闘する熱意だけは人一倍の駆け出し自警団員

ガリア南部にあるメルフェア市で暮らす少年。快活で常識にとらわれない性格だが、熱くなると猪突猛進気味になる。父親は幼少のころに病気で他界しており、父親の記憶がほとんどなく、アバンにとっては実兄のレオンが、兄であり父がわりでもあった。そのため、自警団の団長であった優しく勇敢なレオンに強い憧れと尊敬の念を抱いており、彼のような男になることを目標にしている。メルフェアでは、自警団の一員として戦いに参加。メルフェアに接近した強大な帝国軍に対して一歩も引くことなく、彼らの侵攻をネームレスの協力を得て食い止めた。

戦後もメルフェア市で暮らしていたが、ある日、ランシール王立士官学校に編入したレオンの突然の死を伝えられ、兄の死の真相を知るためにランシール王立士官学校への入学を決意する。

ゼリ

Zeri

CV：神谷浩史

性別：男性　身長：177cm
年齢：15歳　人種：ダルクス人

ダルクス人の地位向上を目標に英雄への道を選んだ熱き志を秘めた少年

ランドグリーズに住むダルクス人の少年。大人びた雰囲気があり、つねに冷静に判断を下しながら行動するクールな性格。ガリア人の多い首都で生まれ育ったため、小さいころから人種的な迫害を受けてきた。そのため、ダルクス人への蔑視に対しては熱くなることもしばしばで、ダルクス人であるというだけで盗人扱いされたときは一歩も引かずに憤然と容疑をかけた相手に抗議をくり返したほど。

周囲のガリア人にダルクス人の実力を認めさせることが、自分たちへの差別的な待遇を改善する近道であると考え、あらゆる方面で人一倍の努力を重ねる。クールな彼だが、勝負事では誰に対しても絶対に負けたくないと思っていた。

戦後、学業での優秀な成績と高い運動能力を買われ、ランシール王立士官学校に入学。ダルクス人の社会的地位を向上を実現するために、軍人としてガリアの英雄になることを目標とし、勉学にいそしむ毎日を送る。

コゼット・コールハース
Cosette Koolhaas

CV:喜多村英梨

性別:女性　身長:158cm
年齢:15歳　人種:ガリア人

両親を失っても気丈に振る舞いみんなのために医学を志す健気な少女

ガリア中南部にあるユエル市で暮らしていたが、帝国の攻撃により家を追われ、避難キャンプで負傷者の治療の手伝いをしていた少女。帝国軍の侵攻を受けた際に目の前で両親を殺されてしまい、血の色である「赤」がトラウマとなった。そのせいで心因的な色覚異常を患ってしまうが、孤独と悲しみを心にしまいこんで周囲に笑顔を振りまいていた。かなりのドジっ子だが天性の明るさと真面目な性格ゆえに、失敗してなお周囲から愛されるタイプ。避難キャンプでの生活から自分の進むべき道は医学にあると考え、父と同じ医師を目指そうとする。
戦後も医学を志して勉学に励むが、経済的理由から医大への進学を断念。特待制度のあるランシール王立士官学校に入学し、医療技術を学ぶ。士官学校ではアバンやゼリといった、心を許せるに友人に恵まれたようだ。

「お父さんの代わりに
わたしがお医者さんになるって
決めたんだもの」

ユリアナ・エーベルハルト
Juriana Eberhardt

CV:白石涼子

性別:女性　身長:165cm
年齢:15歳　人種:ガリア人

名門貴族としてのプライドを胸に高潔な軍人を目指す美しき令嬢

名門貴族エーベルハルト家の令嬢として生まれ、英才教育を受けて育つ。ガリアを代表する軍人になることを目指し、ランシール王立士官学校に入学。才能に恵まれ努力を怠らない彼女は、在学直後からずば抜けたリーダーシップとカリスマ性を発揮し、ほかの学生を引っ張る存在となる。
在学中、ナジアル平原の近くで帝国軍に遭遇し、思いがけぬ形で実戦を経験することになったユリアナは、義勇軍のレオンの助力を得て部隊を率い、勝利を収める。レオンとは互いを認める仲となりのちの再会を約束するが、待ち受ける皮肉な運命をこのときのふたりは知るよしもなかった。
ガリア戦役後もランシール王立士官学校に在学し、もっとも優秀な生徒が集まるA組で学級委員長となる。みずから先頭に立ち周囲を率いることは、彼女にとって貴族としての当然のつとめなのだ。

「志ある者は共に戦え！
私は逃げも隠れもしない!!」

ジェンナーロ・ボルジア

Gennaro Borgia

CV:田中秀幸

性別:男性
年齢:63歳
身長:164cm
人種:帝国人

「王も皇帝も人民もみな我とヴァルキュリアの元にひれ伏す……」

理想のために人の命をもてあそぶ
ヴァルキュリアを信奉する狂信者

ヴァルキュリアを信仰対象とする「ユグド教」の枢機卿。古の民であるヴァルキュリアが人類を救済するという「ヴァルキュリア救世説」を唱え、一次大戦以降長く続く戦乱で疲弊した庶民から熱烈な支持を得る。そのことで急速に信徒を増やし、教団内での地位を高めていった。

宗教的浄化と称してヨーロッパ大陸全土をユグド教義に統一することで、はじめて真の平和が訪れるという狂信的な妄執にとりつかれ、その実現のために自身がユグド教団の最高権力者となり、国家を越えた大陸の頂点に君臨しなければならないと考えていた。

自らが選ばれた人間であると確信しており、目的のためならどのような犠牲もいとわず、良心の呵責も感じない。戦乱で命を落とした人々の魂を救済するという建前の裏で、数多くの信者を獲得するために、戦争の長期化を目論む。そのためにガリア公国の将兵アイスラーに接近して彼を影ながら支援し、帝国においてはダルクス人活動家だったダハウとその組織を子飼いの部隊「カラミティ・レーヴェン」として帝国軍に編入させる。

政治的なセンスに長けており、戦争を早期に終結させそうな軍事的才覚に優れた人間をいちはやく嗅ぎつける能力も備えていた。帝国の司令官であるマクシミリアンをとくに危険視し、彼の動きを封じるため、政治的圧力をかけてダハウ率いるカラミティ・レーヴェンをマクシミリアンの配下に送り込み、最終的には暗殺を狙う。しかし、ダハウが目指すのはあくまでもダルクス人の民族的自立であり、マクシミリアンに恩を売りたいという思惑から一定の友好関係を保ったため、マクシミリアンの暗殺が実現することはなかった。

伝説のヴァルキュリアが現われたあとの混乱のなか、クロウの告発によってアイスラーが失脚。順風満帆だったボルジアの運命は暗転、綿密に練った計画に徐々にほころびが見え始める。ダハウに対しガリア首都ランドグリーズの爆破によるアイスラーの抹殺を命ずるも、ダハウはこれを拒否。アイスラーの口封じに失敗したボルジアは教団を追放される。弾道兵器「ヴァルキュリアの鉄槌」を切り札として戦争継続をもくろむが、その切り札はダハウによって自身の命とともにを奪われてしまう。結果、戦争を利用することでユグド教への民衆の支持を集め、自らがその頂点に立つというボルジアの企みは公にはならず、大衆には善人と思われたままその生涯を終えた。

▼表情

▼イベント用ポーズ

ジェンナーロ・ボルジア／Gennaro Borgia

キャラクター誕生エピソード

帝国側にダルクス人の部隊を所有し、戦争の延長をもくろむ黒幕が必要でした。兵器商人と宗教家という案があったのですが、後者として生まれたのがボルジアです。リエラを消そうとする理由もできたのでちょうどよかったですね。（セガ・小澤）

顔と衣装のデザイン検討案

実際の枢機卿の服装というのは、わりとシンプルなんですね。それだと町の司祭さんにしか見えないので、威厳を出すために帽子がどんどん大きくなり、それに合わせてローブもゆったりとしたものに変わっていきました。帽子や衣装のあちこちにユグド教のイメージである螺旋のデザインを取り入れています。　　（本庄）

ジェンナーロ・ボルジア／Gennaro Borgia

ボルジア　初期デザイン

early design

黒幕という設定を聞いていたので、最初に描いたのは下のような悪役顔でした。でも、登場時は素性を隠しているということで、善人顔にしたのですが、笑っている顔だと、それはそれでうさんくさいんですね。そのあたりのバランスが難しいキャラクターでした。　（本庄）

ダハウ

Dahau　CV:山寺宏一

性別:男性
年齢:28歳
身長:180cm
人種:ダルクス人

「それで千年続く
ダルクスの国家が生まれるなら本望だ!」

ダルクス人の恒久的独立という崇高な目的へまい進する偉大な英雄

帝国軍に所属する、ダルクス人のみで構成される特別遊撃部隊カラミティ・レーヴェンの隊長で階級は大尉。万事において余裕を見せる正真正銘の英雄肌で、長期的な戦略眼にも優れ、負ける戦はしない。ゆえに敗北を知らない男と呼ばれ、戦っても戦わなくても強い男であると、味方はおろか敵からも高く評価されている。ダルクス人からは民族のシンボルとして全幅の信頼を寄せられており、ダハウ本人もダルクス人が優秀な民族であることに絶対的な自信を持っていた。自信に裏打ちされた余裕から、他人をバカにすることは一切ない。また、銃弾を恐れず、狙撃兵の銃弾を避けたというにわかには信じがたい逸話を残すが、真相は謎である。

政治的・軍事的能力に優れているだけはなく、士気と気位の高さも帝国軍随一であり、上官と相対したときも言葉遣いとしては上下関係を守るが、それはあくまで言葉のみで、態度は対等であった。

もともとはダルクス人活動家だが、戦争継続を目論むボルジアが手駒として利用するため、帝国軍にねじ込んだ。本来はダハウにとって敵対関係であるはずのユグド教のボルジアだが、手駒として動く代わりに近い将来に帝国領内にダルクス人独立自治区を建設することを認めさせることに成功する。

のちにボルジアが失脚し、ダルクス人独立への道が閉ざされたあとは、理想を実現するためにボルジアを殺害して弾道兵器「ヴァルキュリアの鉄槌」を強奪。武力恫喝によって独立国家の建国を目指す。再びダルクスの災厄を巻き起こし、後世に大罪人の名を残すことも辞さぬ覚悟だったが、クルト率いるネームレスによって理想とともに討ち果たされる。武力による独立が彼の歩むべき道ではなかったと妻の幻に諭され、英雄は静かにこの世を去った。

ダハウ／Dahau

キャラクター誕生エピソード

ダルクス人の英雄という設定は最初に決まってから揺るぎませんでした。人間として欠落している部分はあっても戦闘員として極めて優秀なクルトの上を行くには、ダハウが完璧な人間である必要がありました。また、強い信念を持っていることですね。ネームレス対カラミティ・レーヴェンというのは、虐げられた者同士の戦いなので、ただのテロリストにならないように気をつけました。（セガ・小澤）

イベント用ポーズ&表情

▼イベント用ポーズ

▼表情

ダハウ／Dahau

ダハウ　イメージスケッチ

ドライシュテルンの横に並んでも遜色ないようなカッコよさを目指して、デザインしました。マントは比較的簡単に威厳が出るアイテムなのですが、ダハウは(司令室でふんぞり返っているタイプではなく)戦場で前線に出る指揮官なので、ダメージを受けた感じを出すようにつとめました。その点と鎧に関しては苦労した記憶があります。ラスボスですから、やりすぎても違和感が出てしまいますからね。髪型についてもわずかですが調整をくり返しました。短髪がいちばん軍人らしいのは確かですが、キャラクターメイキングとなると、そうもいきません。彼はプレイヤーをさんざん苦しめることになる好敵手で、それに釣り合った魅力が外見にも内面にも必要ですから。　(本庄)

各種デザイン

Design

敵将でありながら、非常に魅力的な人物であるダハウは、戦闘服のデザインにおいてもさまざまな案が検討された。各部アーマーやマントなど、ここで紹介しているのはほんの一部であり、描かれたデザイン案は数十パターンが存在する。

▼軍服デザインの検討

▼アーマーパーツデザインの検討

■胸部アーマー

■腰部アーマー

ダハウは指揮官でありながら、もっとも危険な前線に自らが出て、部下の士気を高めるタイプ。それを表わすような傷や弾痕が表現されたアーマーが描かれている。カリスマ性を高めるマントの色や形も各種検討されたが、採用されたのはボロボロになったものであり、ダハウが歴戦の勇士であることを物語っている。

▼マントデザインの検討

ダハウの妻ミガ

ダルクス人の独立という理想実現のためダハウとともに戦い、戦死したダハウの妻。死の間際、彼女はダハウに「千年続く国を作ろう。未来に生きる子や孫達が笑顔で暮らせる世界を作ろう」と言い残したという。夢なかばで倒れたダハウのもとに幻として現われ、最期を看取った。

ダハウの専用武器

戦闘においてもオールマイティなダハウは、どんな武器も使いこなす。物陰に隠れるような戦い方をせず、戦場のど真ん中に立ち、近づく敵に重機関銃やガトリングガンによる容赦ない銃弾を浴びせる。また、敵戦車に対しても対戦車槍を持ち出し、一歩も退かない。

▼重機関銃

▼ガトリングガン

▶対戦車槍

ダハウ　初期デザイン

early design

最初は神殿騎士というイメージがあって、ユグド教の意匠を取り入れた鎧や剣を身に着けています。ちょっとファンタジー色が強すぎたので、ここから軍服のものにシフトしていきました。
（本庄）

ユグド教の騎士という初期案のときに描いたものです。宗教的なイメージを表わすためのアイテムとしてフードを描いています。（本庄）

リディア・アグーテ

Lydia Agthe

CV：久川綾

性別：女性
年齢：22歳
身長：172cm（帽子で＋5cm）
人種：帝国人

ファミリーネームを激しく憎む
自由奔放で富と権力が大好きな悪女

カラミティ・レーヴェンに所属するダハウ大尉の副官。口が悪くて計算高く、欲望に忠実で、いやがらせが大好きな根っからの悪女。カラミティ・レーヴェンの目付役としてユグド教のボルジアによって送り込まれており、同部隊で唯一ダルクス人ではない。褐色の肌が示すように生粋の帝国人でもなさそうだが、当人はとくに気にかけていなかった。アグーテという姓は、孤児だった彼女にユグド教団が与えたもの。存在しない架空のファミリーネームを心の底から憎み、部下にはリディアさん、リディア様と呼ばせていた。

他人を信用しておらず、民族的な信条、理念などはうさんくさいお題目であるとしか考えない。理想主義者の多いダルクス人を疎ましく思い、上官のダハウに対しても忠誠心はかけらもなかった。

ボルジアの裏の顔を知っているが、便乗して富と権力を手に入れるには好都合と解釈しており、定期的に手柄を立てて、したたかにボルジアに媚びることを忘れなかった。敵であっても味方であっても、いろんな意味で厄介な女性であり続ける。

ネームレスから寝返ったグスルグをスパイと見下し、戦場に送り続けて殺そうと企てるが、執念をもって生還をくり返す彼に辟易する。しかし、高潔な理想を語りつつ最終的には手段を選ばないグスルグに、ほかのダルクス人にはない自分と同じにおいをかぎ取り、彼に大しては強い興味を持つようになる。

のちにグスルグは己の理想実現のためにリディアの想いを利用し、捨て石にする作戦を実行。それを理解しつつもなお、リディアはグスルグのために戦うが、愛機シャカールが大破し、ネームレスに敗退。それなりの満足感を感じつつ、短い生涯を終えた。

「……今のアンタ
銃を向ける前よりも好きよ。
最低野郎だけどね」

リディア・アグーテ／**Lydia Agthe**

リディア　デザイン設定

キャラクター誕生エピソード

寝返ったグスルグが加われば3人になるので、当初はダハウとジグのふたりだけだったんです。ですが、ふたりだと話がまわらないのと華がないことで、やはり女性の副官が必要となり、生まれたのがリディアです。従順な副官だとセルベリアと同じなので、悪女という案が出て、そこからボルジアの犬という設定につながりました。

（セガ・小澤）

イベント用ポーズ&表情

▼イベント用ポーズ

グスルグとの関係

グスルグとの大人の恋愛を描くという狙いもあったのですが、最終的には利害が一致したパートナー止まりでした。あそこでふたりが死なずにもう少し時間があれば、恋愛に進展したかもしれませんが。ふたりの最後の会話シーンは、もっとエロく演じてくださいとお願いしました。（セガ・小澤）

▼表情

軍服と肌色の検討案 Design

前作でオドレイを褐色の肌にしたかったのですが、人物の設定上無理でした。リディアは一部の層に受ければいい、ということで念願叶って褐色の肌に。腰の銃は、モーゼル・ミリタリーという実際にある銃をカスタムしたものです。リディアは戦車乗りで、戦車は鉄馬ともいいますので、ウェスタンブーツを取り入れました。拍車をつける案もあったのですが、それはナシに。マントは、フードつきで、ユグド教のものですね。（本庄）

リディア　初期デザイン Design

右と左下の初期案だと、ややクールで理論的に相手をいたぶる感じですね。あと、帝国の軍服と軍帽はすごく合うので、軍帽はぜひ入れたかった。ただ、軍帽は深くかぶらないとかっこ悪いので、髪型が隠れても深くかぶらせています。　（本庄）

ジグ
Zig

CV：入野自由

性別：男性
年齢：18歳
身長：164cm
人種：ダルクス人

けがれのない心で戦場を駆け抜けた ダハウに心酔する ダルクス人の純粋な少年

ダルクス人活動家だったダハウの組織に所属し、帝国軍人となったあとはカラミティ・レーヴェンにおいてリディアの補佐役を務める若さと勢いが取り柄のダルクス人。裏表が無く、発言もストレート。つねに前向きで明るく、女性と子どもに親切で、能力がある者は誰であっても認める素直な性格であった。ダハウに心酔していたが、ダルクス人の自治区建設という思想よりは、むしろダハウの英雄的な部分に憧れており、自身も英雄として名を残すことを望んでいた。カラミティ・レーヴェンがダルクス人としての正義を具現化したものであることを信じて疑わない。その主張はけがれを知らぬ少年そのものであり、彼のまっすぐな言葉はときとして大人の心を深くえぐった。

ダハウの期待を受け、部隊の前線指揮官を任されるが、経験不足で脇が甘いため重要な作戦には起用されず、リディアからはいつも坊や扱いされていた。そんな辛い状況もポジティブに解釈し、自分には無限の可能性があると信じて、意地の悪いリディアには時折反発するものの、ダハウには忠実に仕え続ける。

ダルクス人の流儀以上に正義を重んじ、非道な作戦も担当するネームレスを目の仇にする。とくにネームレスに所属するダルクス人のグスルグとイムカを同胞であるがゆえに許すことができず「ダルクス人の誇りはないのか！」と問いかけていた。

敵の首都であるランドグリーズを爆破することで、同胞のダルクス人にも大きな犠牲が出るという局面に立たされたとき、ジグが選んだのは現実的なダルクス人独立への道を模索し続けるダハウに忠実であり続けることだった。しかし、ダハウの理想実現のためにあえて自らの手を汚そうと、ランドグリーズ爆破の道を選んだグスルグの心情にも理解を示し、グスルグとリディアの最後の出撃を見送った。

征暦1935年10月15日、ネームレスとの戦いの渦中で戦死。退かず、恐れず、ネームレスの前進を阻止し続けたが、ついに力尽きる。ダハウへの忠誠心が揺らぐことは最期までなかった。

「オレには夢がある！
実現しなければならない独立という理想がある！」

ジグ　デザイン設定

キャラクター誕生エピソード

ダハウに心酔する副官として作りました。ダハウ様は銃弾を避けたことがあるんだ！とダハウの凄さを説明する役回りですね。ダハウがそれを自分で言うとかっこ悪いので(笑)。ダルクス人の理想を何の汚れもなく真正面から語れる人でもあります。　（セガ・小澤）

単純な行動原理と、あふれ出る若さが売りのジグ君。『戦場のヴァルキュリア』シリーズでは、敵役にフレッシュさが足りなかったので、ジグ君は新鮮な感覚でデザインした記憶があります。立場が違えば主人公になれたかもしれない熱血っぷりに、非常に好感が持てます。彼と戦っていると、こちらが心配してしまうほどの若さあふれる行動に驚かされたり、貴重な体験でした。　（本庄）

ジグ／Zig

イベント用ポーズ&表情

poses and expressions

▼イベント用ポーズ

▼表情

ゲーム中で気持ちよく負けてくれる役ですね。覚えてろよ！と捨てゼリフを吐いて、走り去っていけるキャラクターですね。（セガ・三神）

途中段階の案では、マッチョで傷だらけのオヤジ（編集部注：P228参照）というときもあったのですが、少年になってよかったですね（笑）。（セガ・本山）

ジグ　初期デザイン

early design

マクシミリアン
Maximilian

CV：福山潤

性別：男性　身長：180cm
年齢：29歳　人種：帝国人

亡き母に帝国への復讐を誓う能力至上主義の非情な準皇太子

帝国軍ガリア方面侵攻部隊総司令官で階級は大将。帝国の準皇太子で、政治面と軍略に才能を発揮した稀代の英雄。庶子であるがゆえに幼いころから辛酸をなめ尽くし、母まで殺害されたため、他人を信頼しない冷徹な性格となる。帝国に対する忠義心はまったくなく、逆に強い憎しみを抱いていた。才能ある者は身分に関係なく取り立てる徹底した能力至上主義者で、イェーガーやセルベリアといった人材を世に送り出し、各地の戦線で勝利を重ねていく。登用した人物の能力以外を見ていないため、自身に尽くすセルベリアの愛にも一切関心を持たず、心を開くことはなかった。ダハウに対しては能力を評価するも、彼の見せ掛けの忠誠心に警戒心を抱く。

ランドグリーズ城に隠された古代兵器「ヴァルキュリアの聖槍」を巨大陸上戦艦マーモットに装備し、母を殺した帝国に復讐して、ヨーロッパ全土を掌握する野望を抱いていたが、第7小隊との戦いで戦死する。イェーガー隊を破ったガリア義勇軍討伐のため、マーモットを首都ランドグリーズから動かしたことが、結果的に命取りとなった。

マクシミリアン／Maximilian

セルベリア・ブレス
Selvaria Bles

CV：大原さやか

性別：女性　身長：175cm
年齢：22歳　人種：帝国人（ヴァルキュリア人）

決して報われぬ愛にヴァルキュリアの命を燃やす悲運の女性

マクシミリアン準皇太子直属の将兵にして、ガリア方面侵攻部隊指揮官「ドライ・シュテルン」のひとり。東ヨーロッパの出身のヴァルキュリア人だが、帝国の侵攻時に捕らえられ、フェルスターの研究所で非道な扱いを受け続ける。研究所から救い出してくれたマクシミリアンには崇拝にも似た愛情を抱き、絶対の忠誠心をもって戦場を駆け抜け、彼の野望を支える。イムカの故郷を奪い、彼女の仇となったのもセルベリアである。

ギルランダイオ要塞を急襲したネームレスからマクシミリアンを守るため、ヴァルキュリアの力を解放。圧倒的な力を見せつけるものの、のちに第7小隊の奮戦によってギルランダイオ要塞の防衛に失敗し、捕虜となる。それでもなおマクシミリアンに忠実であり続け、ヴァルキュリアの最期の炎を燃やし、要塞に集結したガリア軍を道連れに壮絶な爆死を遂げた。

セルベリア・ブレス／Selvaria Bles

ラディ・イェーガー
Radi Yaeger

CV:大塚明夫

性別:男性　身長:181cm
年齢:36歳　人種:フィラルド王国(現帝国領)人

「亡国の将軍に誉れなんてもんはないいさ」

多くの人々から信望を集める懐の深き亡国の将軍

マクシミリアン準皇太子直属の将兵で、ガリア方面侵攻部隊指揮官「ドライ・シュテルン」のひとり。敵に対しても敬意を払う騎士道精神を持ち、冷静な判断力を兼ね備える歴戦の名将。
帝国によって滅ぼされたフィラルド王国の出身で、マクシミリアンに才能を見出され、帝国軍の一翼となる。優れた軍事的才覚と寛容な精神を備えており、部下からの信頼も厚かった。とくにダルクス人の独立を目指すダハウとは、言葉にせずとも心に通じ合うものがあったようだ。
亡国の将として祖国再興を願いつつ、過酷な戦いに身を投じていたが、ヴァーゼル市での戦闘において第7小隊に完敗。そのあとはマクシミリアンのもとに戻ることなく、いずこかへ姿を消す。以後の消息は、誰にもつかめていない。

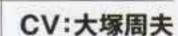
ベルホルト・グレゴール
Berthold Gregor

CV:大塚周夫

性別:男性　身長:192cm
年齢:51歳　人種:帝国人

「犠牲を省みずただ勝てばよいなどという戦い方は許されんのだ」

皇帝と帝国の隆盛にすべてを捧げるマクシミリアン配下の智将

マクシミリアン準皇太子直属の指揮官「ドライ・シュテルン」のひとり。皇室とのつながりが深い伯爵家の出身である。趣味はチェスで、凄腕のイェーガーと互角の腕前を誇っていた。皇帝を唯一無二の存在として絶対の忠誠を誓い、帝国による大陸統一の戦いにその身を捧げる。大国の威信が傷つくような姑息な戦術を好まず、帝国らしい圧倒的な戦力差をもって敵を圧倒する作戦を自らの王道と定めていた。ほかの帝国人と同様、ダルクス人に快い感情を持っておらず、ダハウの進言に対しても取りつくしまのない対応を見せた。
ファウゼンにてガリア義勇軍第3中隊に自ら搭乗した装甲列車エーゼルを峡谷に落とされ、その生涯を終える。

クレメンティア・フェルスター

Clementia Forster

CV：小山茉美

性別：女性　**身長**：175cm
年齢：37歳　**人種**：帝国人

ヴァルキュリア人研究を至上とする冷酷無常な女マッドサイエンティスト

帝国のヴァルキュリア研究者。ヴァルキュリア研究施設で数々の人体実験を行ない、結果としてセルベリアを覚醒させるという大きな成果をあげた。自身の研究こそ絶対とする価値観を抱いており、人間らしい憐憫の情や倫理観を微塵も持ちあわせていない。セルベリアに対しする非人道的な実験にも良心の呵責を一切感じることはなく、のちにマクシミリアン配下となった彼女に対してモノにでも接するような冷酷な態度を見せた。

その後、リエラという新たなる研究材料を発見し、興味を持つ。彼女がヴァルキュリアとしては欠陥体と判明し、やや興味は薄れるも、ヴァルキュリア同士の戦いからデータを得るために、槍と盾をリエラに残していく。ヴァルキュリア研究施設の支援者であったマクシミリアンが戦死したあとは、ガリアへと亡命。その際、ヴァルキュリア人の子供を連れていたことが確認されている。

「この程度しか保たないのか。出来損ないめ」

一般市民と軍人

戦火のなか暮らす民間人と各陣営の軍人たち。ダルクス人は男女ともダルクス模様の布を身に着けているのが特徴。ガリア軍の戦闘服は、正規軍、義勇軍ともにガリア公国の国旗と同じガリアントリコロールの青・赤・白からなる。

一般市民男性

一般市民女性

子供

貴族

ダルクス人男性

ダルクス人女性

ガリア義勇軍兵士

ガリア正規軍兵士

ガリア正規軍兵士

ガリア正規軍兵士

帝国軍兵士

帝国軍兵士（リーダー）

カラミティ・レーヴェン兵士

カラミティ・レーヴェン兵士

私服デザイン

リエラのエンディングで結婚式に参列する元ネームレス隊員達が着るスーツとドレスのデザインを掲載。また、アバン、ゼリ、コゼットの全身デザイン設定画も併せて紹介する。

クルトとリエラの結婚を祝うため、華やかな装いで再集結したネームレスの面々。イムカ、アニカ、ヴァレリーは、やはりドレスではなくスーツでの出席だが、右の設定画では茶色のドレスの上にヴァレリーの顔が置かれている。

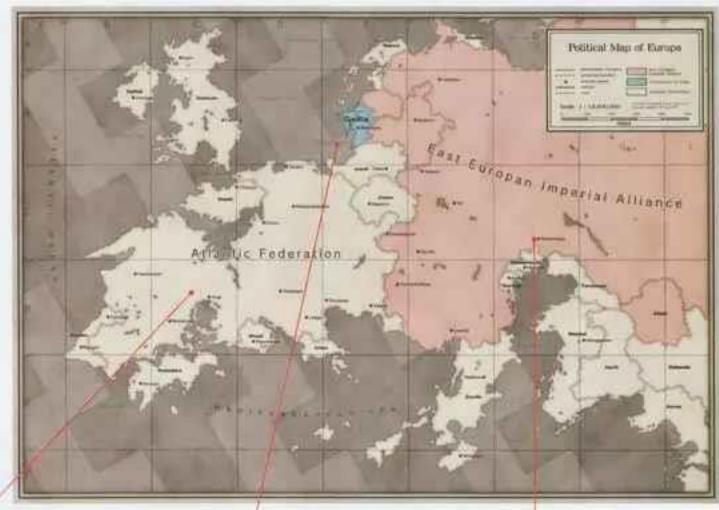
アバンは、所属しているフットボールチーム「FCメルフェア」の練習用ジャージの上に自警団用のフードを被っている。ゼリは、いかにもダルクス人というファッションで、左腕にダルクス布を巻いている。医療活動にいそしむコゼットは、女の子らしいピンクの服とミニスカートの上に白衣を着用。

戦場のヴァルキュリア3
UNRECORDED CHRONICLES
軍事と博物

Militaly Affairs
and
Natural History

時代背景と戦争の展開

1935年のヨーロッパ

かつてダルクス人に焼き尽くされ、救世主ヴァルキュリア人に救われたとされる大地、ヨーロッパ。人々は、ダルクス征伐を起点とする紀年法「征暦」で歴史を刻み始める。征暦初頭にはヴァルキュリア人が全域を治めていたが、彼らは数世紀で衰退し、ほぼ絶滅。中世以降は、諸民族の専制国家が割拠する状態が続く。18世紀に産業革命が起きると、西部の国々は相次いで共和制に移行。一方、専制君主制が温存された東部では、各国の連合によって巨大帝国が誕生する。危機感を覚えた共和制諸国は、安全保障のため連邦機構を樹立。ヨーロッパは二極対立の時代を迎える。20世紀初頭、両勢力は全面戦争に突入。この大戦は、火種を残したまま終結する。そしておよそ20年の時を経て、二度目の大戦が勃発。帝国は資源確保のため、中立国ガリアにも侵攻する。

北大西洋連邦機構

市民革命を経て共和制を採用した西部諸国が、強大な帝国に対抗するために樹立した安全保障機構。「連邦」の通称で呼ばれる。勢力は帝国を上回るが、独立国家群のゆるやかな集合体であり、代表者である連邦議長の権限も強くないため、加盟国間の足並みが乱れやすい。

ガリア公国

小国の多くが二大勢力に併呑されるなか、独立を貫く立憲君主制国家。国主を世襲するランドグリーズ家は、ヨーロッパ最古の家系とされる。武装中立の国是のもと、全国民に軍事教練が課されており、有事の際には正規軍のほかに、民間人によって義勇軍が組織される。

東ヨーロッパ帝国連合

東部の専制君主制国家群の支配層が、婚姻などによって同族化していった結果、誕生した同君連合。連合と称してはいるが、実質的には皇帝が支配する単一専制国家で、統治体制や国風は旧態依然としている。また、他国に比べてダルクス人差別が激しい。通称「帝国」。

ガリア戦役の概略

開戦後、帝国軍は1ヵ月足らずで北部ガリアの大部分を制圧。しかし、義勇軍第3中隊第7小隊に要衝を奪還され、勢いを失う。そのあとは各地で一進一退が続くが、6月から8月にかけ、第7小隊が帝国の中核兵器や主要指揮官を相次いで撃破。ガリア軍は徐々に戦線を押し上げていき、9月にはナジアル平原での総力決戦に勝利する。帝国軍は10月初頭、首都を電撃的に占領して起死回生を図るが、占領部隊が第7小隊に討たれたのを受けて完全に撤退。戦争は終結する。

1935年3月時点での両軍の支配領域

主要な交戦地

首都ランドグリーズ
円環状の城壁に囲まれた美しい都市。ガリア戦役末期、超兵器マーモットに急襲され大きな被害を受けた。

ファウゼン
ガリア随一の工業都市。ガリア戦役の初期に帝国に占領され、ラグナイトの供給地として利用された。

ヴァーゼル市
橋を中心に発展した商業都市で、首都防衛の要衝。序盤戦で帝国に奪われるが、第7小隊がすぐに取り返した。

アントホルト
古くから栄えてきた、ガリア有数の港町。帝国に占領されはしなかったが、ゲリラ的な攻撃を何度か受けた。

アスロン市
ガリア中部の主要都市のひとつで、首都防衛の重要拠点。ヴァーゼル市とほぼ同時期に奪還された。

ユエル市
大学を中心に発展してきた学術都市。この地を占領した帝国は市民を追い出し、戦略拠点として利用した。

メルフェア市
南部ガリアと首都とをつなぐ街道上に位置する交易都市。帝国の巨大戦車の奇襲で大きな被害を受けた。

ギルランダイオ要塞
帝国との国境に建つ巨大要塞。緒戦で帝国軍に占領され、終戦の直前まで司令部として利用された。

ボーガー市
国境近くに位置する、跳ね橋で有名な地方都市。帝国による占領の際に、多くのダルクス人が命を奪われた。

ブルール
東部国境近くの田舎町。風車が多いことで知られる。ガリア戦役の最初期に、帝国軍に蹂躙された。

ナジアル平原
ガリア北東部に広がる、荒涼とした大平原。ガリア戦役の大勢を決する一大会戦の舞台となった。

バリアス砂漠
ダルクス人が太古に焼き払った土地とされる大砂漠。第7小隊と、帝国軍総司令官マクシミリアンが交戦した。

クローデンの森
天然の要害である南部の森林地帯。開戦後、大部分が帝国の勢力下に置かれ、補給基地が設営された。

ネームレスを中心に見る二大部隊の足跡

左ページで見たように、ガリアが帝国を退けられたのは、義勇軍第3中隊第7小隊の奮闘によるところが大きい。彼らは戦後、英雄と称えられた。しかし戦争の舞台裏に、第7小隊に劣らない活躍をした部隊がいたことは、ほとんど知られていない。それがガリア正規軍422部隊、通称ネームレスである。懲罰部隊である彼らは、時には軍の捨て駒として、ときには自発的に過酷な任務を担い、ガリアの勝利に大きく貢献した。公式記録に残されなかったネームレスの足跡を、第7小隊の主要な動きと併せてたどっていく。

懲罰部隊期　1935.03～07

3月15日：帝国がガリア公国に宣戦布告。
4月1日：ヴァーゼル近郊での戦闘 …… A
4月3日：クルトがネームレスに転属。 …… 01
4月14日：「春の嵐」作戦に参加し、ヴァーゼル市を奪還。 …… A
4月中旬：アスロン市を奪還。 …… 02
5月上旬：ネームレス、メッペルから地雷原を突破して東進。
　支援を受けた第7小隊が帝国軍大隊に勝利。 …… 03・B
5月中旬：ボルジア枢機卿護衛任務を受諾。
　護送中、中継地ブリーデンで帝国軍を撃退。 …… 04
5月中旬：カラミティ・レーヴェンの待ち伏せを受け、枢機卿を奪われる。 …… 05
5月下旬：ユエル市奪還作戦に参加。奪還を成功させる。 …… 06
5月下旬：市民の要請を受け、メルフェア市を急襲した巨大戦車エヒドナを撃退。 …… 07
5月下旬：クローデンの森の帝国軍補給基地を攻略。 …… C
6月上旬：帝国領に侵入し、国境近くの補給基地を破壊。 …… 08
6月中旬：バリアス砂漠でマクシミリアンの乗機ゲルビルと交戦し、撃破。 …… D
7月中旬：北部攻略作戦「山の断き」に参加し、戦果を挙げる。 …… 09
7月中旬：ボーガー市での避難民護衛に参加。
　正規軍の指示が原因で、ダルクス人避難民が帝国軍に虐殺される。 …… 10
7月中旬：マクシミリアン暗殺計画を決行。未遂に終わるも、
　帝国軍司令部に危機感を与え、帝国軍の攻勢を弱める結果をもたらす。 …… 11
7月下旬：北部奪還作戦に参加するが、作戦開始直前にグスルグが逃亡。
　友軍の敗走を招き、責任を問われる …… 12

1935年4月、「春の嵐」作戦直後の両軍の支配領域

逃亡期　1935.07～10

7月下旬：バリアス砂漠の友軍救出任務を受諾するが、
　任地でガリア軍から奇襲を受け逃走、反逆者とされる。 …… 01
7月下旬：ユエル市で市民の援助を受ける。 …… 02
7月下旬：ランドグリーズで公女誘拐未遂「七月事件」が発生。
　誘拐を阻止する。 …… A
8月上旬：メルフェア市に入るが、追撃を受け、補給を果たせないまま逃走。 …… 03
8月上旬：アントホルト市で、クロウ中佐の支援により補給に成功。
　海路を使うことで足取りを消す。 …… 04
8月上旬：ハールスン港に上陸。 …… 05
8月上旬：ファウゼンで、帝国の支配下にあった鉱山を解放。 …… 06
8月上旬：ファウゼンを奪還。敵将グレゴールを敗死させる。 …… B
8月上旬：カラミティ・レーヴェンの首都ランドグリーズ襲撃を阻止。 …… 07
8月23日：マルベリー海岸の帝国軍拠点を攻略。イサラ戦死。 …… C
9月13日：ブルールを奪還。 …… D
9月22日：両軍の総力戦であるナジアル会戦が始まる。
　戦場で、ネームレスと第7小隊が密かに再会。
　両部隊の活躍で、9月28日、ガリア軍が会戦に勝利する。 …… 08・E
10月上旬：ガリア軍の帝国軍追撃を密かに支援。ボーガー市で、
　反撃を受けた正規軍を救助する。その後、
　クロウ中佐の要請を受けてランドグリーズ方面へ移動。 …… 09

1935年8月、ガリア軍のファウゼン奪還直後の両軍の支配領域

名誉回復後　1935.10～

10月上旬：アイスラー少将の背信の証拠を掴んだクロウ中佐を護送。
　軍事法廷で、アイスラーがネームレスを陥れたことが発覚し、
　ネームレスの容疑が晴れる。 …… 01
10月上旬：イムカの行動を支援するため、ギルランダイオ要塞を襲撃。
　イムカ、セルベリアに一騎打ちを挑むも退けられる。 …… 02
10月7日：ギルランダイオ要塞攻略作戦に参加。
　敵将セルベリアを捕虜とする。翌8日、セルベリアが自爆し、
　ガリア軍主力が壊滅。 …… A
10月8日：陸上戦艦マーモットがランドグリーズを急襲。
　阻止作戦「乙女の盾」に参加するも、突破と首都占領を許す。 …… B
10月9日：マーモットを攻撃するため、帝国軍が守るヴァーゼルを突破。 …… C
10月10日：グスルグが計画したランドグリーズ爆破を阻止。 …… 03
10月10日：ランドグリーズから打って出たマーモットを撃破。
　マクシミリアンの敗死により、帝国軍の敗北が決定的となる。 …… D
10月中旬：ダハウの、弾道兵器による首都攻撃計画を察知し、阻止を決意。
　戦後交渉への影響を鑑みて、ガリア軍から離脱する。
　敵将ダハウを敗死させ、弾道兵器「ヴァルキュリアの鉄槌」を破壊。
10月25日：ネームレス解散。 …… 04

1935年10月、帝国軍による首都ランドグリーズ占領直後の両軍の支配領域

※01、02などの数字はネームレスの動き、アルファベットは第7小隊の動きを表わす。

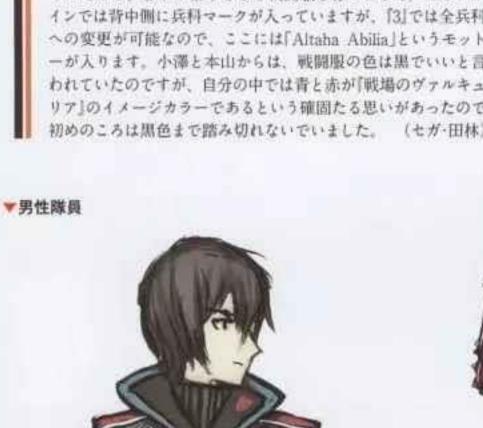
戦闘服

ネームレスの戦闘服は、8つの兵科の特徴に合わせたデザインが作成され、兵種変更時にモデルにも反映される予定だった。しかし、各キャラクターの個性を生かしたデザインが優先されたため、ここで紹介する各兵科の戦闘服デザインは、ゲストキャラクターのモデルに反映されることとなった。

ネームレスの戦闘服

標準戦闘服初期原案

今回はキャラクターごとに服装を変えるということが決まっていたので、まずは基本となる戦闘服を作りました。このデザインでは背中側に兵科マークが入っていますが、『3』では全兵科への変更が可能なので、ここには「Altaha Abilia」というモットーが入ります。小澤と本山からは、戦闘服の色は黒でいいと言われていたのですが、自分の中では青と赤が『戦場のヴァルキュリア』のイメージカラーであるという確固たる思いがあったので初めのころは黒色まで踏み切れないでいました。（セガ·田林）

▼男性隊員

▲女性隊員

黒が不安だったので、最初の青から徐々に濃くしていきました。この画像はその途中のものですね。「これくらいでどうでしょう？」「いや、もっと黒く」というやりとりが何回かありました（笑）。腰のアーマーや女性隊員の脚部に入っている四角い迷彩柄も『戦場のヴァルキュリア』のシンボルのひとつなのですが、これもなくすことに。『3』ではそれくらい変化が求められていました。（セガ·田林）

偵察兵

すべての兵科のベースとなるもので、この偵察兵に要素を加えていくことで、ほかの兵科の戦闘服を作っていきます。そのため、いちばん初めに作りました。このデザイン画では、背中のモットーに「Go for Broke」という、古いものが入っていますね。　（セガ・田林）

突撃兵

肩と腰、胸にそれぞれアーマーをつけています。胴体の赤いラインを1本にするか2本にするかは、キャラクターごとにハマるほうを選びました。また、足元は、男性が特殊部隊っぽい編み上げのブーツ、女性はレギンスでダボッとしたズボンにしています。　（セガ・田林）

対戦車兵

シルエットだけで各兵科の違いがわかるように、ワンポイントで特徴づけるというデザイン上のリクエストがありましたので、対戦車槍を撃つ際に前面に出る左側にアーマーをつけています。（セガ・田林）

支援兵

支援兵は、ゲーム上では回復と弾薬の補給というふたつの役割を持っていますが、デザイン上では衛生兵という側面に重きを置いています。そこで後ろから見てわかるよう、衛生兵を表わす白いカバンを腰の左右につけました。中には医療道具が入っています。（セガ・田林）

技甲兵

デザイン画では盾が３枚構成ですが、最終的には５枚に増えました。ゲーム中では省略して一気に盾を展開しますが、実際には自分で１枚ずつ並べています。ネームレスのエンブレムをエンボスで入れる案は、残念ながらゲーム中で実現できませんでしたね。（セガ･田林）

狙撃兵

前作の狙撃兵はポンチョをつけていましたが、今作では肩アーマーになっています。また、作戦上、狙撃兵は1ヵ所に長時間留まり、場合によっては数日間そのままということもあるので、水や食事を携行するためのバックパックを持たせています。（セガ･田林）

機関銃兵

突撃兵よりも大きめの腰アーマーと、弾倉が入ったバックパックを背負っています。機関銃兵は手に持つ銃がゴツくて、それだけで兵科の特色が出るので、機能よりもシルエットを重視しました。（セガ・田林）

剣甲兵

前作の剣甲兵が攻守両面で強すぎて、今回は防御面を少し抑え目にするという観点から、盾が小さくなっています。あと肩のアーマーに入っている白いラインは味方識別用で、「く」の字形状のラインは戦車の側面などにも採用しています。（セガ・田林）

ガリア正規軍の戦闘服

今回は主人公の部隊が、帝国軍と正規軍の両方から追われる立場になるということで、敵として登場するガリア正規軍も必要でした。ガリア軍は青のイメージですが、ゲーム上の記号としてリーダーは赤というのがあったので、赤い部分を取り入れています。　（セガ・小澤）

≪カラミティ・レーヴェンの戦闘服

帝国の一般兵よりも強いということを表わすため、相手に恐怖や威圧感を与えるドクロのヘルメットをつけています。カラミティ・レーヴェンのマークであるカラスなどが金色なのは、自分たちが強いという自信と、ボルジアの後ろ盾による資金力の表われですね。　　（セガ・田林）

重装甲兵に見る階級による差異

帝国軍の戦闘服

帝国兵の機関銃兵と剣甲兵は、今作で初登場です。同じく新登場となる重装甲兵のデザインはより強く、というリクエストでした。頭部をより西洋甲冑に寄せた案は『戦場のヴァルキュリア』1作目のころから画策しては没っていましたが、ようやく落とし込めて実現することができました。（セガ·田林）

重装甲兵に見る階級による差異

歩兵用銃火器

歩兵用の装備は兵科ごとにまとめて支給されるが、隊員の能力が十分に発揮されるよう個別の銃火器を使用することも許されている。また、敵から奪った装備を鹵獲武器として使用することもある。なお、銃火器の形式番号は、基本的に数字が大きいほど威力や命中精度が高まる。

ネームレス用サブマシンガン

T-MAG

全長：790mm
銃身長：492mm
口径：9mm
発射数：20
重量：3600g

T-MAG-1～T-MAG-3

T-MAG-4～T-MAG-6

T-MAG-7～T-MAG-F

ネームレス用サブマシンガン

マグスA

全長：992mm
銃身長：459mm
口径：9mm
発射数：20
重量：4830g

マグスA-1～マグスA-3

マグスA-4～マグスA-6

マグスA-7～マグスA-F

ガリア正規軍用対戦車槍

ランカーR

全長：3320mm
口径：122mm
発射数：1
重量：22.5kg

ランカーR-1～ランカーR-3

ランカーR-4～ランカーR-F

帝国軍用対戦車槍

VB PL

全長：3366mm
口径：105mm
発射数：1
重量：18.8kg

VB PL-1～VB PL-3

VB PL-4～VB PL-F

帝国軍用対戦車槍

VB PLX

全長：3366mm
口径：155mm
発射数：1
重量：22.8kg

VB PL-1～VB PL-3

VB PL-4～VB PL-F

帝国軍用対戦車槍

VB HPL

全長：3428mm
口径：105mm
発射数：1
重量：24.5kg

VB HPL-1～VB HPL-F

ネームレス用迫撃槍

ディール

全長：3010mm
口径：196mm
発射数：1
重量：18.3kg

ディール-7～ディール-F

ガリア正規軍用迫撃槍

ランカーshR

全長：3250mm
口径：155mm
発射数：1
重量：17.3kg

ランカーshR-1～ランカーshR-3

ランカーshR-4～ランカーshR-F

帝国軍用迫撃槍

VB HMTX

全長：3400mm
口径：155mm
発射数：1
重量：25.4kg

VB HMTX-1～VB HMTX-F

帝国軍用迫撃槍

VB MT

全長：2755mm
口径：155mm
発射数：1
重量：17.8kg

VB MT-1～VB MT-3

VB MT-4～VB MT-F

帝国軍用迫撃槍

VB MTX

全長：3125mm
口径：155mm
発射数：1
重量：19.2kg

VB MTX-1～VB MTX-3

VB MTX-4～VB MTX-F

ネームレス用ピストル

バイパー

全長：430mm
銃身長：282mm
口径：7.65mm
発射数：6
重量：1440g

バイパー-1～バイパー-3

バイパー-4～バイパー-6

バイパー-7～バイパー-F

ネームレス用ピストル

バイパーS

全長：445mm
銃身長：432mm
口径：7.65mm
発射数：6
重量：1980g

バイパーS-1～バイパーS-3

バイパーS-4～バイパーS-6

バイパーS-7～バイパーS-F

ネームレス用ピストル

バイパーA

全長：435mm
銃身長：377mm
口径：26.6mm
発射数：6
重量：2230g

バイパーA-1～バイパーA-3

バイパーA-4～バイパーA-6

バイパーA-7～バイパーA-F

ガリア正規軍用ピストル

バイパーR

全長：675mm
銃身長：375mm
口径：7.65mm
発射数：6
重量：2350g

バイパーR-1～バイパーR-3

バイパーR-4～バイパーR-F

帝国軍用ピストル

ZM34

全長：455mm
銃身長：375mm
口径：7.65mm
発射数：6
重量：1880g

ZM34-1～ZM34-3

ZM34-4～ZM34-F

帝国軍用ピストル

ZM34X

全長：424mm
銃身長：343mm
口径：7.65mm
発射数：6
重量：1910g

ZM34X-1～ZM34X-3

ZM34X-4～ZM34X-F

ネームレス用軍用レンチ

ウォピックA

全長：883mm
重量：4740g

ウォピックA-1～ウォピックA-3

ウォピックA-4～ウォピックA-6

ウォピックA-7～ウォピックA-F

ガリア正規軍用軍用レンチ

ウォピックR

全長：922mm
重量：3780g

ウォピックR-1～ウォピックR-3

ウォピックR-4～ウォピックR-F

帝国軍用軍用レンチ

MR2

全長：994mm
重量：4620g

MR2-1～MR2-3

MR2-4～MR2-F

帝国軍用軍用レンチ

MR2X

全長：994mm
重量：4620g

MR2X-1～MR2X-3

MR2X-4～MR2X-F

帝国軍用スナイパーライフル

Orden

全長：1445mm
銃身長：835mm
口径：7.92mm
発射数：3
重量：8590g

Orden

ネームレス用対戦車スナイパーライフル

ガットS

全長：1320mm
銃身長：875mm
口径：7.92mm
発射数：1
重量：4960g

ガットS-1～ガットS-3
ガットS-4～ガットS-6
ガットS-7～ガットS-F

ネームレス用対戦車スナイパーライフル

ガットA

全長：1370mm
銃身長：955mm
口径：7.92mm
発射数：1
重量：5210g

ガットA-1～ガットA-3

ガットA-4～ガットA-6

ガットA-7～ガットA-F

ガリア正規軍用対戦車スナイパーライフル

ガットR

全長：1460mm
銃身長：1025mm
口径：7.92mm
発射数：1
重量：4270g

ガットR-1～ガットR-3
ガットR-4～ガットR-F

帝国軍用対戦車スナイパーライフル

ZM-SGAT

全長：1620mm
銃身長：582mm
口径：7.62mm
発射数：1
重量：3640g

ZM-SGAT-1～ZM-SGAT-3
ZM-SGAT-4～ZM-SGAT-F

ネームレス用機関銃

スコールA

全長：1350mm
銃身長：595mm
口径：9mm
発射数：40
重量：6100g

スコールA-1～スコールA-3
スコールA-4～スコールA-6
スコールA-7～スコールA-F

ネームレス用機関銃

サイクロンA

全長：1140mm
銃身長：510mm
口径：9mm
発射数：40
重量：5360g

サイクロンA-1～サイクロンA-3
サイクロンA-4～サイクロンA-6
サイクロンA-7～サイクロンA-F

ガリア正規軍用機関銃

スコールR

全長：1470mm
銃身長：635mm
口径：9mm
発射数：60
重量：4945g

スコールR-1～スコールR-3

スコールR-4～スコールR-F

帝国軍用機関銃

ZM-MG

全長：1435mm
銃身長：680mm
口径：9mm
発射数：40
重量：4875g

ZM-MG-1～ZM-MG-3

ZM-MG-4～ZM-MG-F

帝国軍用機関銃

ZM-HMG

全長：1625mm
銃身長：750mm
口径：9mm
発射数：50
重量：5210g

ZM-HMG-1～-F

帝国軍用機関銃

Ruhm

全長：1477mm
銃身長：1037mm
口径：7.62mm
発射数：82
重量：13.5kg

Ruhm

帝国軍用重機関銃

アルヴィト

全長：735mm
銃身長：395mm
口径：9mm
発射数：40
重量：5120g

アルヴィト

ネームレス用剣

シヴァル

全長：755mm
重量：5120g

シヴァル-1～シヴァル-3

シヴァル-4～シヴァル-6

シヴァル-7～シヴァル-F

ネームレス用剣

シヴァルAT

全長：732mm
重量：9260g

シヴァルAT-1～シヴァルAT-3

シヴァルAT-4～シヴァルAT-6

シヴァルAT-7～シヴァルAT-F

ネームレス用剣

パーシヴァルAT

全長：1520mm
重量：22.1kg

パーシヴァルAT-1～パーシヴァルAT-3

パーシヴァルAT-4～パーシヴァルAT-6

パーシヴァルAT-7～パーシヴァルAT-F

ガリア正規軍用剣

シヴァルR

全長：1640mm
重量：19.2kg

シヴァルR-1～シヴァルR-3

シヴァルR-4～シヴァルR-F

帝国軍用剣

LSch

全長：760mm
重量：7220g

LSch-1～LSch-3

LSch-4～LSch-F

帝国軍用剣

LSch X

全長：1180mm
重量：12.7kg

LSch X-1～LSch X-3
LSch X-4～LSch X-F

帝国軍用剣

GSch

全長：1020mm
重量：14.8kg

GSch-1～GSch-F

帝国軍用剣

Shido

全長：1192mm
重量：2.2kg

Shido

ネームレス用爆剣

HBS-A

全長：1620mm
重量：14.2kg

HBS-A-1～HBS-A-3

HBS-A-4～HBS-A-6

HBS-A-7～HBS-A-F

ネームレス用爆剣

HBS-AT

全長：1720mm
重量：14.8kg

HBS-AT-1～HBS-AT-3

HBS-AT-4～HBS-AT-6

HBS-AT-7～HBS-AT-F

ネームレス用爆剣

バール

全長：2015mm(釘含む)
重量：8.5kg

HBS-AT-1～HBS-AT-3

バール(大型釘抜き)

ねんどろいどリエラ(P176参照)の特典として、イムカのヴァールのようなものをつけようかというときに、そのままシャレで「バールのようなもの」として田林がデザインしました。最強の爆剣ですね。　(セガ·小澤)

ガリア正規軍用爆剣

HBSR

全長：1750mm
重量：24.5kg

HBSR-1～HBSR-3

HBSR-4～HBSR-F

帝国軍用爆剣

VB ESch

全長：1710mm
重量：20.1kg

VB ESch-1～VB ESch-3

VB ESch-4～VB ESch-F

帝国軍用ガトリング銃

ZM GMG

全長：1650mm
銃身長：770mm
口径：7.62mm
発射数：60
重量：27.6kg

ZM GMG

車輌

19世紀後期、帝国軍が初めて開発し、歩兵支援用として戦線に投入した戦車は、一次大戦を経て高機動・高火力の重戦車へと進化していった。帝国の抜きん出た戦車開発力に苦しむ他国は、待ち伏せ型の小型戦車を開発し対抗。やがてガリアにおいても中戦車、重戦車が開発されていく。

≪ネームレスの車輌

中戦車C型

性能諸元
(車体のみ／標準的な強化標準砲塔を搭載した場合)
- 全長：7.02m／7.92m
- 全幅：3.36m／3.36m
- 全高：2.20m／3.27m(アンテナ含まず)
- 重量：22.9t／34t
- 最高速度：50km／h
- 機関最大出力：570hp／3,300rpm

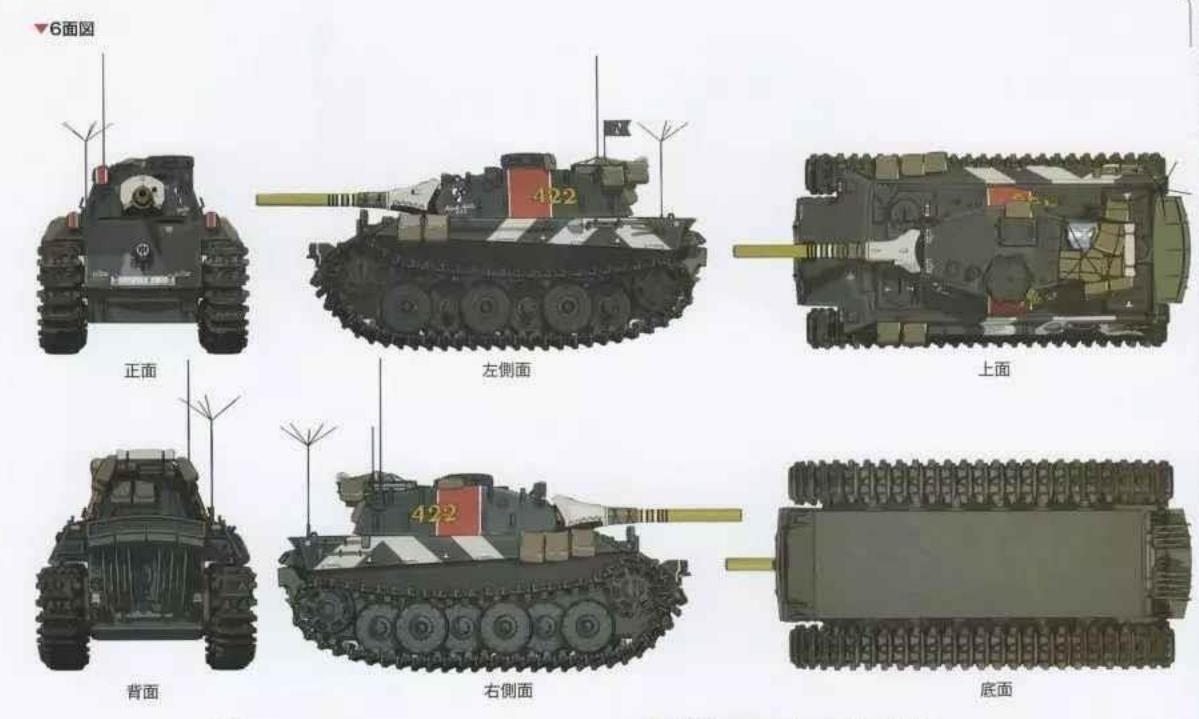
ガリア軍の中戦車B型と比べると砲塔が小さくなっており、砲塔正面の被弾面積もかなり狭いため、稜線射撃において敵に狙われにくい。また、エーデルワイスに似て砲塔、車体ともに中戦車A型、B型よりも丸みを帯びており、避弾経始(装甲に角度がついていることで着弾の運動エネルギーを分散し、ダメージを軽減する)に優れる。また、6個ある転輪が大きくなっており機動力が増している。砲口部にはライフリング(螺旋状の溝)が確認できる。

▼背面

広報面で多く露出するため、リクエストとして単純に強くてカッコいいデザインコンセプトが求められました。ネームレスの戦車ということで車体も黒になっています。ただ地味すぎたので、車体側面に「く」の字型の白いラインを入れて、砲身を黄色にしました。この黄色は航空機のメッサーシュミットの機首の色のイメージです。ヴァルキュリアの戦車は、砲身の根元の部分をベージュ色にすると、なぜかうまくハマりますね。 (セガ・田林)

中戦車C型 デザイン設定

▼6面図

正面　左側面　上面
背面　右側面　底面

■アンテナと旗
アンテナは５又に分かれている。旗はネームレスのエンブレムがあしらわれたものがはためく。

■主砲同軸機銃
主砲の横に配備された機銃からは毎秒10～15発の発射が可能。

■迷彩概要
大きな一面に対してグレーとやや薄いグレーの２色で、周辺部分を残すロービジ迷彩。

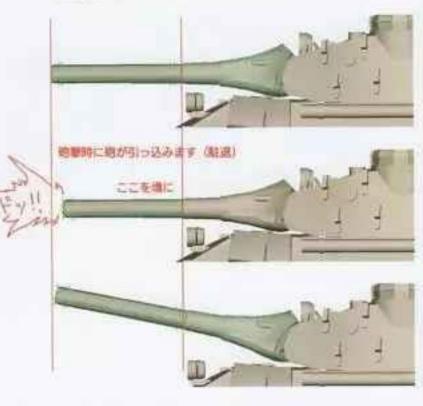
■荷物
設定画では省略されているが、荷物はワイヤーで止められている。

■マーキングとナンバープレート

ナンバープレイトの「Rnd」はランドグリーズで組み立てられたことを表わす。「4·21」は中隊番号と製造番号と推測される。「b.t.2」の詳細は不明。エーデルワイスにはベルゲン、テイマーのふたりの製作者を表わす「b.t.」の記載があったが、この戦車とエーデルワイスにどのようなかかわりがあったのか、いろいろと想像を膨らましてみるのも楽しいだろう。

■主砲設定

▼ネームレス中戦車C型の未使用デザイン

軽戦車A型試作型

性能諸元
(車体のみ／標準的な強化標準砲塔を搭載した場合)
・全長:3.98m／3.98m
・全幅:2.06m／2.06m
・全高:1.43m／2.17m(アンテナ含まず)
・重量:5.2t／6.9t
・最高速度:40km／h
・機関最大出力:130hp／2,500rpm

のちにガリア軍の軽戦車A型となる戦車の試作型として、ネームレスに配備された戦車。エンジン出力の関係から重量砲と重装甲の装備は不可能だが、攻防走にバランスのとれた性能と高い生産性で活躍した。専守防衛が国是のガリアにおいては、敵戦車を待ち伏せての一撃離脱が基本的な運用となる。

ガリア正規軍の車輌

エーデルワイス号

性能諸元
・全長：6.64m
・全幅：3.43m
・全高：2.65m
・重量：32t
・最高速度：60km／h
・機関最大出力：800hp／2,800rpm
・武装：テイマー製 40口径88mm砲KwK
　　　テイマー製 12.7mm戦車機銃

第一次ヨーロッパ大戦の終結直後、ガリア軍上層部は、新型戦車の開発を決める。そのプロジェクトを進めたのは、第一次大戦の英雄ベルゲン・ギュンターと戦車設計の天才と言われたダルクス人技術者テイマーであった。ベルゲンの戦車戦での数々の実戦経験と、テイマーの天才的な設計能力と技術力により、新型のラグナイトエンジンを搭載する、新時代の戦車エーデルワイス号が完成した。製造コストが高すぎたため量産されることはなかったが、ふたりの死後この名戦車は、ふたりの子供であるウェルキンとイサラに引き継がれ、第二次大戦でのガリア勝利に大きく貢献した。

背面　　右側面

軽戦車B型

性能諸元
（車体のみ／標準的な
徹甲機銃1型砲塔を搭載した場合）
・全長:4.31m／4.31m
・全幅:2.04m／2.04m
・全高:1.53m／2.25m（アンテナ含まず）
・重量:7.9t／12.6t
・最高速度:50km／h
・機関最大出力:180hp／2,500rpm

軽戦車A型よりも車体と重量が増しているが、大きな4つの転輪により機動力に優れる。各転輪は独立式の板ばねをサスペンションにしているが、履帯側面に取り付けられた装甲によって守られている。

前面

右側面

背面

上面

軽戦車C型

性能諸元
（車体のみ／砲塔込み）
- 全長：5.47m／5.47m
- 全幅：2.72m／2.72m
- 全高：2.04m／2.84m（アンテナ含まず）
- 重量：10.3t／17.7t
- 最高速度：40km／h
- 機関最大出力：220hp／2,500rpm
- 武装：ブレダ工廠30口径75mmPaK
  エルマ7.92mm戦車機銃

背面

軽戦車B型よりも転輪の数がさらに増えたタイプ。側面に追加装甲、前面にスペアの履帯を取り付けることで防御力を高めている。なお、ガリアの戦車は早い段階で自動装填装置が標準装備化されているため、戦車長兼砲手と無線手兼操縦手という乗員ふたりでの運用が可能となっている。

ナーシサス

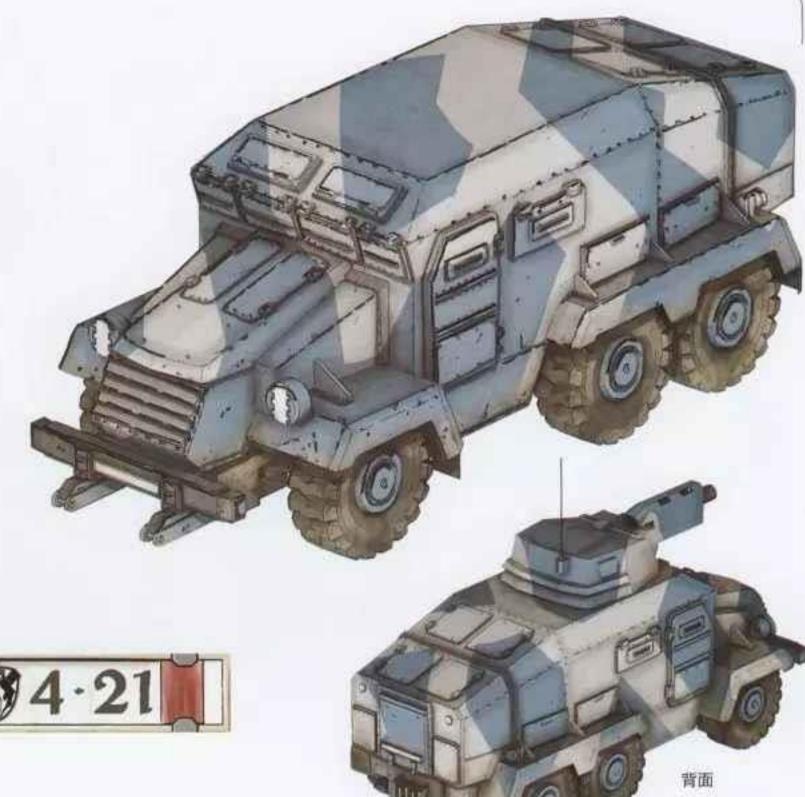
性能諸元
（車体のみ／砲塔込み）
- 全長：5.47m／5.47m
- 全幅：2.72m／2.72m
- 全高：2.04m／2.84m（アンテナ含まず）
- 重量：10.7t／18.9t
- 最高速度：45km／h
- 機関最大出力：250hp／2,500rpm
- 武装：ブレダ工廠30口径75mmPaK改
  エルマ7.92mm戦車機銃

銅馬の戦乙女のマーキング

オドレイが駆る軽戦車で、ユリを表わす「ナーシサス」の名で呼ばれる。軽戦車C型に専用のカラーリングとマーキングを施したオドレイ専用戦車で、重量と最高速度が増している。撃破した敵戦車の数が砲身にマーキングで表わされており、32輌という撃破数は「銅馬の戦乙女」の名に恥じない驚異的なもの。

工作用装甲車

性能諸元
（車体のみ／標準的な火炎機銃2型を搭載した場合）
・全長：5.25m／5.25m
・全幅：2.11m／2.11m
・全高：2.01m／2.56m（アンテナ含まず）
・重量：5.2t／6.7t
・最高速度：65km／h
・機関最大出力：120hp／3.000rpm

戦場でのさまざまな用途に対応できるよう積載量の増加が進められ、それにともない重量増加による設置圧を下げるため6輪になっている。下のナンバープレイトの「Bre」はブレダで組み立てられたことを表わし、「Oe112」の「O」はその他車輌、「e112」は1935年の生産番号112を意味する。

ネームレス使用時のナンバープレート

砲塔とショルダー

装甲車の攻撃力強化のため機関砲塔、重機関砲塔の開発が進められていった。砲身の大型化にともない、砲塔後部に弾薬などを配置することで重心のバランスをとっている。また、戦場に毒ガスの散布が行なわれたナジアル平原の戦いでは車輌に除毒装置を装備することで作戦行動をサポートした。

≪カラミティ・レーヴェンの車輌

中戦車B型

性能諸元
・全長：5.95m
・全幅：3.35m
・全高：2.98m(アンテナ含まず)
・重量：38.5t
・最高速度：40km／h
・機関最大出力：600hp／2,150rpm
・武装：クリム N-324 24口径76.2mm砲
　クリム M-216 16口径85mm榴弾砲
　ウラヌス9mm戦車機銃

カラミティ・レーヴェンに支給された最新鋭の中戦車。ボルジアの資金力もあり、エンジンのカスタマイズで出力が増している。

シャカール／フックス

性能諸元(2両とも共通)
・全長：7.42m
・全幅：3.92m
・全高：2.96m
・重量：41t
・最高速度：50km／h
・機関最大出力：650hp／2,300rpm
・武装：ラヴェル D-5T 35口径85mm戦車砲、クリムN-247 主砲同軸47口径45mm砲、ウラヌス 7.62mm戦車機銃

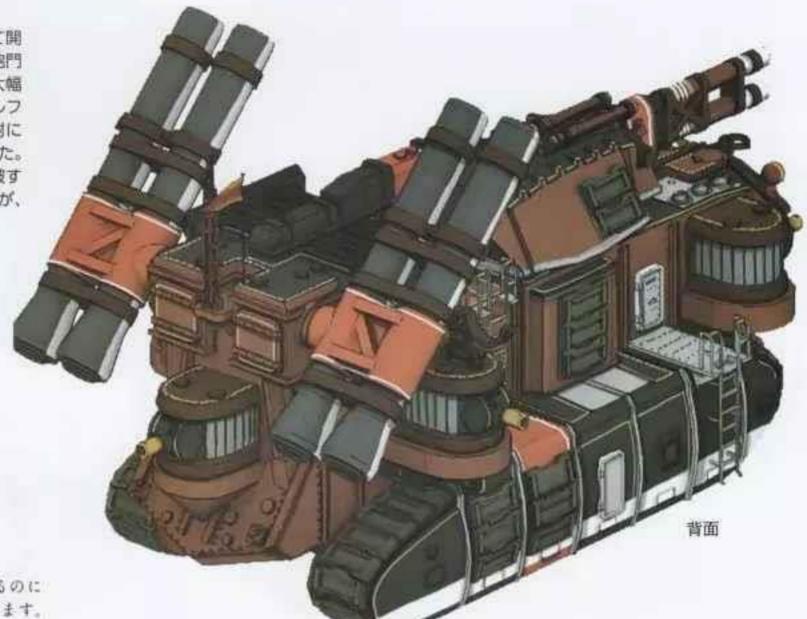
黒と紫のカラーリングのシャカールは、プレイヤーがカラミティを操作できるDLC断章でのみ登場するものです。ピンクはドイツ軍の機甲科の兵科色なので、そこに気づいてくれる人がいるとおもしろいかと思って取り入れてみました。　（セガ・田林）

帝国軍重戦車から派生した高機動型戦車。連邦との戦線には200輌程度投入されたが、ガリア戦線に投入されたのは数輌のみ。

エヒドナ

性能諸元
・全長：20.5m
・全幅：11.6m
・全高：10.5m
・重量：285t
・最高速度：17km／h
・機関最大出力：1,000hp／2,000rpmx2
・武装：サヴォート 26口径250mm2連砲
　　　クリム N-320 20口径76.2mm砲
　　　同軸ウラヌス7.62mm戦車機銃×6
　　　クリム N-237 37口径45mm砲、4連装ロケット砲

帝国軍ゲルビル級試作戦車2号車として開発された巨大戦車。ゲルビルよりも戦車砲門数を増強して武装強化したため、重量が大幅に増え、機動性が犠牲になっている。メルフェア市攻撃の際にリディア・アグーテ中尉により試運転され、圧倒的な火力を披露した。1935年10月、グスルグがエヒドナを爆破することでランドグリーズの壊滅を試みるが、ネームレスの活躍によって阻止された。

背面

ガリア軍の戦車は花の名前で呼ばれるのに対し、帝国軍は動物の名前で呼んでいます。エヒドナはハリネズミで、シャカールはジャッカル、フックスはキツネです。（セガ・本山）

エヒドナ デザイン設定

▼6面図

▼エヒドナの武装

❶サヴォート 26口径250mm2連砲
❷クリム N-320 20口径76.2mm砲、同軸ウラヌス7.62mm戦車機銃
❸クリム N-237 37口径45mm砲、同軸ウラヌス7.62mm戦車機銃
❹連装ロケット砲

後ろにある4連装ロケット砲は、最初はありませんでした。しかし、ゲームでの巨大兵器としてけれん味がほしかったのと、シルエットを特徴づけたいということで都市制圧用ということでつけました。一時はプロペラをつけるという案もありましたね。田林苦心の一作なんじゃないでしょうか。（セガ・本山）

■前部主砲

通常状態

発射時に砲が駐退する
（後ろに引っ込む）

下の砲発射時も
上の砲とは別々に駐退

上下２門の砲から、徹甲弾／榴弾を２発ずつくり返し発射する。

砲塔は左右へめいっぱい旋回するまでに約６秒かかる。

仰角は最大このぐらいで、1.5秒かかる。

戦闘時以外はリングで固定される。

■4連装ロケット砲

4連装ロケット砲は、左側の砲門から順に約1.5秒の時間差でロケット弾を発射する。一門につき一発の打ち切りで、クレーンを使って給弾を行なう。戦闘時以外は水平にして、巨大なリングで固定される。

■左右側面の旋回砲塔

水平可動域

垂直可動域

■側面デザインの変更

■地上から見上げたアングル

■没カラー案

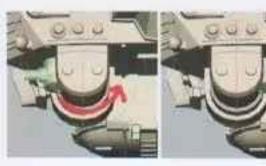
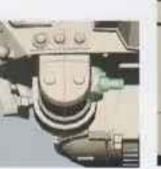
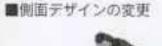
帝国軍の車両

帝国戦車

性能諸元
・全長：6.69m
・全幅：3.02m
・全高：3.24m
・重量：24t
・最高速度：45km／h
・出力：330hp／1,800rpm
・武装：クリム N-237 37口径45mm砲
　　　クリム M-210 10口径85mm榴弾砲
　　　ウラヌス 7.62mm戦車機銃

背面

大陸史上初めて戦線に戦車を投入した帝国の戦車開発理念は、敵の前線突破に主眼をおいた高機動・高火力であった。他国が帝国戦車に対抗するべく小型戦車を開発して以降も、帝国はそれらの小型戦車を圧倒するべく巨大で厚い装甲を持つ戦車の開発に着手していく。数多くの種類が作られた帝国戦車のひとつであるこの機も、前面に37口径45mm砲と10口径85mm榴弾砲を備え、戦線突破に活躍した。

6面図

正面　左側面　上面
背面　右側面　底面

軍事関連諸物

ここからは勲章をはじめ、ガリア公国の階級章やオーダーサイン、エンブレムの没デザインなどを掲載している。リエラ、イムカ、アルフォンス、レイラのオーダーサインは、ゲーム中で実際に見る機会はないが、サインにそれぞれの性格が出ていて興味深い。

ガリア公国勲章

授与の短剣

公国勲功章

山の嘶き作戦従軍章

公国功労章

公国殊勲賞

外した部隊章

ランドグリーズ聖槍勲章

殊勲青銅槍盾勲章

殊勲白銀槍盾勲章

殊勲黄金槍盾勲章

GBS英雄賞

GBS人道賞

殊勲歩兵戦栄誉勲章

殊勲機甲戦栄誉勲章

殊勲聖槍勲章

優秀兵士表彰

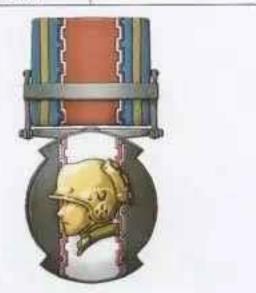
優秀部隊表彰

優秀指揮官勲章

優秀機甲兵団勲章

優秀武装兵団勲章

作戦地図

名もなき部隊の記録

大翼兵団勲章

ランドグリーズ勲章

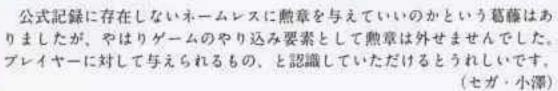
ロイヤル・ランドグリーズ勲章

功績に対する栄誉を称えて授与される各種勲章。ガリアでは左胸に取り付けるのが通例となっており、アイスラー少将の胸には優秀指揮官勲章と殊勲聖槍勲章が確認できる。なお、殊勲槍盾勲章には、青銅・白銀・黄金の位があり、下位のものを並装することはない。また、GBS英雄賞などの「GBS」は、1作目に登場したイレーヌが所属するラジオ放送局Gallian Broadcasting Stationを意味する。本作で読める新聞ガリア・トリビューンの記事を執筆しているのも彼女だ。

公式記録に存在しないネームレスに勲章を与えていいのかという葛藤はありましたが、やはりゲームのやり込み要素として勲章は外せませんでした。プレイヤーに対して与えられるもの、と認識していただけるとうれしいです。（セガ・小澤）

オーダーサイン

クルト・アーヴィング　　リエラ・マルセリス　　イムカ

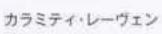
アルフォンス・オークレール　　レイラ・ピエローニ　　ダハウ

リディア・アグーテ　　ジグ　　グスルグ

エンブレム

ネームレスのエンブレムは、懲罰部隊ということで、ガリアのモチーフであるユニコーンの角が折れたものや逆さにする案もありました。過酷な状況に翻弄される隊員を犬に見立て、ドーベルマンが口をしばられているというデザインに決まりました。カラミティ・レーヴェンは、犬に対抗する黒い動物ということでカラスに決まりましたので、ユグド教のマークの下にカラスが従えられていることを表わしています。（セガ・田林）

ネームレス

カラミティ・レーヴェン

■未使用デザイン

その他の諸物

イムカの手紙では、彼女がなかなかきれいな字を書くことがわかる。クルト愛用のキャンディは、エヴァンス社の『スージーズドロップス』を購入することが多い。リエラのナイフは、亡くなった養父の形見として譲り受けたもので、かなりの年代物。彼女は『お守りナイフ』と呼び、常時持ち歩いている。

作中アイテム

クルトのキャンディ

※左の「クルトのキャンディ」のラベル部分

イムカの手紙

アイスラーの手紙

書類

書類の束

2枚の地雷の配置図

ハーブの花冠

カモミールの花束

エイルシュの花

四葉のクローバー

リエラのナイフ

リエラの槍と盾（収納状態）

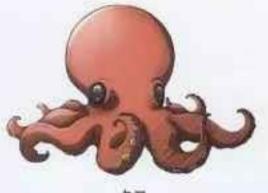
軍用毛布

キノコ

リンゴ

タコ

硬そうなパン

血のついた緑のシャツ

水晶のペンダント

クラリッサのペンダント

「ヴァルキュリアの鉄槌」の写真

ダハウの妻の写真

ねんどろいど用原画

グッドスマイルカンパニーから発売されているアクションフィギュア、ねんどろいどリエラとねんどろいどイムカ用の原画。リエラにはナイフとヴァルキュリアの槍&盾のほか、オリジナル武器「ヴァールのようなもの(P159参照)」が付属。イムカにはもちろんヴァールとのセットとなっている。

田林氏による色紙

『戦場のヴァルキュリアシリーズ』のアートワークを監修するセガ・田林氏のイラスト入り色紙。砂塵を上げながら砲撃するネームレス戦車が描かれている。ヴァルキュリアシリーズのファンに贈られたもので、存在するのは1枚のみ。

ダウンロード壁紙

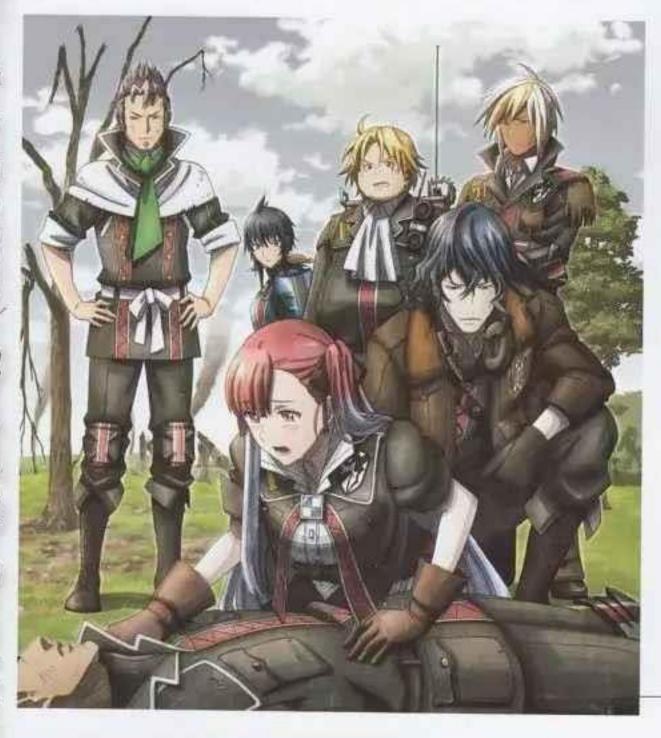
戦場のヴァルキュリア3 UNRECORDED CHRONICLES
物語
Story

1章 NAMELESSへ

The Second Lieutenant Becomes a Nameless

1935.04　ヴァーゼル近郊

輝かしい未来から奈落の底へ

帝国との戦端が開かれてひと月。ガリア軍は敗走を重ね、防衛ラインを首都周辺にまで後退させていた。この防衛線の要衝ヴァーゼルで、迎撃戦の指揮を任された若手士官、クルト・アーヴィング。彼は、新兵ばかりの部隊で帝国の先遣隊に完勝し、周囲を驚かせる。華々しい活躍で、軍の重鎮アイスラー少将からも目をかけられるようになったクルト。しかし4月のある日、身に覚えのない反逆罪に問われ、一切の弁明を認められないまま、懲罰部隊ネームレスへの転属を命じられる。着任したクルトが目の当たりにしたのは、規律がまるでとれていない機能不全の部隊だった。彼は、功績を挙げて恩赦を勝ち取るため、隊長になって部隊を立て直すことを決意する。

将来を約束された士官

クルトは、ガリア唯一の陸軍士官学校であるランシールを主席で卒業した気鋭の士官。帝国軍第14機甲師団の先遣隊との戦いで指揮を任された彼は、上官の予想を上回る的確な用兵により、完璧な勝利を収めてみせる。

懲罰部隊ネームレス

戦いを終えたクルトは、黒い軍服に身を包み、隊長の死を嘆く一団を目撃する。ガリア正規軍422部隊、通称ネームレス。名前を奪われ、番号で呼び合うことを義務づけられた懲罰部隊。彼らは、軍の上層部に捨て駒として使われていた。

アイスラー少将との出会い

華々しく活躍したクルトは、アイスラー少将の知遇を得る。しかしアイスラーは、クルトがある密書を拾ったことを危険視。彼を表舞台から消すため、密かに冤罪を着せる。

冤罪を被りネームレス

密書が危険なものと知らなかったクルトは、わけがわからないまま懲罰部隊に送られることに。着任した彼は、上官ラムゼイ・クロウの軍人らしからぬいい加減さに戸惑う。

常識が通用しない部隊

ネームレスは、クルトの想像を絶する部隊だった。初めて会った隊員No.13には警戒心からナイフを突き付けられ、つぎに会ったNo.1には無視を決め込まれる。そんななかで、ただひとり普通に接してきた隊員が、部隊のリーダー格であるNo.6だった。

非協力的な隊員たち

No.6は、いまネームレスには隊長がいないと語り、クルトに指揮を執るよう勧める。彼の提案を受け、クロウからの作戦指示を隊員に伝えるクルト。しかしネームレスには、隊員の過半数に認められた者だけが指揮を執れるというルールがあり、クルトは隊員たちに拒絶されてしまう。

ネームレスでの初勝利

状況への苛立ちを、キャンディを噛むという彼なりのやり方で鎮め、作戦参加を拒まなかった少数の隊員だけで任務を完遂してみせるクルト。だが、戦果を挙げても正規兵には蔑まれる一方だった。

2章 72時間の戦い

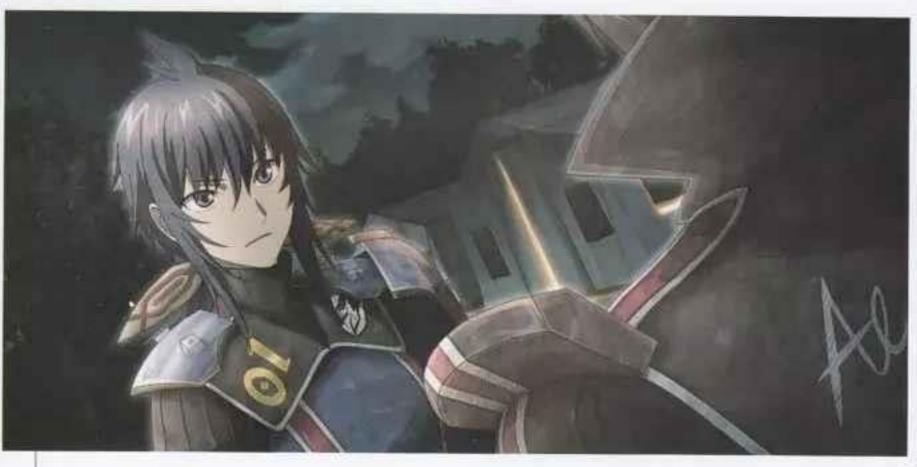
The 72 hour Combat

1935.04　アスロン市

隊員の信を得るための苦闘

首都防衛線での戦いに勝利したガリア軍は、北部と南部で劣勢が続くなか、中部戦線で巻き返しを図る。ネームレスに下された任務は、中部の要衝アスロン市の奪還。しかも、ひしめく敵を遊撃戦で撃破して72時間以内に達成せよという、過酷な条件が与えられていた。これを成功させれば隊員に信任されると考えたクルトは、協力者となったNo.6ことグスルグとともに、指揮の機会を与えてくれるよう隊員たちを説得。彼らを率いたクルトは抜群の戦術能力を見せ、制限時間内のアスロン攻略を果たす。この勝利でクルトは隊員たちに認められ、正式に隊長に就任。非協力的だったNo.1ことイムカにも、取引によって指揮権を認めさせ、部隊を掌握する。

ジンクスからの脱却

No.13ことリエラが、所属部隊を全滅させる「死神」として疎まれていると知ったクルトは、あえて彼女とともに戦いに出て勝利してみせ、ジンクスを打破する。この行動は、合理主義者の彼には当たり前のことでしかなかったが、リエラには深い感銘を与えた。

No.1 との取引

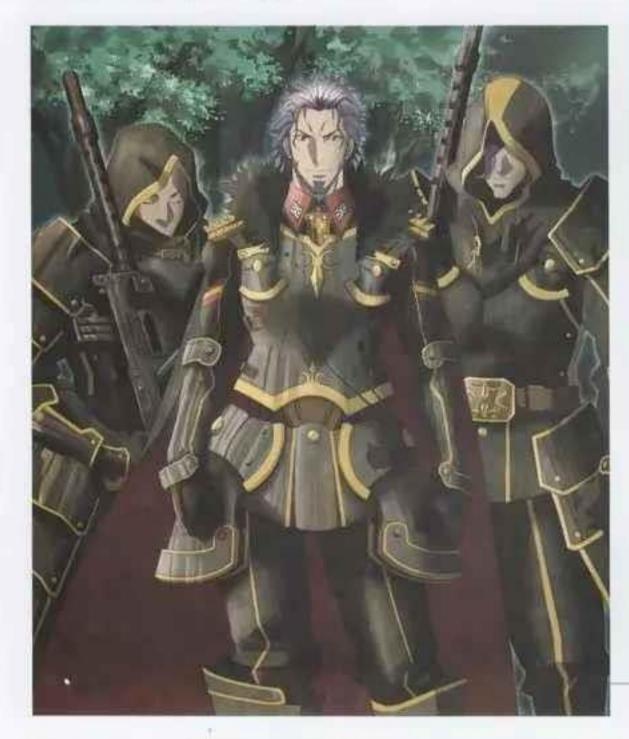
誰にも心を開かず、命令も聞かない問題児イムカは、ネームレス最強の戦士でもあった。クルトは、イムカが何か目的を持って行動してるとにらみ、部隊の戦力になってくれるなら目的の達成に力を貸すと提案。彼女はこれを受け入れ、クルトの指揮下に入る。

3章 災いの鴉

The Calamity Raven

1935.05　ヴァーゼル近郊

やがて英雄になる者たちとの共闘

ガリア軍の反攻作戦は、さしたる成果を挙げられないまま頓挫。中部戦線は膠着状態に陥る。最前線では義勇軍第3中隊が防衛線を維持していたが、数で勝る敵大隊に押されつつあった。交戦地周辺の地雷原を恐れて増援を送りあぐねていた司令部は、捨て駒であるネームレスの投入を決定。クルトは、巧みな情報収集によって地雷の位置を特定し、難関である地雷原を無傷で突破して、第3中隊との合流を成功させる。中隊長バーロットはクルトの力量を認め、彼が提案した陽動作戦を採用。ネームレスのサポートに、中隊のエース格である第7小隊を当てる。作戦は奏功し、遠征で疲弊していた敵大隊は撤退。この勝利により、ガリア軍の士気は大いに高まる。

ガリアを蹂躙する者

帝国軍の総司令官マクシミリアンは、当初、電撃戦で一気にガリアを落とすつもりでいた。しかし、各戦線の指揮官は予想外の抵抗に直面。帝国軍は優位に立ってはいたが、作戦にはほころびが生じつつあった。

帝国のダルクス人部隊

ネームレスは作戦行動中に、ダルクス人だけで構成された敵部隊と遭遇。かろうじて駆逐に成功するが、クルトは、この部隊の強さに脅威を感じる。彼らカラミティ・レーヴェンが自身の最大の敵となることを、このときのクルトはまだ知らない。

救国の戦士たち

ネームレスと共闘した第7小隊は、ガリア軍が巻き返すきっかけを作った評判の部隊。優秀ながら伸びやかな彼らとの交流は、ネームレスの面々にとって忘れ得ない思い出となった。また、隊長ウェルキンの用兵や部隊運営は、クルトに大きな影響を与える。

4章 ボルジア枢機卿護衛作戦

Escort Cardinal Borgia

1935.05　帝国国境

極秘任務での許されない敗北

5月中旬、帝国軍が工業都市ファウゼンを落としかけていたころ、クルトはアイスラー少将から直々に密命を受ける。任務は、和平を推進するため密かにガリアを訪れていたユグド教の枢機卿ボルジアを、彼を嫌うマクシミリアンの軍勢から守り、帝国領まで送り届けること。帝国軍の支配地域を突破して国境に向かうネームレスだったが,帝国領まであと一歩というところでカラミティ・レーヴェンの奇襲を受け、窮地に立たされてしまう。ボルジアは、クルトたちの身の安全を保証させるのと引き換えに敵に投降。それは屈辱的な、そして、任務失敗が許されないネームレスにとって致命的な敗北だった。

宗教界の重鎮の護送

重要任務ということでアイスラーから直接、ボルジアを託されるクルト。この任務には、敵部隊カラミティ・レーヴェンとボルジア、アイスラーが実は結託しているという裏があったのだが,このときのクルトには知る由もない。

ダルクスの少年

クルトは任務中、窃盗の疑いで責められていたダルクス人の少年、ゼリを助ける。クルトの態度や、彼とグスルグの友情は、ガリア人はダルクス人を見下すばかりと思っていたゼリの心を強く揺さぶった。

No.1 の意外な弱点

クルトは、何でもひとりでこなすイムカに感心していたが、じつは彼女には大きな弱点があった。クルトに勧められたコーヒーを断り、それならとリエラが作ったミルクコーヒーは怯えるように拒絶。クルトたちは、彼女が極度の偏食であることを初めて知る。

5章 禁じられた戦い

The Forbidden Operation

1935.05　ユエル市

忌むべき任務がもたらした出会い

ボルジア護送の失敗は、アイスラーが事を大きくすることを嫌ったため不問に付された。ファウゼンを失ったガリア軍は、中部戦線への注力を決定。ネームレスは、中南部の中核都市であるユエル市攻略への参加を命じられる。任務は、国際法で禁じられている、民間人に紛れ込んでの破壊工作。しかし、帝国軍は市民を街から閉め出しており、民間人に偽装する意味はなくなっていた。クルトは作戦を変更し、市民に協力してもらうことで市内に潜入。市の門を破壊し、正規軍の突入を成功させる。さらに、ユエルの南西にあるメルフェア市が帝国軍に襲われているという報告を受け、同市に急行。規格外の巨大戦車、エピドナを撃退する。

ユエル市の少女

ユエル市民の避難キャンプで、負傷者の治療に当たっていた少女、コゼット。市の奪還を強く望む彼女は、危険を承知でクルトたちに協力し、住民ならではの案内で、ネームレスを市内に導き入れる。

やって来た熱血少年

ユエル市奪還の直後、クルトたちの前に、メルフェア市から来た少年アバンが現われる。ネームレスは彼の要請を受けてメルフェアに向かい、カラミティ・レーヴェンの巨大戦車エピドナを退ける。

ひとときの安らぎ

移動中、買い出し役を務めることになったクルトとリエラ。クルトのあくせくとした買い物ぶりに疲れ気味のリエラだったが、最後にクルトにアクセサリーをプレゼントしてもらい、ご機嫌に。

6章 帝国領、侵入

Intrude into the Empire Territory

1935.06　帝国領内

帝国の懐——No.1の故郷へ

ガリア軍は5月の下旬、中南部の要衝ユエル市と南部クローデンの補給基地を相次いで奪還。南部ガリアは解放され、クローデンからの補給を断たれた中部の帝国軍は侵攻圧力を弱める。ガリア軍司令部は、南東部の帝国軍を北部に追い込む作戦を立案。6月中旬、ネームレスは、南部の補給線を支える帝国領内の補給基地の破壊を命じられる。中立国であるガリアは国際法上、国外での戦闘行為を認められていない。それを秘密裏になせとの命令である。帝国の地勢に通じた隊員がいたため作戦は順調に進み、ネームレスは補給基地の破壊を果たしてガリアに生還。重要な補給線を失った帝国軍は、南部から撤退せざるを得なくなる。

ティルカ村の思い出

目的地は、イムカの故郷ティルカ村の跡地にほど近い場所だった。彼女は、村の象徴だった花エイルシュを見つけ、過去を思う。彼女が去ったあと、同地を帝国軍指揮官セルベリアが来訪。彼女こそ、イムカが追う仇だった。

故郷を焼き尽くした者

セルベリアは、かつてヴァルキュリアの能力で、ティルカ村を焼き尽くしてしまっていた。このとき、ただひとり生き残ったのがイムカ。彼女はセルベリアに復讐できるだけの力を身につけるため、あえてネームレスに籍を置き、戦闘訓練と武器の改良に明け暮れてきた。

イムカの記憶

クルトとハーブを採りに出かけたイムカは、自身の過去を少しだけ語る。彼女は長いあいだ山野を放浪し、野の草木で食いつないできたという。クルトは、このときに嫌な思いをした食物を食べられなくなった結果、イムカは偏食になったのだと悟る。話の直後、キノコを見て錯乱するイムカ。彼女がかつて、キノコでどんな体験をしたのか、それは本人にしかわからない。

7章 休暇を掴み取れ

Win a Vacation

1935.07 北西部海岸

初めての憩いとまとまりゆく部隊

過酷な作戦が続いたことで、ネームレスの士気は下がりつつあった。クルトは、上官クロウに休暇を請願。北部山岳地帯の拠点を強襲する作戦「山の囁き」を成功させれば、休みをもらえることになる。ネームレスは、義勇軍第3中隊第4小隊と共同で陽動作戦を仕掛け、堅固な拠点をわずかな数の兵で攻略することに成功。休暇を得た彼らは、海岸地域で存分に楽しむ。しかし海岸から戻る途中、カラミティ・レーヴェンの隊長ダハウの襲撃を受けて完敗。ネームレスの力量を測りたかっただけというダハウは止めを刺さずに去り、クルトはかつてない屈辱を味わう。

ランシールの才女

クルトたちは、作戦地域に移動する途中、ランシール王立士官学校の生徒たちが帝国軍の攻撃を受けているのを目撃。学生たちのリーダー格であるユリアナとともに戦い、帝国軍を撃退する。

義勇軍の赤き獅子

山岳拠点での戦いは、兵数の面でも地形の面でも、敵が圧倒的に有利だった。しかし、クルトの大胆な策と、共闘した義勇軍小隊の中核隊員であるレオンの勇猛な戦いぶりとが相まって作戦は成功。戦闘後、クルトとレオンは互いの健闘を称え合う。

結束する仲間たち

困難な作戦を達成してきたネームレスには、自信と結束が生まれていた。最高の精神状態で休暇に入る隊員たち。しかし、直後に現われたダハウに大敗を喫してしまう。さらにダハウはダルクス人自治区建設の理想を語り、ネームレスのダルクス人、とりわけグスルグの心を強く揺さぶる。

8章 避難民救助作戦

Saving the Evacuee

1935.07　ボーガー市

報われなかった努力、救われなかった命

7月上旬、帝国軍総司令官マクシミリアンはウェルキン率いる第7小隊と戦い、高性能戦車ゲルビルを撃破される。開戦当初からの勢いを失い始める帝国軍。しかしガリア軍も、流れを決定的に変える一手を見出せずにいた。戦局が膠着するなか、ネームレスに、北部のボーガー市の避難民を救助せよという命令が下る。民間人をも容赦なく攻撃するという帝国軍から市民を守るため、クルトたちは強行軍で雪山を越え、考え得る最短の時間でボーガー市に到着。帝国軍が占領していた跳ね橋を攻略して上げ、敵の前進を阻む。しかし橋の対岸には、ダルクス人の一団が取り残されていた。クルトたちは、彼らを助けるため橋を下ろそうとするが、正規軍は危険が大きいとして認めず、結果、ダルクス人は帝国兵に虐殺されてしまう。

雪山でのぬくもり

民間人の救出という任務内容は、隊員たちをやる気にさせていた。到着を急ぐため、ハードな山越えルートを選ぶネームレス。寒さがきびしい雪山で、クルトは隊員との絆を育む。彼はこのとき、リエラとイムカのいずれかと親しくしていたとされるが、どちらと会っていたのかは定かではない。

見捨てられたダルクス人

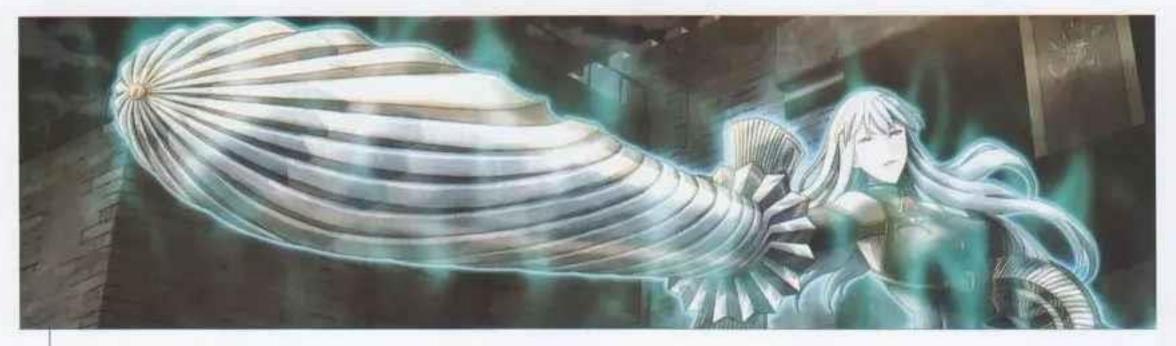
正規軍の命令で、ダルクスの民間人を見殺しにせざるを得なくなるネームレス。感情的になるグスルグをクルトは必死で諌めるが、彼自身も正規軍の判断に憤りを感じていた。この件以降、グスルグは苛立ちを露わにするようになり、隊内には不穏な空気が流れ始める。

9章 マクシミリアン暗殺

Assassinate Maximilian

1935.07　ギルランダイオ要塞

無謀な作戦で甦る忌まわしい記憶

7月中旬、両軍とも伸びきった戦線を支えるだけで手一杯になり、戦局は完全に停滞する。司令部は状況打開の一手として、ネームレスにマクシミリアンの暗殺を命令。捨て石になれと命じられるに等しい無謀な任務だったが、マクシミリアンがいるギルランダイオ要塞は防御が手薄で、成功の見込みが皆無ではないことも事実だった。計画を決行したクルトたちは、出撃準備中だった将軍イェーガーの部隊を退け、本陣に肉薄。しかし、ヴァルキュリアの力を解放したセルベリアの圧倒的な力の前に、撤退を余儀なくされる。

顕現する伝説

ネームレスは暗殺の成功を確信するところまで攻め入るが、マクシミリアンにはセルベリアという切り札があった。クルトたちは、伝説で語られる超常能力を初めて目の当たりにして戦慄。そしてイムカは、村を焼かれたときの記憶を甦らせ、恐慌状態に陥ってしまう。

望まない力

ギルランダイオにいた帝国の研究者フェルスターは、リエラにヴァルキュリアの血が流れていると見抜き、研究者としての興味から、能力の解放に必要な槍と盾を渡す。しかし、リエラは能力を限定的にしか発揮できず、彼女がヴァルキュリアとして不完全と知ったフェルスターは興味を喪失。槍と盾を残したまま去る。自分がヴァルキュリアだと知ったリエラは、みずからに秘められた破壊的な力を恐れ、呪う。

10章 不協和音

Discord

1935.07　ズヴォレ市

祖国に絶望し去りゆく友

敵に本陣侵入を許したことを重く見た帝国軍は、ギルランダイオ要塞の防衛を強化。これにより、前線の立て直しが遅れる。ガリア軍はこの機に乗じて、北部奪還作戦を発動。ネームレスはズヴォレ市の攻略を支援するよう命じられ、同時に詳細不明の新型砲弾が支給される。砲弾の正体は毒ガス弾。司令部は禁止兵器で敵に打撃を与え、その責任をネームレスに押しつけようとしていた。作戦の直前にひとり真実に気づいたグスルグは、ガリア軍のやり方に絶望し、毒ガス弾と戦車を破壊して脱走。結果、ネームレスは禁止兵器の使用に手を染めずに済むが、戦車を失ったために援護を果たせず、ガリア軍の大敗を招いてしまう。

保守的な愛国者

ズヴォレ市攻略作戦を指揮したエリート士官バルドレンは、極端なダルクス人排斥論者ではあるが、勇猛で高潔な軍人。毒ガス弾の件を知らされていなかった彼は、作戦後、ネームレスをけん責する一方で司令部を糾弾する。

11章 胎動

Stirrings

1935.07　バリアス砂漠

苦境を切り裂く伝説の力

バルドレンの糾弾を受けたガリア軍司令部は、もともと不足気味だった指導力を完全に失ってしまう。ただ、戦局が停滞しきっていたことが幸いして、前線は大きな影響を受けずに済んだ。周囲が混乱するなか、陰謀の発覚を恐れたアイスラーはネームレス抹殺を決意。彼らに偽りの任務を与え、人目がないバリアス砂漠に派遣する。砂漠に向かったネームレスを、アイスラーの密命を受けたガリア正規軍が奇襲。クルトたちは大軍に包囲され、進退窮まってしまう。しかし、リエラがヴァルキュリアの力を解放したため、正規軍は恐怖で戦意を喪失。ネームレスは九死に一生を得るが、造反部隊として追われる身となってしまう。

みんなのための決意

リエラは、再び周囲に疎まれるかもしれないと思い、自分がヴァルキュリアであることを隠していた。しかし、仲間たちを救うために能力の開放を決意。ネームレスの面々は、彼女の献身に賞賛と感謝を捧げる。

12章 明日見えぬ逃亡

Unpredictable Defection

1935.07　ユエル市

四面楚歌のなかで育まれる絆

ネームレスは、補給と休息のためユエル市に向かう。彼らを仕留め損ねたアイスラーは、陰謀の黒幕ボルジアと善後策を協議。アイスラーはボルジアにつくことで、みずからの保身とガリアの存続を図ろうとしていた。そして、人格者とされるボルジアの真の顔は、自分の教義に人々を惹きつけるため、アイスラーやカラミティ・レーヴェンを利用して戦争の長期化を図る策士だった。ボルジアは、ネームレスを潰すべくカラミティを派遣。ユエル市に入っていたネームレスを、カラミティの一員となったグスルグが急襲する。彼の猛攻を凌いだクルトたちは、軍に縛られなくなった今後も、ガリアの人々のため帝国と戦うことを誓いあう。

見舞いと気遣い

リエラに救われたネームレスのメンバーは、力を使った反動で倒れた彼女を何とか休ませようとする。論理的根拠を偏重するクルトが、理屈を越えた気遣いを見せたことは、リエラを大いに喜ばせた。

芽生える友情

かつてヴァルキュリアに故郷の村を焼かれたことが心的外傷となっているイムカは、バリアス砂漠での戦闘後、衝動的にリエラを攻撃してしまう。自分の弱さを恥じるイムカに、やさしく語りかけるリエラ。ふたりのあいだに、確かな絆が生まれる。

ダルクスの未来のために

ネームレスを脱走したグスルグは、志を同じくするダハウについた。ダハウは、敵の手のうちを知り尽くした彼にネームレス攻撃を一任。だが、裏切りを疑った副官リディアが十分な戦力を与えなかったため、勝ちを逃す。

13章 補給を求めて

Desperate for Replenishments

1935.08 メルフェア市〜アントホルト港

逃亡者に手を差し伸べる者

8月初旬、停滞していた戦局が動き始める。中部のガリア軍は二都市を奪還し、戦線を北に押し上げることに成功。これにより、北部の中心地ファウゼンの攻略が現実味を帯び始める。そのころ、ユエル市を発ったネームレスは、物資調達のためメルフェア市に入っていた。しかし、アイスラーが差し向けた正規軍の追撃を受け、補給を受けられないまま逃走せざるを得なくなる。物資を求めて港町アントホルトに向かった彼らを、今度はカラミティ・レーヴェンが攻撃。これを退けたクルトたちは、かつての上官クロウからの連絡を受け、ネームレス造反の責任を取って謹慎中の彼が、自分たちを支援していることを知る。

精霊節の贈り物

メルフェア市への移動中、好きな人に贈り物をするという特別な日、精霊節を迎えたネームレス。この手の風習には無関心なクルトだが、年長のヴァレリーに相手の気持ちを汲むよう諭され、周囲の心遣いに応えていく。

14章 ただ、ガリアのために

All for Gallia

1935.08 北部鉱山地帯〜ランドグリーズ

追われる身になろうとも志は失わず

クロウの力添えで十分な物資を得たネームレスは、足取りを消すことができる海路を使い、ガリア北西部に移動。ガリア軍がファウゼン攻略に挑むと知った彼らは、密かにこれを支援するため、周辺地域の鉱山から帝国軍を駆逐していく。軍の攻略作戦は、ウェルキン率いる第7小隊の活躍で成功。喜びに沸くネームレスに、鉱山の解放が彼らのしわざと見抜いたグスルグが襲いかかる。クルトはグスルグの言葉から、カラミティ・レーヴェンの本隊が、このとき守りがおろそかになっていたランドグリーズを狙っていると察知。グスルグの部隊を撃退するとランドグリーズに急行し、すんでのところでダハウの首都突入を阻止する。

戦いを記録する撮影

クルトたちは、逃走中もガリアのため戦ったという証拠を残すため、戦闘の前に写真を撮影。鉱山を解放した彼らは、帝国軍のダルクス人に対する扱いの酷さに言葉を失い、ダルクス独立を目指すグスルグたちに思いを馳せる。

15章 ナジアル会戦

The Clash at Naggiar

1935.09　ナジアル平原

決戦の裏側で起きた影の部隊の激突

9月下旬、ガリア北東部に追いやられた帝国軍は、戦力をナジアル平原に集めて決戦の構えを見せる。兵力で劣るガリア軍にとって、総力決戦は下策だったが、司令部は帝国の誘いに乗ってしまい兵力を集結。ナジアルで、戦争の帰すうを決する大会戦が始まる。当初は両軍が一進一退の攻防をくり広げていたが、セルベリアが前線に出たことで状況は一変。ヴァルキュリアの能力による攻撃で、ガリア軍は大打撃を受ける。ダハウはこの混乱に乗じて、密かにナジアルに入っていたネームレスを急襲。ネームレスはこれをはねのけ、ガリア軍も、突如として現われたヴァルキュリアがセルベリアを破ったことで奇跡的な逆転勝利を収める。

ガリアの救世主

ガリアを救ったヴァルキュリアは、第7小隊のアリシアだった。初めて覚醒した彼女はトランス状態で戦い、セルベリアを破る。リエラはアリシアと親交があったが、ガリアのヴァルキュリアが彼女だと知ることはなかった。

16章 あの橋を越えろ

Over That Bridge

1935.10 ボーガー市

後悔を繰り返さないための戦い

ナジアルでの勝利で、ガリア軍の優位は揺るぎないものとなった。ガリア領内のすべての帝国軍部隊は、司令部があるギルランダイオ要塞まで撤退。ガリア軍は、ファウゼン奪還時に帝国軍がダルクス人を虐殺したこともあって、略奪や破壊行為を防ぐために徹底的な追撃をかける。ネームレスも、民間人を守るべく遊撃戦を展開。たどり着いたボーガー市で、味方に見捨てられて帝国兵に包囲されかけたガリア正規軍部隊を発見する。帝国側が絶対的に有利な状況だったが、ネームレスはヴァルキュリアの力をもって敵を圧倒。正規兵の救出を成し遂げる。

命を助ける力

ネームレスは、かつてダルクス人を救えなかったボーガー市で、再び味方の危機に直面する。クルトは、今度こそ悔いを残すまいと、困難な救出作戦を敢行。自身の能力を嫌うリエラも、人命救助のためならと進んで力を振るう。

17章 軍法会議

The Court Martial

1935.10 ランドグリーズ

真実が明かされ冤罪が晴れる日

ボーガー市での戦いの直後、クルトはクロウから連絡を受ける。内容は、ランドグリーズの軍事法廷に入るまでの護衛要請。彼は、アイスラーの陰謀と背信の確かな証拠をつかんでいた。法廷で証拠を示されれば破滅が確実なアイスラーは、クロウを消すため直属の精鋭部隊を派遣するが、ネームレスはこれをことごとく撃破。法廷にたどり着いたクロウは、ボルジアが戦争の裏で暗躍していたこと、彼とアイスラーが結託していたことなどをあきらかにしていく。さらに、アイスラーがネームレスに仕掛けた陰謀の数々を指摘。これにより、ネームレスの違反容疑が晴れる。

18章 月夜の決闘

A Duel Under the Moonlight

1935.10　ギルランダイオ要塞

すべてを賭けた復讐の結末

10月上旬、アイスラーが正式に逮捕され、ネームレスの正規軍復帰が確実となる。セルベリアへの復讐を果たさんとするイムカは、復帰後に単独行動をとれば隊に迷惑がかかると考え、ひとりギルランダイオ要塞に潜入。これを知ったクルトたちは、彼女を支援するため要塞に陽動攻撃をしかける。セルベリアに決闘を挑んだイムカは善戦するが、力及ばず敗北。セルベリアは彼女を殺さず、ネームレスの撤退を条件にクルトに引き渡す。ネームレスが要塞から退いた直後の10月7日、ガリア軍の総攻撃が始まり、第7小隊の活躍で要塞は陥落。しかし翌8日、捕虜となったセルベリアの自爆によって、ガリア軍の主力部隊が壊滅してしまう。

耐え難き生存

復讐だけを目的に生きてきたイムカにとって、目的を達せられないまま生き延びるのは耐え難いことだった。セルベリアが自爆したことで、復讐を果たす機会が永遠に失われたと知ったイムカは、絶望のあまり自殺を試みる。

新たな道を探して

イムカが死ぬなら、彼女に協力するという約束を果たすために自分も死ぬとまで言うことで、何とか自殺を思いとどまらせるクルト。この言葉に動揺したイムカは、初めてクルトに、ナンバーではなく名前で呼びかける。

19章 ランドグリーズ決戦

The Final Battle at Randgriz

1935.10　ランドグリーズ

最高を追い求めたふたりの決着

10月7日、マクシミリアン最後の切り札である陸上戦艦マーモットがガリアに侵入。満身創痍のガリア軍はこれを止められず、首都ランドグリーズの電撃占領を許してしまう。首都にいるアイスラーの自白がユグド教団に伝われば地位を失うボルジアは、カラミティ・レーヴェンに、ダルクス人自治区建設の確約と引き替えに首都の爆破を要請。ダハウは虐殺行為を嫌って拒否するが、グスルグは自治区獲得のため手を汚す決意をする。この動きを察知したネームレスは、足止め部隊の猛攻を退けつつグスルグを追撃。彼を破り、すんでのところで首都爆破を阻止する。

幸せになる権利

セルベリアが、ヴァルキュリアの力による自爆で多くの人命を奪ったことは、リエラに大きな衝撃を与えた。ヴァルキュリアに幸せになる権利はないと落ち込む彼女を、クルトは自分が幸せにしてみせると元気づける。

男を理解した女

主義や理想を持たず我欲に忠実なリディアは、グスルグの行動を理解できずにいた。しかし、グスルグが力づくで自分を利用しようとしたとき、彼の理想と自分の欲望に同質のものを見出し、彼についていく決意を固める。

最低男のために

"最低男"のグスルグに惹かれたリディアは、彼のランドグリーズ爆破を成功させるため、追撃してくるネームレスを命がけで足止めする。この戦いで彼女は倒れるが、その死に顔は、かつてないほど満足げだった。

退けない一戦

仲間と歩むことをグスルグに教えられたというクルトに、理想を追求することをクルトに学んだと語るグスルグ。首都の存亡をかけた戦いは、互いに高め合い、結果として対立することになった戦友たちの決戦でもあった。

理想に殉じた友

戦いはクルトの勝利で幕をとじ、グスルグは絶命する。ネームレスがランドグリーズを守ったのと時を同じくして、ウェルキンの第7小隊が、孤軍奮闘の末にマーモットを撃破。ガリアの勝利が確実になる。

20章 再び、NAMELESSへ

Nameless Again

1935.10　帝国領内

みずから名を捨て、未来を守る戦いへ

10月10日、マーモットに乗っていたマクシミリアンが戦死し、終戦がほぼ確定する。政治的な駆け引きでダルクス人自治区を獲得する道を閉ざされ、同志も失ったダハウは、それまで否定してきた、犠牲をともなうやり方によるダルクス人国家建設を決断。ボルジアの切り札だった古代の超兵器「ヴァルキュリアの鉄槌」を強奪し、各国を恫喝することで建国を果たそうとする。アイスラーの自白から鉄槌の存在を知ったクルトは、ダハウがこれを使うと考え､阻止を決意。鉄槌は帝国領にあり、ガリア軍人の立場では手を出せないため、ネームレス一同は国籍を捨てて戦いに挑む。建国の取引材料を作るためにランドグリーズを砲撃しようとしていたダハウは彼らを迎撃するが、激戦の末に敗北し絶命。発射態勢に入っていた鉄槌も、隊員たちの手で止められる。最後の役目を終えたネームレスは解散。そして10月25日、ガリアと帝国のあいだに休戦協定が結ばれる。

暴走する理想

ボルジアの失脚とガリア戦役の終結が確実になったことで、後ろ盾も活躍の場も失い、カラミティ・レーヴェンを存続させることすらできなくなったダハウ。非道な手段を拒んできた彼だが、理想実現のために宗旨を曲げ、ボルジアを暗殺して、弾道兵器「ヴァルキュリアの鉄槌」のキーを奪う。

そばにいてほしい人

弾道兵器「ヴァルキュリアの鉄槌」に挑む覚悟を決めたクルトは、国籍を捨てるという重い決断をいちばん大切な人に伝え、愛を告白。彼女はクルトの言葉を受け入れ、ふたりは結ばれる。

祖国を守るための決断

ネームレスの面々は、クルトとともに戦うことを承諾。彼らの決心を聞き、国籍を消すよう頼まれたクロウは、それまでナンバーで呼んでいたクルトを一度だけ名前で呼んだあと、ネームレスの死亡手続きを進める。

英雄になりたかった少年

ダハウのもっとも古い部下であり、彼に憧れ続けてきたジグ。万一の敵襲に備えていた彼は、国境付近でクルトたちを迎え撃つが、百戦錬磨のネームレスを止めることはできなかった。ダルクスの英雄になりたかった少年は、夢を果たすことなく倒れる。

最高の必勝策

クルトは、未知の巨大兵器に対して不安を隠せない隊員たちを、必勝の作戦があると話して安心させる。しかしじつは、彼にも具体策はなかった。これを見抜いた彼女に、自分とみんなが信頼し合って戦うことこそが最高の策だと答えるクルト。それはシンプルながら、彼がネームレスで学んできたことが集約された作戦だった。

宿敵との最終決戦

示威のため、そしてガリアを帝国との取引材料にするために、ダハウは弾道兵器でランドグリーズを焼き尽くそうとしていた。クルトたちは彼のやり方を激しく非難するが、追い詰められたダハウは聞く耳を持たない。

ダルクスの英雄の最期

激戦の末にダハウは敗北するが、弾道兵器はすでに発射態勢に入っていた。最後の最後に、かつて亡き妻と語り合った本来の理想を思い出した彼は、砲撃で命を落とすであろうランドグリーズの同胞たちを案じながら逝く。

破滅へのカウントダウン

砲撃を止められず、施設を破壊するのも危険という状況に追い込まれたクルトは、発射の方向を変えるという決断を下す。限られた時間のなかで、弾道の計算をして未知の装置を動かすという、ギリギリの挑戦が始まる。

ネームレス最後の仕事

計算が得意な者が弾道を割り出し、機械にたけた者が装置を確認し、重火器を扱うメンバーが発射台の固定装置を破壊する。全員が協力し合い、それぞれの得意分野で力を出し切ることで、ネームレスは難関をクリアしていく。

みんなのための一撃

発射の直前、クルトたちはついに弾道の変更に成功。都市を焼き尽くすほどの威力を秘めた光弾は、ネームレスの頭上に射出される。リエラは光弾の落下を防ぐため、ヴァルキュリアの力でこれを破壊。自身の能力に悩み続けた彼女だが、最後の最後に再び、その力で仲間たちの命を救う。

そして歴史の闇へ

役目を終えたネームレスは現地で解散。隊員たちは、異国の地でそれぞれの道を歩み始める。そして休戦と同時に、ガリアの元首コーデリアが、自身はダルクス人だと宣言。彼女の勇気ある告白、そしてダルクス人の国主が存在するという事実は、各地のダルクス人に大きな希望を与える。

断章　～ガリア戦役を戦った者たちの横顔～

大規模な作戦の狭間で数知れず起きる、小規模な局地戦や遭遇戦。これら、後世には忘れられがちな戦いのなかにも、幾多のドラマがある。ここでは、ネームレスの隊員や彼らにかかわった人々、それぞれのパーソナルな側面が浮き彫りとなった戦闘や事件を取り上げていく。

「山岳奇襲作戦」より

クルトがまだネームレスに馴染んでいなかったころ、彼は夕食の当番を引き受けるが、スパイスの調合に凝りすぎて食事を完成させられなかった。翌日の奇襲任務でクルトは、攻撃速度を上げるため全物資を置いていくよう通達。自身も自慢のスパイスを残していく。しかし、作戦が成功するとすぐに、物資を回収するよう命令。休息したい隊員たちは反発するが、スパイスによる料理を何としても振る舞いたいと語られ、クルトが彼なりに自分たちに寄り添おうとしていると悟る。

「私の居場所」より

孤独な人生を歩んできたリエラは自分の居場所を切望し、それをネームレスに見出していた。6月のある任務で、彼女はヴァレリーの偵察に志願して同行。偵察の目的は、あえて発見されて敵を誘い出すことだったが、ヴァレリーはリエラを気遣い、真意を伝えていなかった。敵に見つかったのを自分のミスと勘違いしたリエラは、自責の念から敵に突撃。彼女をフォローしつつ敵を殲滅したクルトたちは、リエラのネームレスに対する思い入れの強さを改めて痛感する。

「正の力、負の力」より

イムカの強さに惹かれ、彼女に手合わせを申し込んだアニカ。イムカは、挑戦を拒んだうえでアニカを奇襲し、勝利のみを求める自分の強さが、正義を重んじるアニカとは異質なことを知らしめる。納得がいかないアニカは、攻撃任務の際に撃破数で勝負することを宣言。功を焦った彼女は、敵陣に取り残されてしまう。勝負には興味がないと語っていたイムカだったが、この事態を受けて救出役を志願。アニカを助けつつ、撃破数でも彼女を上回ってみせ、格の違いを見せつける。

「グスルグという男」より

6月、ネームレスはダルクス人の村に逗留しようとしていた。軍を嫌う村人たちは彼らを拒むが、グスルグに説得されて受け入れを承諾。しかし、直後に正規軍が現われ、作戦のために村を焼くと伝える。グスルグの怒りを酌んだクルトは、みずから打って出て帝国軍を撃退することにより、正規軍の暴挙を阻止。クルトの行動に感動したグスルグは、ダルクス人の地位向上を目指したためにネームレス送りにされたという過去を初めて明かし、その志を捨てていないことを伝える。

「カラミティ・レーヴェン始動」より

ガリア戦役の開戦前夜、ボルジア枢機卿は野望実現のため、マクシミリアンにダルクス人部隊の創設を認めさせた。ボルジアは隊長ダハウに野心家マクシミリアンの牽制を命じ、さらに腹心リディアを部隊に配属。ここにカラミティ・レーヴェンが誕生する。ガリアに赴いたダハウは、戦場でイェーガーと対面。ふたりは互いの力量を認め、ボルジアの政治力を利用してのダルクス自治区建設と、マクシミリアンの力を借りての祖国復興という、それぞれの目標を語り合う。

「剣より強きもの」より

あるときネームレスは、正規軍と共同でダルクス人の村の解放に当たる。しかし、ダルクスを蔑む正規兵たちの士気は、極めて低かった。ネームレスはやむなく独力で作戦を遂行。戦闘後、正規兵との間に険悪なムードが漂う。そのとき、かつて将校用の食材を勝手に調理して罰せられたという筋金入りの料理人ジュリオが、地元名物のダルクス料理を調理。その味は正規兵を感動させ、彼らの偏見をも和らげる。料理は世界中を笑顔にする——それがジュリオの信念だった。

「I for All」より

戦争で家族を失ったことから、部隊の仲間を家族と見なしている世話焼き男、フェリクス。仲間たちの生存を第一に考える彼は安全策を好み、クルトとは意見が対立しがちだった。リスクを取らないことがむしろ危険なこともあると周囲に諭されても、隊長が危ない橋を渡りがちだからこそ自分がみんなを守らなければと、決意を強くするばかり。ある任務で彼は、負傷したジュリオを担いで敵陣から逃げ切るという離れ業を見せ、仲間への思いの強さを周囲に印象付ける。

「ガリアの隼」より

もと探偵のアルフォンスは、福々しい体型とキザな物言いとのギャップで周囲に呆れられてばかり。しかし、彼の観察力と推理力は超一流だった。あるときネームレスは、貴族のワルド卿の護送任務を受諾。その行く手に、完璧すぎるタイミングで帝国軍が現われる。戦闘後、不審がるクルトたちの前で真相を明かすアルフォンス。ワルド卿は帝国と内通しており、情報を知りすぎたために命を狙われたのだった。アルフォンスがつかんだ証拠によって、卿は刑務所送りになる。

「絆」より

内向的で不平屋なダイトは、隊内でも浮いた存在だった。そんなダイトを気にかけるエイミー。彼女は父のため、ダイトは妹のために軍に志願しており、ふたりは相手に家族の姿を重ねていた。あるとき、かねてから不遇にいらだっていたダイトは脱走を計画。エイミーは、彼の無茶を体を張って止める。直後に妹の死を知らされるダイト。心の支えを失った彼は死と破滅を望むようになるが、エイミーのやさしさを受けて立ち直り、彼女にだけ自分の名前を明かす。

「戦場を愛する軍人」より

ネームレスには珍しい志願入隊者で、軍人気質の持ち主であるセルジュ。不治の病が理由で正規軍を除隊になった彼は、戦場で死ぬためにネームレスに加わっていた。ある困難な任務で、セルジュは死に場所を求め、命令に背いて単独で出撃。任務を果たしてセルジュを助けたクルトは、彼をきびしく叱責する。セルジュはクルトが、自分を病人ではなく軍人として扱い、部隊の一員として生きさせようとしてくれたことに感激。命が続く限り、彼のもとで戦い抜くことを誓う。

「比類なき女」より

駄目な男を鞭で教育するレイラは、女王様気質ではあるが倫理意識が強く、部隊の引き締め役として隊員たちに一目置かれていた。ある任務で彼女は、強硬に抵抗する帝国兵に対し、「マクシミリアンより自分に仕えろ」と大胆な演説をぶつ。これで敵が動揺したことにより、ネームレスは勝利。しかし当のレイラは、帝国兵を従えられなかったことを悔しがる。彼女は、すべての男を自分にひれ伏させるという方法で世界を平和にすることを、大真面目に目指していたのだった。

「拳汚れなく、道険し」より

かつて自分を助けてくれた人のように強くなるため、日々鍛錬を重ねるアニカ。グロリアは、力だけを追い求める彼女に危うさを感じ、忠告を重ねていた。そんなある日、市街地を占拠した反乱部隊の制圧を命じられるネームレス。敗北した反乱軍は、撤退時に街を焼き払う。独善的な正義を信じて殺戮に走る反乱軍の姿に、心を欠いた力の恐ろしさを見るアニカ。彼女は、力だけでなく心も鍛えることを決意し、心の大切さに気づかせてくれたグロリアを師と慕うようになる。

「暗闇に棲む老女」より

62歳にして現役を自称するグロリアは、地獄の闇社会を生き抜いてきた猛者だった。普段は周囲を諭す役回りをしていた彼女だったが、鉱山でのある任務に正規軍と携わったとき、正規軍人の横柄な態度に怒りをあらわにする。ネームレスの活躍で作戦は成功。しかし、直後に落盤が発生して、正規軍部隊ともども鉱山に閉じ込められてしまう。正規軍人はネームレスに当たり散らすが、グロリアは裏社会の者が知り得ないルートを使って全員を脱出させ、彼らの鼻を明かす。

「隠された真実を求めて」より

ヴァレリーは、ランドグリーズ家が秘匿する歴史記録を求めて城の書庫に無断侵入してしまうほど、研究への思いが強い歴史学者。その罪でネームレスに送られても、彼女は真実の探求を止めようとしなかった。ダルクス人が破滅をもたらしたという通説を疑う彼女は、真実があきらかになればダルクス人差別はなくなると信じ、ひたすらに調査を続ける。その熱意を目の当たりにしたダイトは、彼女のアカデミックにすぎる視点を戒めつつも、彼にしては珍しく応援の意を表わす。

「老将軍、ザハール」より

ザハールは、酒癖の悪さは桁外れだが誇り高い軍人だった。ある戦いで、民間人を守れなかった彼は思いを吐露。帝国に蹂躙された国フィラルドの軍人だった彼は、ガリアを第二のフィラルドにしないという決意で戦っていた。その晩、酔ったザハールは帝国将軍イェーガーを非難。これを聞いたセルジュは、かつてイェーガーを見出した、フィラルドの英雄的将軍の噂を思い出す。ザハールがその将軍なのか否か、本人からは真剣な証言が期待できず、真相は闇の中だった。

「真の忠義」より

東方の島国で生まれ、軍人は主君のために死ぬべきと教えられてきたシンは、生存を重んじるネームレス隊員が理解できずにいた。ある任務で彼は、クルトの後退命令を無視して孤立。国主の土地を守る使命は隊長命令に勝ると語るシンを、彼と親しくなっていたセルジュは、隊長の命令は国主の命令に等しいと諭す。この言葉が正しいと感じたシンは、命令違反を詫びるため切腹を敢行。クルトが中止を命じたことで事なきを得るが、隊員たちは異文化交流のたいへんさを実感する。

「歪んだふたり」より

どれだけ敵を殺せば英雄になれるのかを確かめるためネームレスに来たとうそぶく、ガリア史上最大の犯罪王セドリック。そんな彼を追って、元刑事のエイダが入隊してくる。セドリックに刑事人生を狂わされた彼女は、彼を追うこと以外の何にも興味を示さない偏執狂だった。事あるごとにセドリックを罵倒するエイダだが、ある困難な任務で彼をかばって負傷。戦場では死なせず処刑台に送ると語る彼女を、セドリックも本気で介抱する。ふたりの間には、不思議な絆があった。

「奈落に咲いた高嶺の花」より

エリート軍人だったマルギットはネームレスの仲間を見下していた。彼女は隊員に無理を強いる作戦を提案し、クルトに却下される。翌日、同じ作戦を正規軍に強要されて自分の傲慢に気付いたマルギットは、修正した作戦を立て、仲間たちに協力を懇願。周囲はマルギットの必死さに応え、彼女はネームレスに溶け込む。

「罪と嘘」より

クラリッサがネームレスに送られたのは、帝国の捕虜に恋をし、その男を逃がしたことが原因だった。ある攻撃任務を終えたとき、彼女は逃がした帝国兵と再会。彼はいっしょに逃げることを望むが、ネームレスで成長したクラリッサは、いま逃げても幸せにはなれないと答える。思い人と別れたクラリッサは、彼とともに生きられる平和な日が来るまで戦い抜くことを誓う。

「真の愛を騙る者」より

結婚詐欺でネームレス送りにされたエリオットは、女と見れば口説かずにはいられないプレイボーイ。彼の行動が理解できないエイミーは、本気で結婚しようとはしないのかと尋ねるが、はぐらかされてしまう。あるときエリオットは、帝国軍の残党から人質を救出。その人質は、かつて彼が唯一、本気で愛した女性だった。彼女が幸せに暮らしていると知って、名乗ることもせず立ち去るエリオット。気遣うエイミーに、女性の幸せを第一に考えるのが自分のモットーだと語る。

「一途な男」より

筋金入りの怠け者であるイルマリが唯一、本気になる存在。それはリエラだった。彼女を喜ばせるため、かつて得意だったトランペットの練習を再開するイルマリ。そんな折ネームレスは、正規軍を助けるため囮を用意しなければならなくなる。危険な役にリエラが志願したのを見て、イルマリは自分が引き受けると宣言。トランペットの腕前を活かして、見事に囮の役目を果たす。リエラがクルトを好きなのを知りつつも、彼女を喜ばせられたことがうれしいイルマリだった。

「アンタッチャブル・レディ」より

帝国の極悪部隊と戦うことになったネームレス。隊員たちが息巻く中、ひとり冷静を保つ隊員がいた。普段から何事にも無関心で、仲間とも交わらない元囚人、ジゼル。彼女は戦場で、「友だち」の気配に気づく。ほどなくして敵部隊が放った炎に囲まれ、窮地に陥るクルトたち。しかし、炎の性質を熟知したジゼルの活躍で事なきを得る。彼女は炎を偏愛する性癖の持ち主で、「友だち」と遊んだ、すなわち火災を起こした罪で、刑務所に。そしてネームレスに送られたのだった。

「怖い女」より

ネームレスだけで、帝国の超精鋭部隊を叩かねばならなくなったクロウ中佐。難敵に対抗するため、彼はフレデリカから情報を買うことを決意する。隊員の多くが、男好きな美女としか見ていなかったフレデリカ。その正体は、他国でのスパイ行為の発覚を防ぐためネームレスに逃げ込んだ、クロウをも手玉に取る凄腕の情報屋だった。高精度な情報のおかげで、ネームレスは強敵の撃破に成功。周囲が勝利に沸く中、高額の報酬を手にしたフレデリカは、ひとりほくそ笑む。

「NAMELESS、再集合」より

ガリア戦役の終結からしばらく経ったある日、とある場所にネームレスの全員が集った。理由は、クルトとリエラの結婚式。クルトから連絡を受けたアルフォンスが、ヨーロッパ各地に散ったメンバーの居場所を調べ上げ、招待状を出したのだった。旧交を温め、それぞれの新たな人生を報告し合う隊員たち。やがて酒盛りが始まり、式を前に出来上がってしまう者も現われ、会場は賑やかになっていく。ウェディングベルが鳴り響くなか、記念撮影をする面々。そして式が始まる……。

「中部戦線を打開せよ」より

義勇軍第3中隊第7小隊ではイサラとロージーの口論が絶えなかったが、隊長ウェルキンはとくに干渉しなかった。6月、大軍がにらみ合う中部戦線の状況を好転させよと命じられる第7小隊。いち小隊が担うには無茶な任務だったが、ウェルキンたちは力を合わせて大戦果を挙げ、任務を果たす。戦闘後、少し距離を縮めるイサラとロージー。小隊を家族と見なし、家族はぶつかり合って成長するものと考えるウェルキンは、あえて彼女たちを止めずにいたのだった。

「未来を憂う兄妹」より

極端なダルクス人排斥論者にして、筋金入りの愛国者であるガッセナール兄妹。正規軍人であることに誇りを抱くふたりは、腐敗した挙げ句に義勇軍にばかり頼る正規軍上層部に対し、強い不満を抱いていた。7月、ファウゼン攻略に参加した兄妹は、友軍が奇襲されたとの報を受けて救援に急行。襲撃部隊はカラミティ・レーヴェンだった。彼らを退けたふたりは、ガリアでもダルクス人が目立ち始めていることに思いを馳せ、自分たちがガリアを立て直すのだと改めて決意する。

「明日を目指す若者達」より

8月、巨大戦車エヒドナが残した傷が癒えていないメルフェア市を、半ば野党化した帝国軍残党が襲った。アバンは、自警団を率いて彼らを撃退。直後に兄レオンからの手紙を受け取った彼は、祖国のため戦う兄のように生きていくことを誓う。同じころゼリとコゼットも、それぞれの立場で努力を重ねていた。ガリア戦役でクルトたちとかかわった3人の若者は、2年後にクルトの母校ランシールに入学し、やがてガリアの未来を賭けた戦いに身を投じることになる。

「獅子と才女」より

戦場で活躍を重ねてきたレオンは「義勇軍の赤き獅子」と呼ばれ、周囲の注目を集める存在になっていた。8月、彼が所属する義勇軍第3中隊第4小隊は、付近の村を守るため帝国軍を迎撃。しかし隊長が逃亡してしまい、部隊は機能不全に陥る。そこに、村で教師をしていたユリアナが到着。ユリアナの力を見抜いたレオンは、彼女に指揮を任せる。ふたりの奮闘で、小隊はからくも勝利。互いの健闘を称え合って別れたレオンとユリアナは、戦後ランシールで再会することになる。

「クルト・アーヴィングの初陣」より

開戦直後の3月下旬、入隊したばかりのクルトは、小隊長から作戦について相談されていた。情報を収集したクルトは、休息中の敵への奇襲を提案。小隊長はリスクを恐れ、クルトに指揮を丸投げして前線を離れてしまう。隊員たちの反対を意に介さず攻撃を実行し、勝利を収めるクルト。これはガリア軍にとって、今回の戦争で初めての勝利だった。隊員たちは喜びに沸くが、クルトは無感動でそっけない反応しか示さない。隊員たちは、クルトをより遠ざけるようになっていく。

※ダウンロードコンテンツ(初回特典)
※「戦場のヴァルキュリア3 EXTRA EDITION」に収録

「力の秘密」より

ナジアル会戦の少しまえ、帝国軍からアスロン市を守るべく偵察に出たリエラ。だが、市はすでに敵に制圧されていた。ヴァルキュリアの能力を発動するための装備を持たない状態で敵に見つかり、窮地に陥るリエラ。しかし、身につけていた祖母の形見のナイフにヴァルキュリア装備と同質の力があることを発見し、危機を脱する。到着したクルトたちとともに、アスロン市の帝国軍を駆逐した彼女は、戦闘後に休暇を希望。海岸で、クルトとのバカンスを満喫する。

※ダウンロードコンテンツ
※「戦場のヴァルキュリア3 EXTRA EDITION」に収録

「No.1は眠れない」より

鉱山地帯で戦っていたネームレスは、万年雪が積もるティトレイス山を攻撃目標に設定。寒さが苦手なイムカは対策をしようとするが、部隊に予備の毛布はなかった。そんなイムカを見て、自分の毛布を貸そうとするクルト。気を遣って受け取ろうとしないイムカに、クルトはいっしょに寝ることを提案する。動揺しつつも悪い気はせず、ぐっすりと眠るイムカ。作戦の成功後、彼女は再びいっしょに寝ることを望むが、翌朝リエラに見つかり、彼女に問い詰められる羽目になる。

※ダウンロードコンテンツ
※「戦場のヴァルキュリア3 EXTRA EDITION」に収録

「もうひとつのボルジア護衛作戦」より

5月、ボルジアを快く思わないマクシミリアンは、ガリアに入った彼を秘密裏に捕らえようとしていた。ボルジアは、アイスラーを通じてネームレスに護衛をさせる一方で、ダハウに捕獲部隊の排除を命令。捕獲部隊を軽く一掃したダハウは、ボルジアに自分たちの実力を見せつけるため、ネームレスに対しても攻撃をしかける。ネームレスを破ってボルジアを迎え入れたダハウは、驚かせたつもりの攻撃がじつはボルジアに予測されていたと知り、彼に対する認識を新たにする。

※ダウンロードコンテンツ

「セルベリア、ナジアルを征く」より

ナジアル会戦の直前、マクシミリアンはセルベリアに、ヴァルキュリアの力で戦いを勝利に導くよう命じていた。マクシミリアンのために力を振るう機会を待ち望んでいたセルベリアは、勇躍して出撃。ナジアルの各戦線を転戦し、ガリア軍を圧倒していく。精強で知られたオドレイ隊をも退けたセルベリアは、ガリア軍に降伏を勧告。しかし、勝利を確信した彼女の前に、予想外の障害が立ちふさがる。ガリア軍の陣地から現れたのは、覚醒を果たしたアリシアだった……。

※ダウンロードコンテンツ

「終戦、そして旅立ち」より

祖国フィラルド再興の後ろ盾を得るためマクシミリアンに付いていたイェーガーは、10月9日、ヴァーゼル橋で第7小隊に敗北。ガリア戦役を通じて、再興は帝国の軍事力ではなくフィラルド人の力で成し遂げるべきと考えを改めていた彼は、マクシミリアンのもとに戻らず、独力でガリアを脱出しようとする。しかし国境は、マクシミリアン一派を捕らえて敗戦責任を負わせようとする帝国軍に封鎖されていた。国境を強行突破したイェーガーは、夜空を見上げ、祖国再興を改めて誓う。

※ダウンロードコンテンツ

「激突！　ウェルキン対ダハウ」より

7月、ウェルキンを危険視したボルジアはダハウに抹殺を命令。ダハウは、地雷でエーデルワイス号を無力化したうえで別働隊と挟撃する作戦を立てる。ウェルキンは不穏な気配を感じ取るが、勇み足を犯したイーディを助けるためダハウに応戦。結果、エーデルワイスの戦闘力を奪われてしまうが、敵の別働隊が到着しなかったこともあって勝利を収める。ウェルキンが別働隊を足止めしたと考えたダハウは、彼の手腕を認めて撤退。しかし真相は、ダハウの見立てとは違っていた。

※ダウンロードコンテンツ

「激突？　イーディ対ダハウ」より

ダハウがウェルキンに仕掛けようとしていたとき、第7小隊で偵察を担当していたのは、イーディを中心とする面々だった。敵部隊が動き出したのを見たイーディは、考えなしにこれを追跡。しかし、極度の方向音痴である彼女はあらぬ方向に移動し、偶然、敵の別働隊と鉢合わせてしまう。結果的に別働隊を足止めし、ダハウの作戦をくじくことになったイーディたち。しかし、それで暴走行為が許されるはずもなく、隊に戻った彼女は、アリシアに雷を落とされてしまう。

※ダウンロードコンテンツ

「Home」より

ネームレス解散後、イムカとともに生きることを選んだクルト。これからどう生きるべきかに悩むイムカは、故郷ティルカ村の跡地に行くことを望む。失われた故郷で、復讐に生きた時間を悔い、同じ過ちから生まれた悲しみと責任のすべてを背負って生き抜くことを誓うイムカ。クルトは、この地で決戦前には言えなかった愛の言葉を彼女に伝える。そしてわずかに残った故郷の花エイルシュが咲く土地を探して村を離れたふたりの前に、ひとりの少女が現われた。

※『戦場のヴァルキュリア3 EXTRA EDITION』に収録

「カリサの格言」より

ネームレスがガリア軍に追われていたあるとき、マルギット率いる分隊は、別行動で物資調達任務に就いていた。物資調達の実質的な指揮をとるカリサに、隊員たちは日頃抱いていた質問をぶつける。その中でカリサの口から語られる、彼女自身の格言「あるべきものをあるべき場所に」の真意。そして分隊は帝国軍の大部隊に遭遇する。みなが物資を捨てて逃げようとするなか、カリサがその知られざる一面を見せる。

※『戦場のヴァルキュリア3 EXTRA EDITION』に収録

「空」より

休戦が確実となった10月某日、クルトたちはグスルグの葬儀を執り行っていた。そこに、クルトからの連絡を受けたグスルグの姉が現われる。問われるがままに在りし日のグスルグについて語るクルトたちであったが、グスルグが帝国軍に寝返ったことは言い出せずにいた。しかし、姉の真摯な問いに抗えずクルトは真実を告白。それを聞いた姉は、グスルグが自分に宛てた手紙を見せる。そこに書かれていた内容に、クルトは胸を締め付けられるのだった。

※『戦場のヴァルキュリア3 EXTRA EDITION』に収録

物語の舞台

武装中立が国是のガリアにおいて、基本的に戦場はガリア国内となる。ここではネームレスの拠点をはじめ、軍施設や戦場となった舞台を紹介していく。美しいヨーロッパの風景や各所に散らばった武器や道具からは、クルトたちがここで生活し、戦っていたことが感じられるだろう。

ネームレスのキャンプ

ネームレスの宿舎となる移動式活動拠点。物資を運ぶトラックと人員用、戦車用のトランスポーターを使って移動する。ネームレスにはこの移動式活動拠点しか与えられておらず、非戦時もここを宿舎として利用している。

移動の際にはトラックやトランスポーターを動かす運転手が必要となるが、エイミー、アニカ、イムカ、リエラ、ヴァレリー、ダイトは運転技術を持たないため、残りの者が交代で運転手を務める。

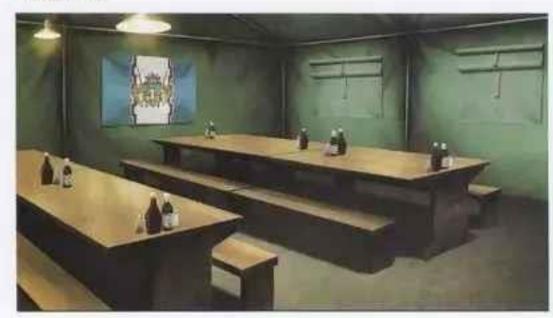
▼トランスポーター付近

▼訓練場

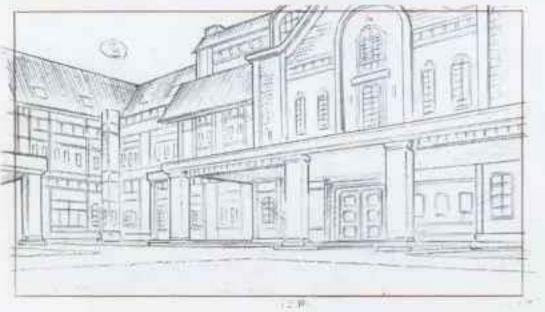
▼調達屋

▼小隊宿舎テント

宿泊用テントは女性班、男性班に分けられているが、効率化のため設営と撤収は男性、物資の搬入搬出は女性が担当。撤収命令から部隊出発まで常時5分を切るように分業が徹底され、3分を切ると隊長から賞が出ることになっている。

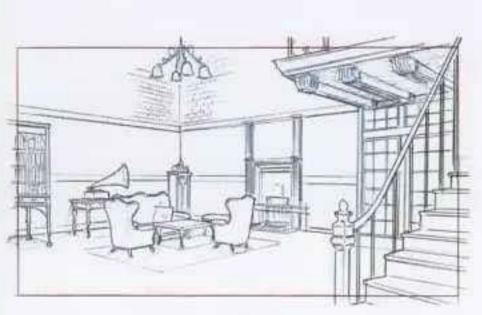
▼食堂テント

▼治療用テント

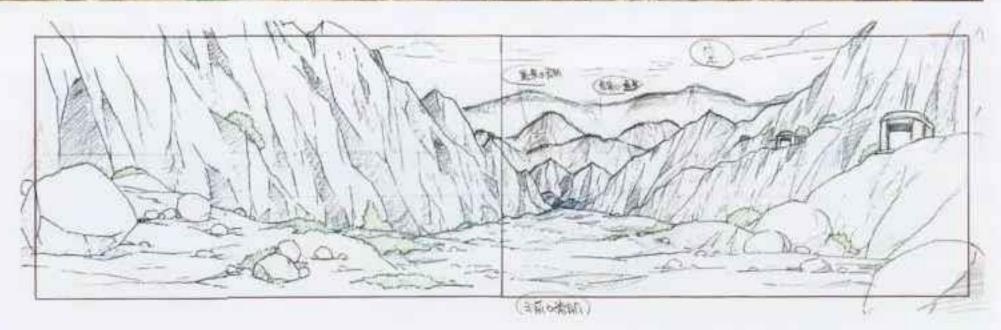
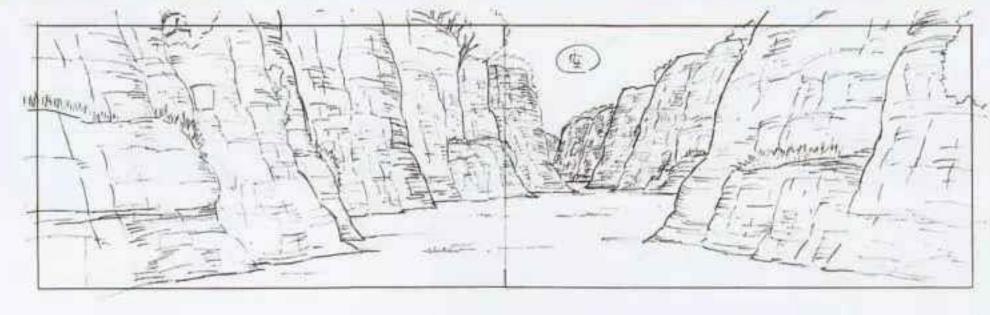
▼クルトの部屋

▼クルトの部屋(夜)

ガリア軍施設

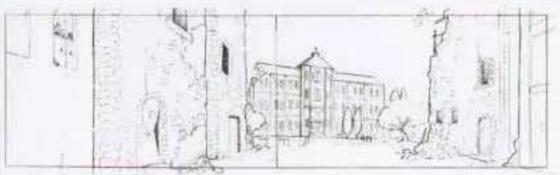
▼クロウの執務室

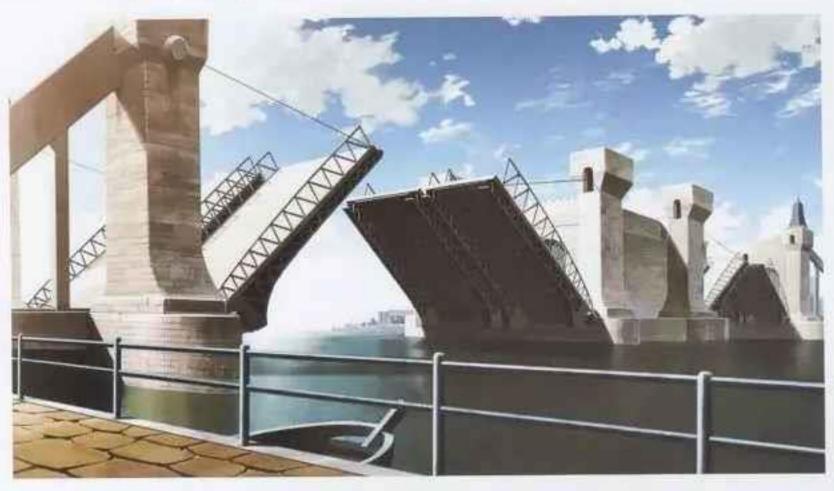
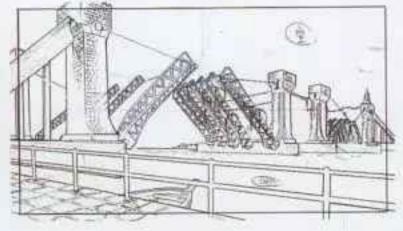
ガリア軍施設内にあるラムゼイ・クロウ中佐の執務室。諜報部としてこの部屋からネームレスに指令を伝えていた。床に散らばった酒瓶と脱ぎ捨てたままのシャツが彼の部屋らしい。

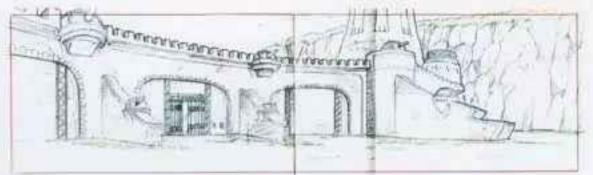
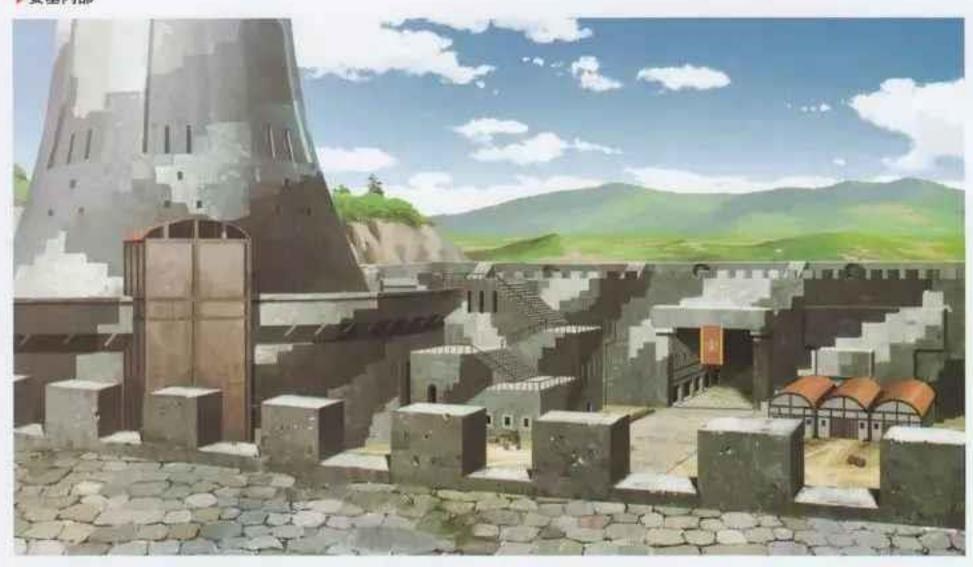
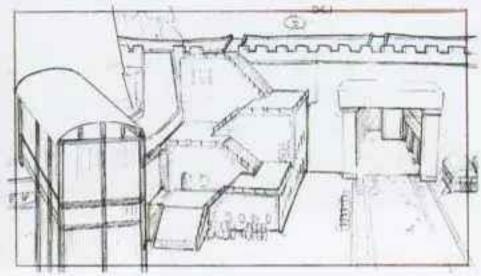
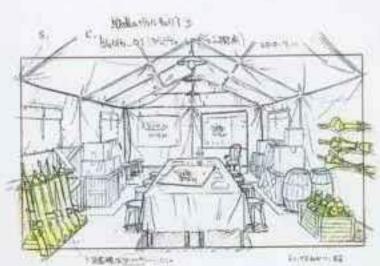
▼クロウ邸

ネームレスが造反部隊とされた際、彼は身の危険を察して、この自宅で謹慎していた。綺麗に片付いており、かなり立派な家だが、ひとり身には広すぎるだろう。

山岳

峡谷

ランドグリーズの街並み

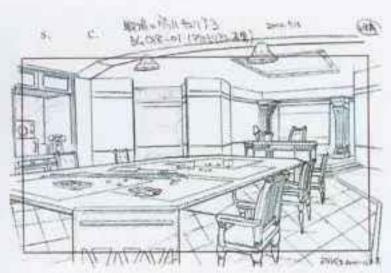
ヨーロッパ大陸最古の歴史を誇る都市にしてガリア公国の首都ランドグリーズの正面城門へと通じる目抜き通り。パレードにも使われる美しいレンガ造りの通りは、エヒドナの侵攻時に激しく損傷した。

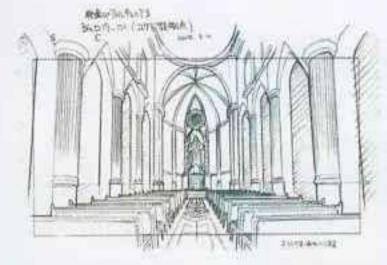
ユエル市

海岸

跳ね橋

ボーガー市にある大きな跳ね橋。ヴァーゼル橋に次ぐスケールで、同市の名物のひとつ。敵軍の渡河を阻止するため、ボーガー市側からのみ橋の操作が可能。それゆえに非難民救助作戦では悲劇が起きた。

ナジアル平原

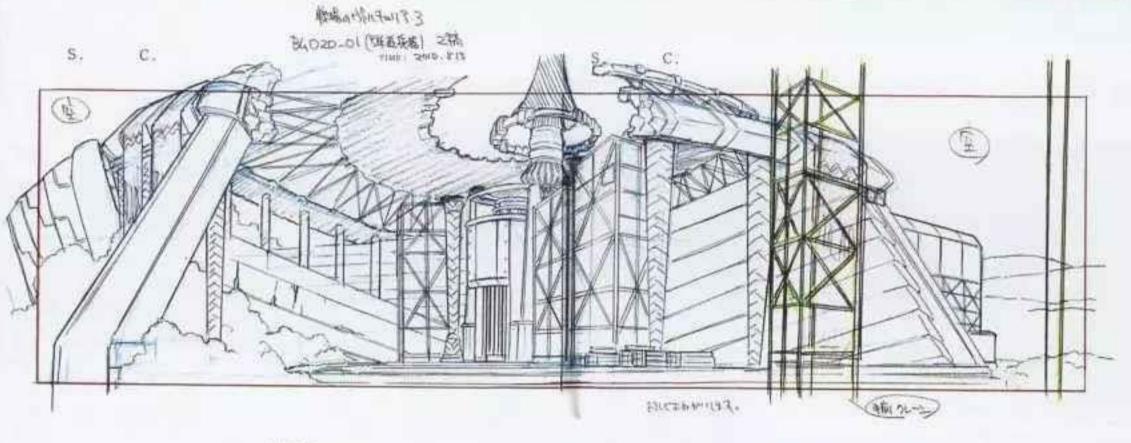
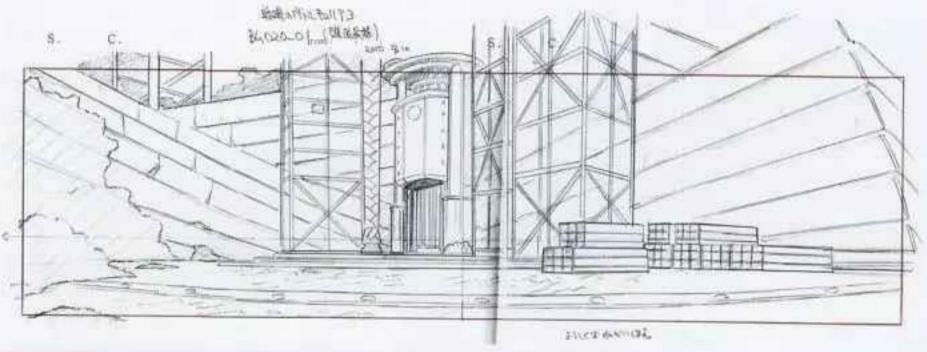
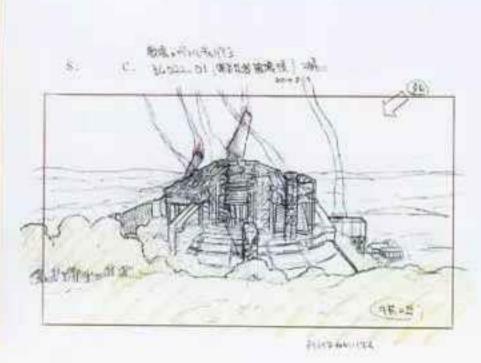
ギルランダイオ要塞

▶要塞内部

帝国との国境線にある要塞。ガリアを外敵から守る盾であったが、帝国軍によって奪われ、帝国のガリア侵攻の拠点となる。セルベリアが発動したヴァルキュリアの最期の炎によって消滅した。

カラミティ・レーヴェン拠点

この小さなテントが、帝国からの待遇が恵まれない特別遊撃部隊の拠点となる。テント内に帝国ではなくカラミティ・レーヴェンの旗が掲げられていることからもわかるとおり、ダルクス人独立のために戦う彼らの戦意はきびしい状況下でも高かった。

マクシミリアン作戦室

ギルランダイオ要塞内にある、ガリア方面侵攻部隊総司令官マクシミリアンの作戦室。奥の机にマクシミリアン、テーブルにはドライ・シュテルンの面々が座る。マクシミリアンが言ったとおり、もしダハウがダルクス人でなかったら、彼もこのテーブルの席についていた可能性がある。

ユグド教教会

帝国内にあるユグド教の教会。奥にはユグド教が神と崇める古代ヴァルキュリア像が建っている。数多くのユグド教信者が祈りをささげるこの場所で、ボルジアはアイスラーやリディアに戦争を継続させるための指令を下していた。

≪ヴァルキュリアの鉄槌

戦場のヴァルキュリア3
UNRECORDED CHRONICLES
制作過程
process

ネームレス隊員の初期デザイン

ここでは、ネームレス隊員20名の初期デザイン案の一部を紹介しよう。キャラクターの基本設定を表わすキーワードをもとに部内コンペ形式で寄せられたデザインを設定リーダーである田林氏がクリンナップした。決定稿とはかなり違う案もあり興味深い。

ジュリオ・ロッソ

Giulio Rosso

誰からも好かれる陽気な料理人

イタリアンのシェフをイメージしています。緑のスカーフと腕まくりのほか、エプロンも腰に結ぶ形で取り入れてますね。序盤いっしょにお話を引っ張るフェリクスとの差別化を図るため、ややタレ目ぎみにして、髪を短くして上げています。　（セガ・田林）

ジュリオ・ロッソ／Giulio Rosso

フェリクス・カウリー

Felix Cowley

わかりやすいカッコよさを表わした肉食系男子

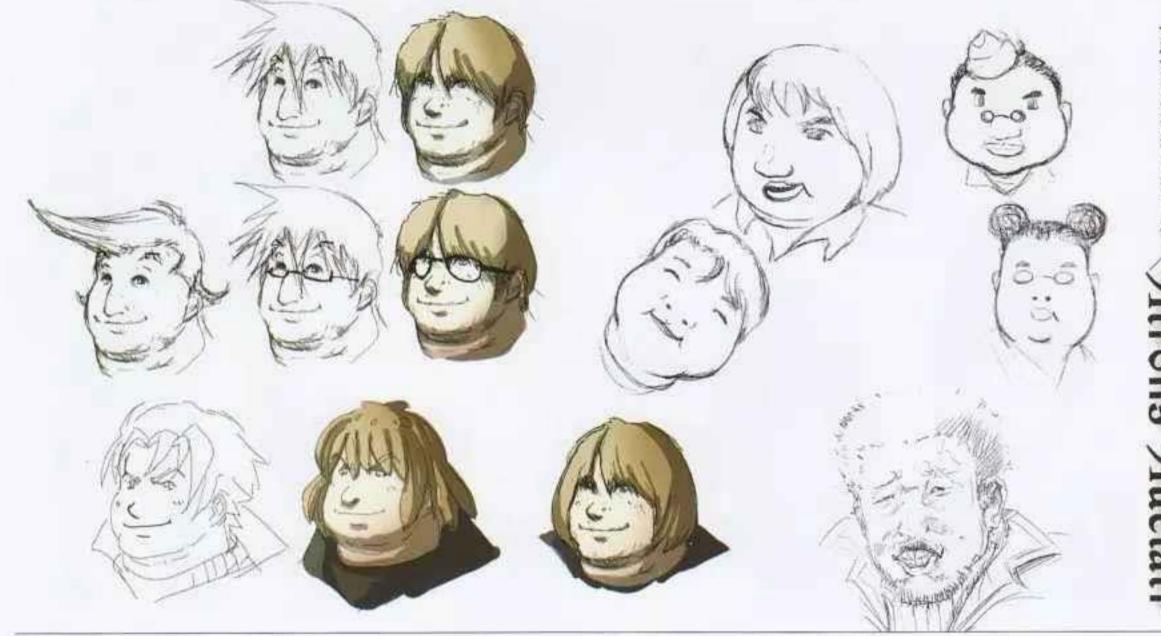
カッコイイ男として、直球の主人公顔で作りました。古典的なカッコよさのひとつとして、カウボーイ風の意匠も取り入れています。ジュリオとの対比で肌の色が濃くなっていますが、まぁ、日焼けですね(笑)。考えるよりも先に体が動くタイプです。　（セガ・田林）

アルフォンス・オークレール

Alfons Auclair

痩せれば超男前だけど、一生痩せないおしゃれデブ

貴族出身ですし、痩せればカッコいいという設定ですので、下の右側のような案は即ボツですね(笑)。アフレコでも最初は、おデブちゃんの声の演技だったのですが、外見は忘れて、完全に二枚目役として演じてくださいとお願いしました。　（セガ・小澤）

ダイト

Deit

陰気なダルクス人。でもよく見ると男前

ダルクス人の男性の顔は、鼻筋がスッと通っていて、輪郭が縦長、タレ目で、血色があまり良くない、というのが特徴です。この髪型にはベレー帽が合いますし、ほかに帽子を被っているキャラクターがあまりいなかったので、付け加えました。（セガ・田林）

セルジュ・リーベルト

Serge Liebert

死地を求めて戦う 余命わずかな元狙撃兵

女性から見てカッコいいと感じてもらえるように作ったフェリクスに対し、かわいいと思われるように作ったのがセルジュです。病弱で余命わずかという設定のため、未来に悲観しているダイトと同様、このふたりだけ目にハイライトが入っていません。（セガ・田林）

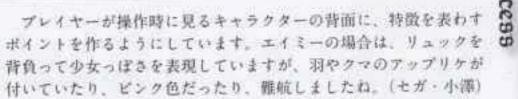
エイミー・アップル

Amy Apple

純真無垢な しっかりものの妹

プレイヤーが操作時に見るキャラクターの背面に、特徴を表わすポイントを作るようにしています。エイミーの場合は、リュックを背負って少女っぽさを表現していますが、羽やクマのアップリケが付いていたり、ピンク色だったり、難航しましたね。（セガ・小澤）

レイラ・ピエローニ

Leila Pieroni

ドMなホーマーの姉、目指すは世界の女王様

女王様のイメージですが、ボンデージで固めすぎて下品になるといやなので、フリルなどで可愛くしています。帽子を変えたぐらいで、初期デザイン案でうまく要素は出ていますね。目つきがちょっとオバサンっぽくなったので、修正しました。（セガ・小澤）

アニカ・オルコット

Annika Alcott

キーワードは スポーツ系熱血少女

いくつかの髪型の案がありますが、本庄さんの希望でショートカットになりました。服装はアスリートということでスパッツにしましたが、色はあらゆるパターンを試しましたね。髪の色との相性からいちばんハマったオレンジ色で決まりました。（セガ・田林）

グロリア・ダレル

Gloria Durrell

腰に巻いた弾薬は 歴戦のばあちゃんの証し

ヨーロッパのおばあちゃんという特徴を鼻とアゴの形で出しています。60年代風の髪をアップしたヘアスタイルとヘアバンドは、今も女を捨ててはいないという表われですね。彩度の低い紫色の髪と服も、おばあさんの目印として採用しています。（セガ・田林）

サブキャラ9 ワイルドばあさん

・装飾帽の上がなくそこから髪があふれ出ている。
・腰に付けている飾りは銃弾

酒とか弾とか色々入る

ヴァレリー・エインズレイ

Valerie Aynsley

歴史の真実を追究する大人な女性

知性のアイコンとして眼鏡を描いていますが、どんな眼鏡にするかいろいろ試しましたね。前髪パッツンなおかっぱヘアもどこか委員長っぽいですし露出がない服装と相まって、やや神経質な歴史学者という人物像とマッチしていると思います。（セガ・三神）

ザハール・アロンソ

Zahar Alonso

自称イェーガーの元上官の大酒呑みじいちゃん

フィラルド王国人ということで、肩に獣骨を付けています。このことからフィラルド王国人というのは、やや蛮族っぽい姿が連想されるので、頭に羽をつけたりしていますが、やりすぎると酋長みたいになるのがむずかしいところですね。（セガ・本山）

シン・ヒューガ

Shin Hyuga

初期デザイン案では ナンバーも漢字で「五八」

サムライということと、海外で見られる間違った日本人像というのがキーワードです。袴と着物はさすがに世界観に合わないので変更しました。ハーフということで銀髪案もありましたが、組み合わせがかっこよかった黒髪と青い目に決まりました。（セガ・田林）

セドリック・ドレーク

Cedric Drake

殺しても死ななそうな 歴史に残る大悪党

悪いヤツの顔の描き込みは、やればやるほど小悪党になってしまいます。セドリックは器のデカい大悪党ということでしたので、ちょっとタレ目にしています。あとはタトゥーを入れてほしいというリクエストがあったので腕に入れてみました。（セガ・田林）

マルギット・ラヴェリ

Margit Ravelli

ランシール王立士官学校出身の元士官

コンペでのキーワードは「ツンお嬢様」で、下の青いリボンのデザインがぴったりでした。ハウス名作劇場のいじめ役と言いますか、これぐらいのベタなデザインもいいだろうと。お嬢様なのでなま脚は出さず、白の長い手袋で気品を表わしています。（セガ・小澤）

クラリッサ・キャラハン

Clarissa Callaghan

敵兵と恋に落ち、懲罰部隊送りとなった白衣の天使

リエラのデザインがやり直しになった際（編集部注：P58参照）、開発部内で愛着のあった旧リエラは、調整を加えてクラリッサとして使われることになりました。元ヒロインですから、クラリッサの人気が高いのも当然といえば当然かもしれません。（セガ・小澤）

エリオット・オーツ

Elliot Oates

うさんくさい男前がキーワードの結婚詐欺師

白い帽子とあとで付け加えたヒゲが、うさんくささを表わしていますね。ホストっぽい見た目だと少しイメージが違うので、年齢を高めに設定しました。（セガ・小澤）／当初はエナメルの靴を履いていましたが、戦場なのでブーツにしました。（セガ・田林）

イルマリ・ガソット

Ilmari Gasotto

ちょっとオシャレで、ひょうひょうとした気ままな風来坊

風来坊ということで、60年代のヒッピー要素を取り入れましたが、女性に受け入れられるようオシャレな方向に変えました。また、音楽というアイテムが追加されたので、マフラーにト音記号を入れています。思ったほど女性受けしませんでしたね(笑)。（セガ・田林）

エイダ・アンゾルゲ

Ada Ansorge

セドリック逮捕のためなら手段を選ばない元刑事

タイトスカートという案もありましたが、犯人を追いかけるのに向かないのでやめました。銀髪のベリーショートという下の小澤の初期案でほぼ決まりですね。首元はセドリックにつけられた古傷を見せたくて、ループタイから開襟に変えています。（セガ・田林）

ジゼル・フレミング

Gisele Fleming

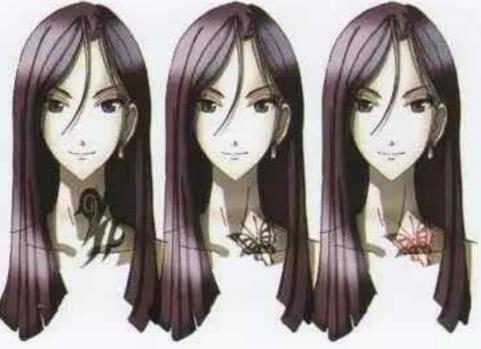
性格が歪んだキャラクターは見た目がかわいいくないと愛されない

24歳という年齢と幼い見た目のギャップが、ジゼルの狂気を表わすポイントになったと思います。ただし、エイミーとカリサという似た要素のあるキャラクターがほかにいたので、顔の幼さを、フランス人形のような無機質な感じに変えました。　（セガ・小澤）

フレデリカ・リップス

Frederica Lipps

最後に作ったキャラクターなので網タイツとハイヒールもOKに

色香で情報を引き出す女スパイですが、グラマーなブロンドというよりは、チャイニーズ系の女性のほうがイメージに合致しました。ダークなセクシーさを蝶のタトゥーで表現してますね。プレイヤーが目にする背中側に露出が多くなるようにしています。（セガ・小澤）

カラミティ・レーヴェン

カラミティ・レーヴェンの初期デザイン画を掲載。もともとはダルクス人活動家だったダハウ率いる活動組織だったが、ガルジアによって帝国軍の独立遊撃部隊として組織され、「災厄の鴉」を意味するカラミティ・レーヴェンとなり、監視役のリディアが編入された。

ダルクス人というのは、報復をしないという民族ですから、カラミティ・レーヴェンの案がまとまったときに、ダルクス人だけの敵部隊で怖く感じられるのか、という不安が生じました。そこでドクロのマスクをつけたいくつかのデザインを作ってみました。素顔を明かせない任務があり得るということも理由です。　（セガ・本山）

ロゴデザイン

タイトルロゴのデザインは、下のように変遷していった。赤色の太いゴシック体で書かれた「戦場のヴァルキュリア」は1作目のものを踏襲しており、「3」の文字と副題、ロゴまわりのシルエットについて、さまざまな案が検討されている。

▶パターン1

3人のシルエットには仮のものとしてアバンとコゼットが使われているが、ヴァールのシルエットはすでに組み込まれている。

▶パターン2

「ガリア422部隊」の副題がついた検討案。ヴァルキュリアの鉄槌のシルエットがあしらわれたロゴも検討されている。

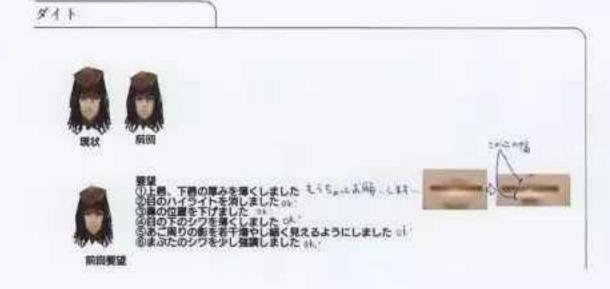
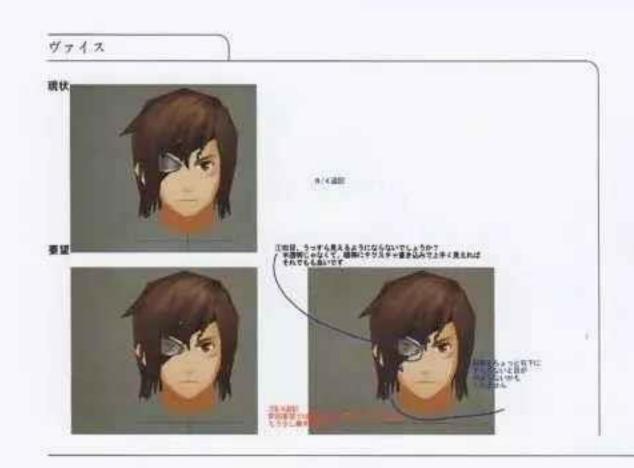
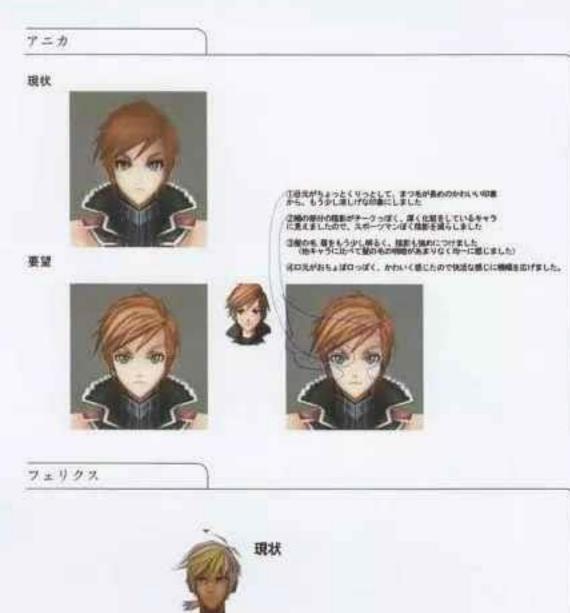
▶パターン3

副題の検討案。「Nameless 422」、「ガリア422部隊」、「名を奪われし者達」といった副題が候補に挙がっていた。

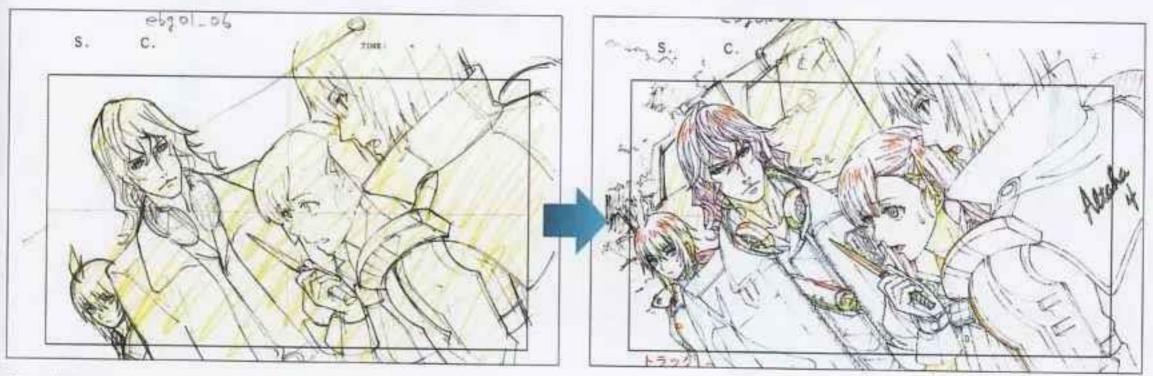
▶パターン4

副題とリエラ&イムカというふたりのヒロインを配置することに決まり、最終的な配置やカラーが検討されている。

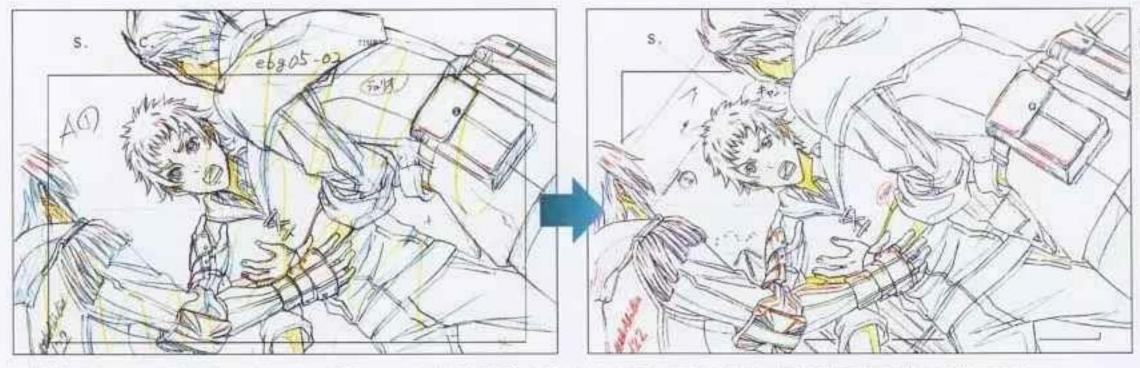
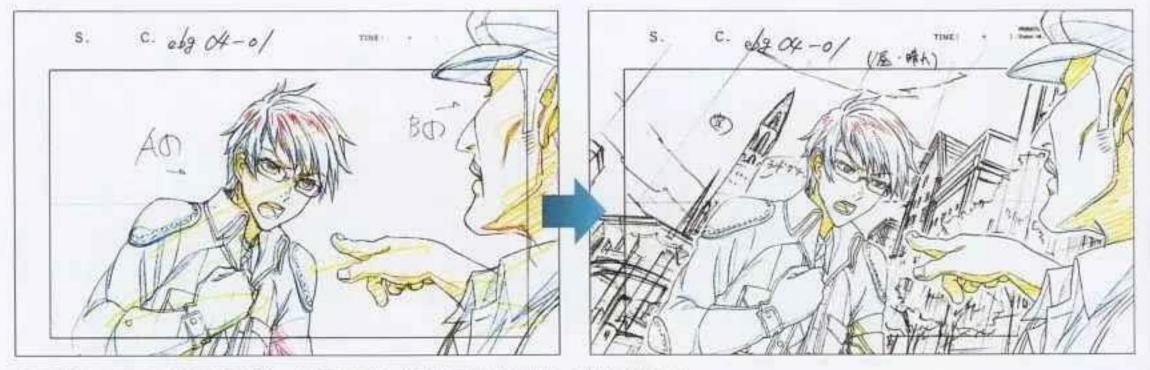
CGモデル

ゲーム中ではなかなかアップで見る機会のないキャラクターのCGモデルだが、表情やパーツの細かなところまで調整が重ねられている。そのかいあって、各キャラクターのデザインが忠実に再現されたCGモデルが生まれた。

イベント原画

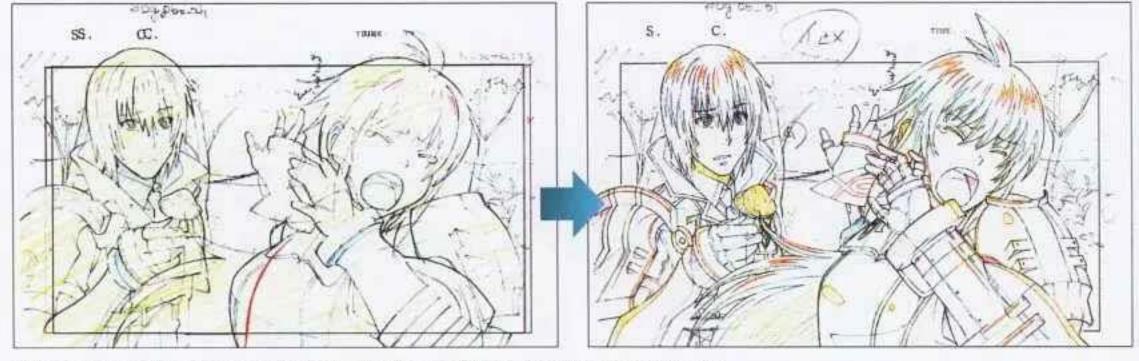
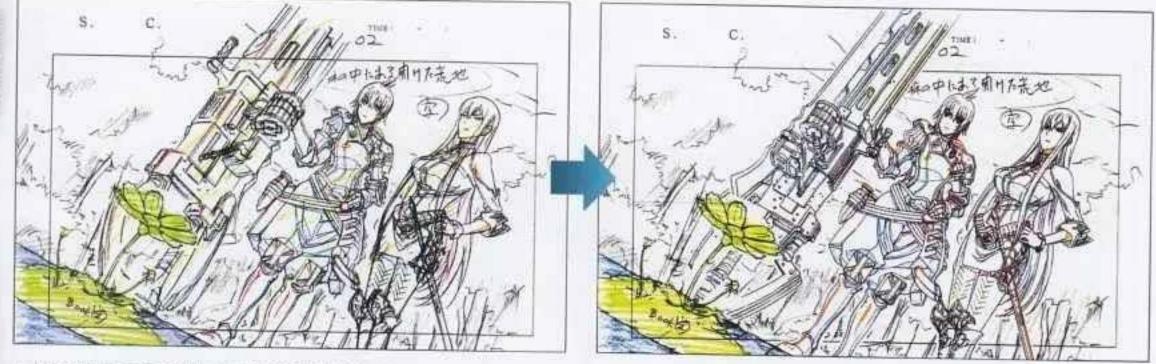
ゲーム中に挿入されるイベントグラフィックの原画を紹介していく。変更のあった原画は「修正まえ→修正後」で掲載した。レイアウトの変更や表情の変化、微妙な線の修正といった調整のほか、修正に関してやりとりされたスタッフのコメントにも注目してほしい。

背後から声をかけようとしたクルトにリエラがナイフを突きつけるカット。リエラの表情に変化がみられる。

グスルグ初登場のシーン。リエラの表情の変化のほか、イムカの位置も変わっている。

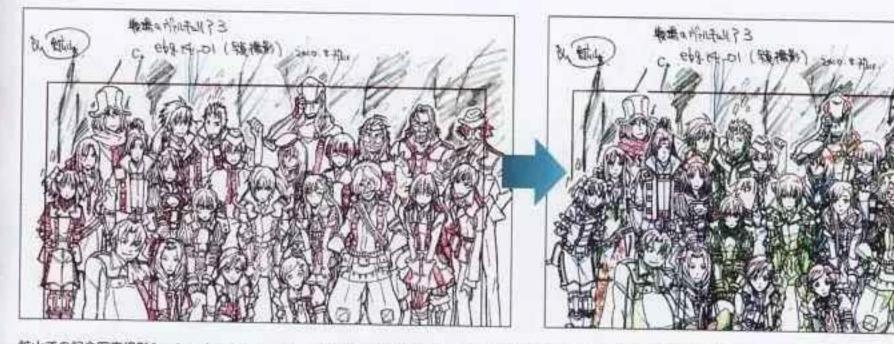
ラムゼイの髪のボリュームを少し抑えめにして、顔の輪郭の凹凸を特徴づける、という指示が書き込まれている。また、クルトがもっと胸を張るようにと、姿勢の修正ラインが赤で書かれている。

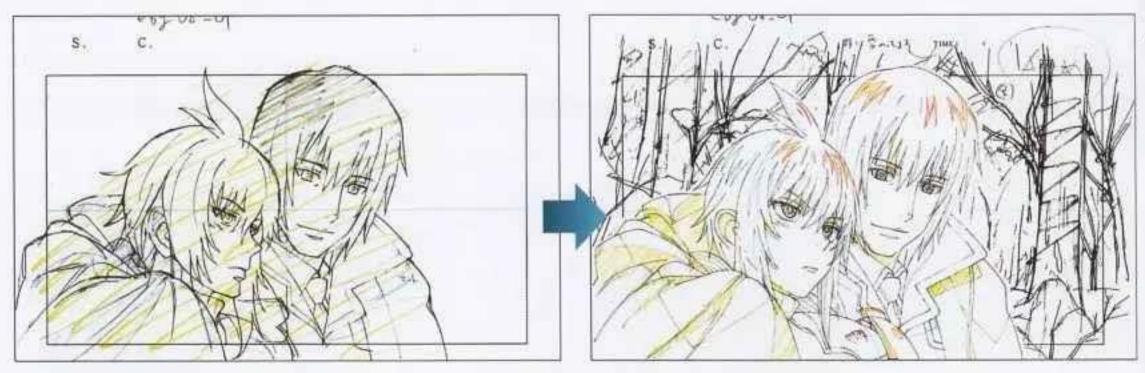
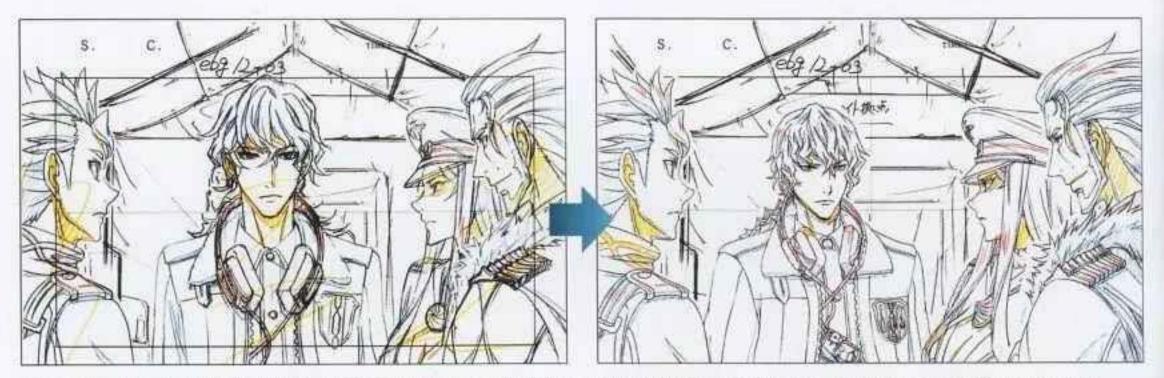
クルトが命令を聞かない隊員にいらだつ物語序盤のカット。飴玉を噛み砕いて気持ちを落ち着けようとしているシーンなので、クルトの口をもう少し歪ませる、という指定が書かれている。

前作「戦場のヴァルキュリア2」の主人公であるアバンの登場シーン。前作より年齢がふたつ下がっているが、子供っぽすぎたためか、修正後の原画では表情が大きく変わっている。

ゼリの登場シーン。アバンと同じく2歳若くなって15歳での登場となるが、こちらも表情が大人っぽく修正されている。

2年後にアバン、ゼリと机を並べることになるコゼット。目と瞳をほんの少しだけ小さく、鼻のラインを短く、という細かな指定が書かれている。カラー写真3点は、「戦場のヴァルキュリア2」でのコゼット。

クルトとひとつの毛布で暖をとるリエラ。右の木の配置に関して、レイアウトの修正が行われている。

大嫌いなキノコを見て、涙を浮かべて顔をそむけるイムカ。コミカルな表情が修正され、胸の防具のラインが抑えられている。

エイルシュの花を見下ろすイムカ、セルベリア。実際には別々のシーンになるため、イムカとセルベリアが並ぶことはない。修正後の原画では、ヴァールの向きが変わっている。

眉毛を直線的に、目の下と額のシワを少し軽めにして、不敵な笑みに、とダハウの表情について細かい指示が書き込まれている。また、銃身を細く、右側にいる隊員の髪型にも指示がある。

ダハウがボルジアを撃つカット。ダハウについて、「最後の手段をとらねばならまい」という険しさを含む表情にするよう修正指定が書かれている。

鉱山での記念写真撮影シーン。クルト、リエラ、イムカの輪郭や顔の向き、ダイトやシンの身長などに細かな修正が加えられているほか、ジゼルが少し前かがみになる可愛らしいポーズになっている。

ネームレスの隊員集合シーンのラフと原画。当初はレイラを戦車の上に乗せる予定だったが、画面の収まりが悪くなるためクルトとセルジュのあいだに立つ配置に変わったようだ。

クルトとひとつの毛布で暖をとるイムカ。修正後の原画ではイムカの顔の向きが変わり、やや照れたような表情になっている。

カラミティ·レーヴェンの一員となったグスルグが、ダハウたちと対面するシーン。棒立ち気味だったグスルグの体の向きと表情が修正され、それに伴いリディアの顔の向きも変わっている。

戦場のヴァルキュリア3 COMPLETE ARTWORKS
制作過程

リディアの最後のカット。リディアの戦車が完全に破壊されているため、背景に黒煙を加えるよう指示が書き込まれている。

リエラとイムカの和解シーン。見る機会の少ないイムカの笑顔は、口を閉じたものに修正されている。

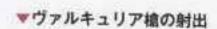
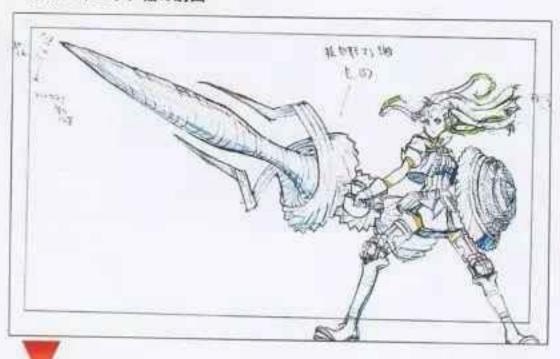
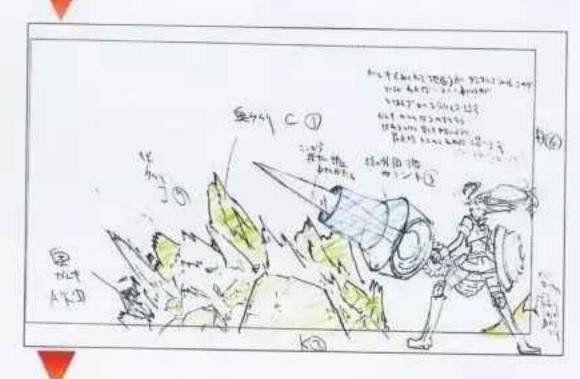
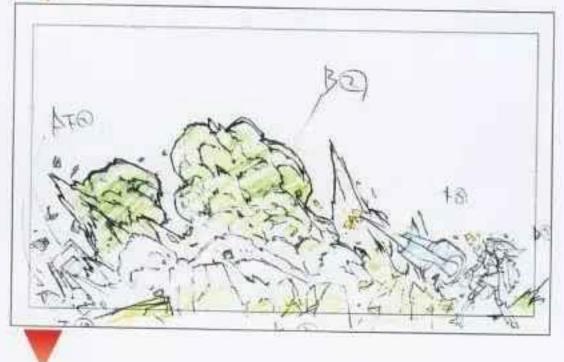
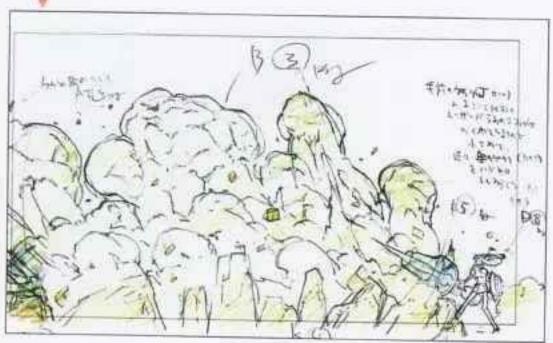
最終決戦での終盤。打ち上げられた弾道兵器に向かってリエラがクルトとともにヴァルキュリア槍から最後の一撃を放つカットの原画。ヴァルキュリアのオーラを何色でどのように入れるかが検討されている。

ムービー原画

ここぞといった場面で挿入されて、物語を盛り上げるアニメーションムービー。描かれた原画と絵コンテは段ボール8箱以上に及ぶ。そのなかから厳選した原画を紹介していこう。なお、クルトとウェルキンの作戦会議のムービーはゲーム未収録となったが、原画を掲載している。

▼ヴァルキュリア槍を振り払うリエラ

▼ヴァルキュリア槍の射出

▼イムカの水着

▼リエラの水着

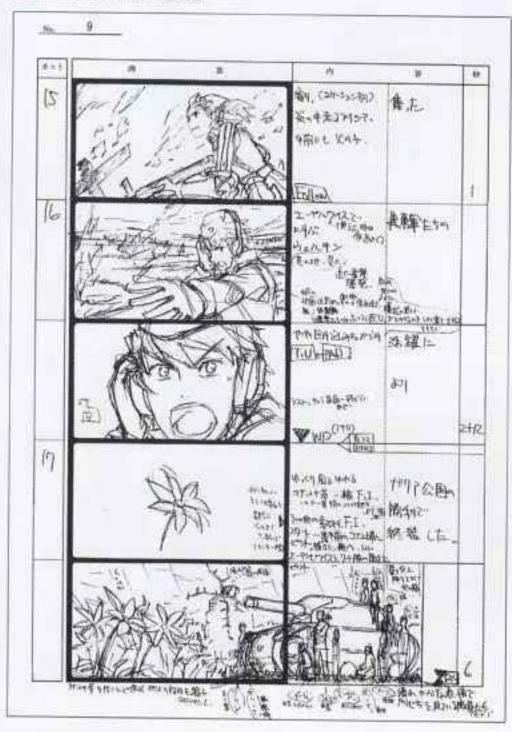
▼クルトとウェルキンの作戦会議(ゲーム未収録)

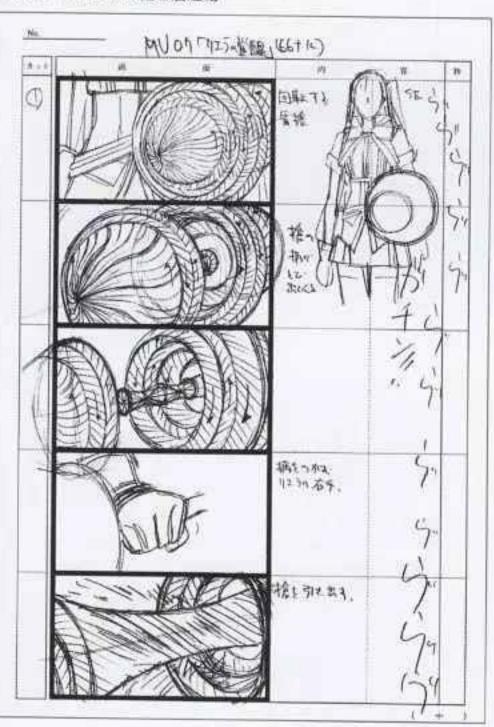
▼リエラの笑顔

▼イムカの笑顔

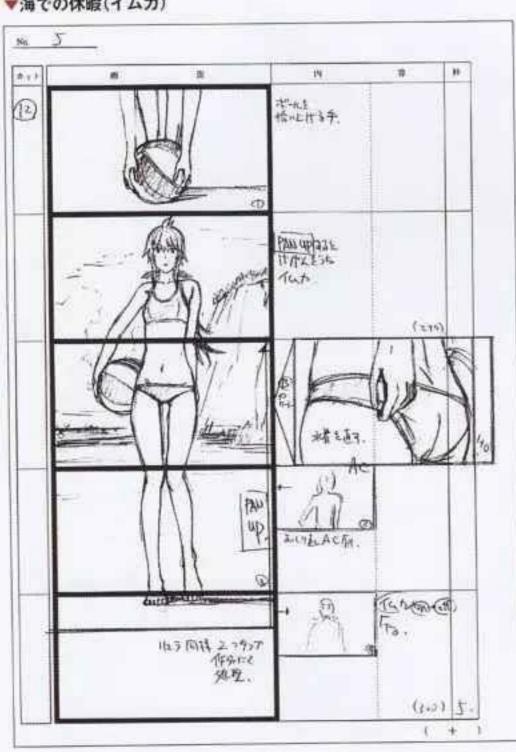
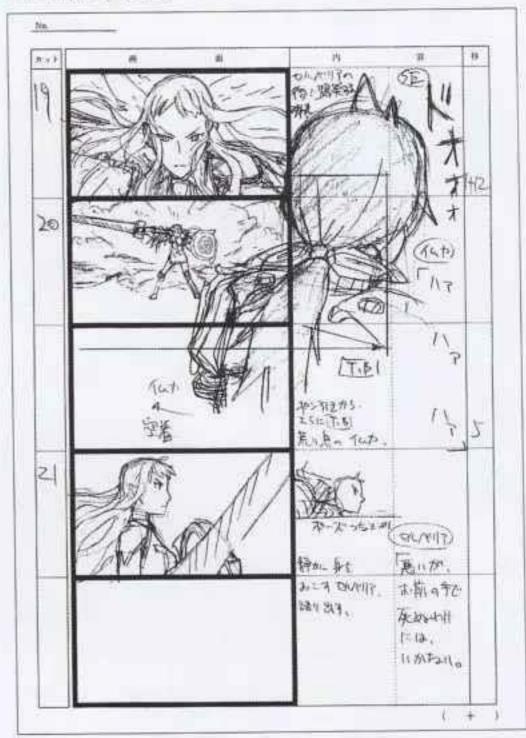
絵コンテ

オープニングやエンディングのほか、随所に挿入される各種イベントムービーの絵コンテのうち象徴的なシーンのものを見ていこう。戦場や対決シーンが躍動感あふれる構図で描かれている。なお、本作のアニメーションムービーは、プロダクションI.Gが手がけている。

▼オープニング(第7小隊)

▼オープニング(リエラとイムカ)

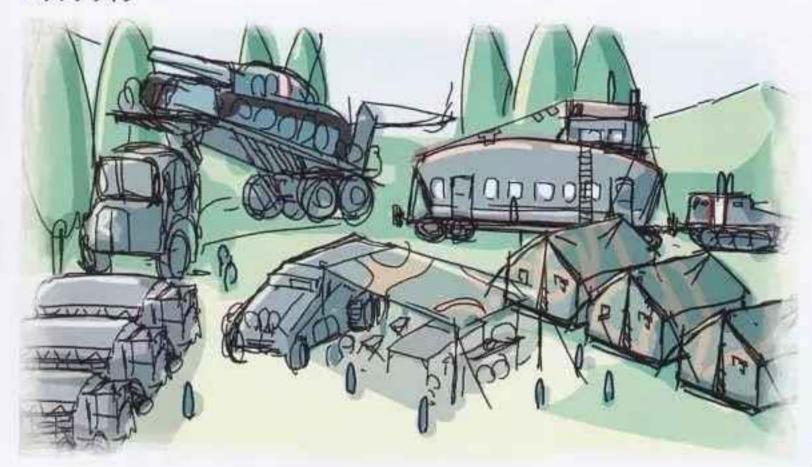
▼ヴァルキュリアの槍と盾起動

▼リエラの覚醒

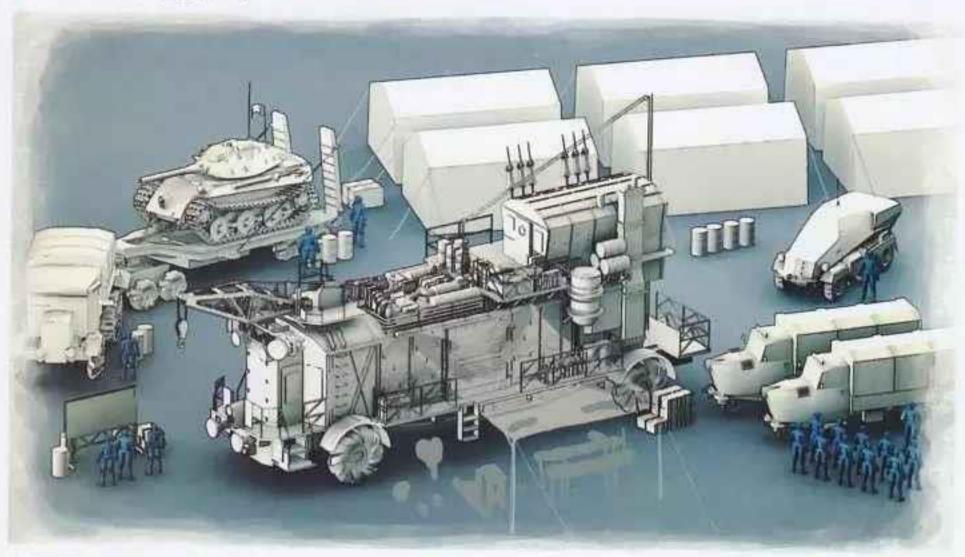
▼リエラVSイムカ

▼海での休暇(イムカ)

▼イムカVSセルベリア

▼イムカのエピローグ

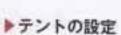
背景美術

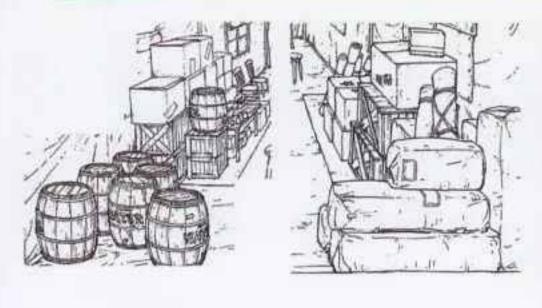
ネームレスの拠点となるキャンプのほか、最終決戦の舞台となったヴァルキュリアの鉄槌などのデザインや設定を掲載している。ゲーム中では確認できないトランスポーターの詳細やヴァルキュリアの鉄槌の細部をじっくり見てほしい。

ネームレスキャンプ

▼ラフデザイン

作戦会議を開くテントを中心に各配置物が描かれたラフデザイン画。ゲーム中の本拠地画面のメニューに対応するよう、戦車やテントの配置が考えられている。

▼キャンプまわりの配置イメージ

ラフデザインをもとにCGで配置イメージを固める。トランスポーターが中央に置かれ、小隊宿舎となるテントは右上に、作戦内容などを伝える掲示板が左下に配置された。

▶テントの設定

各地を転々とするネームレスにとって安息の場となるテント。医務室や食堂も兼ねるテントはかなり大きく、右の設定画のとおり内部にはさまざまな物が置かれている。

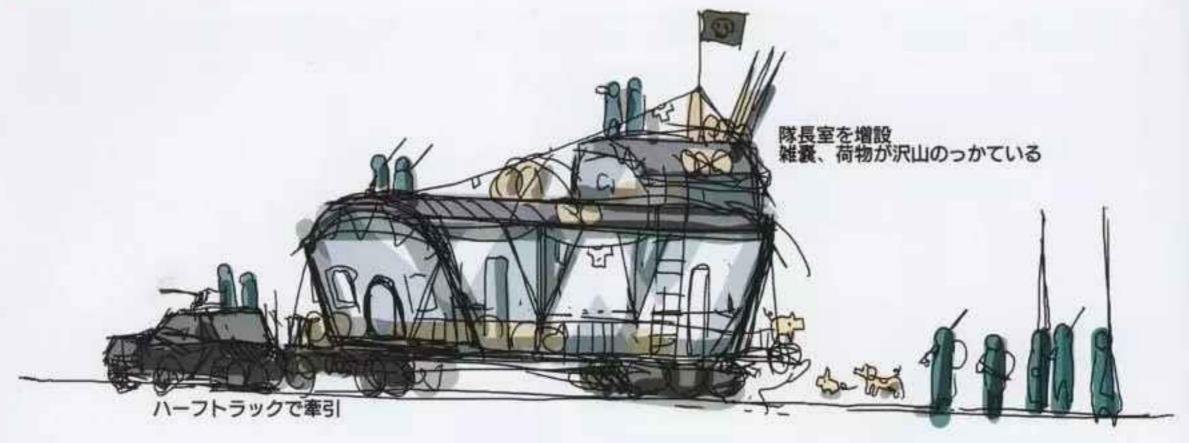
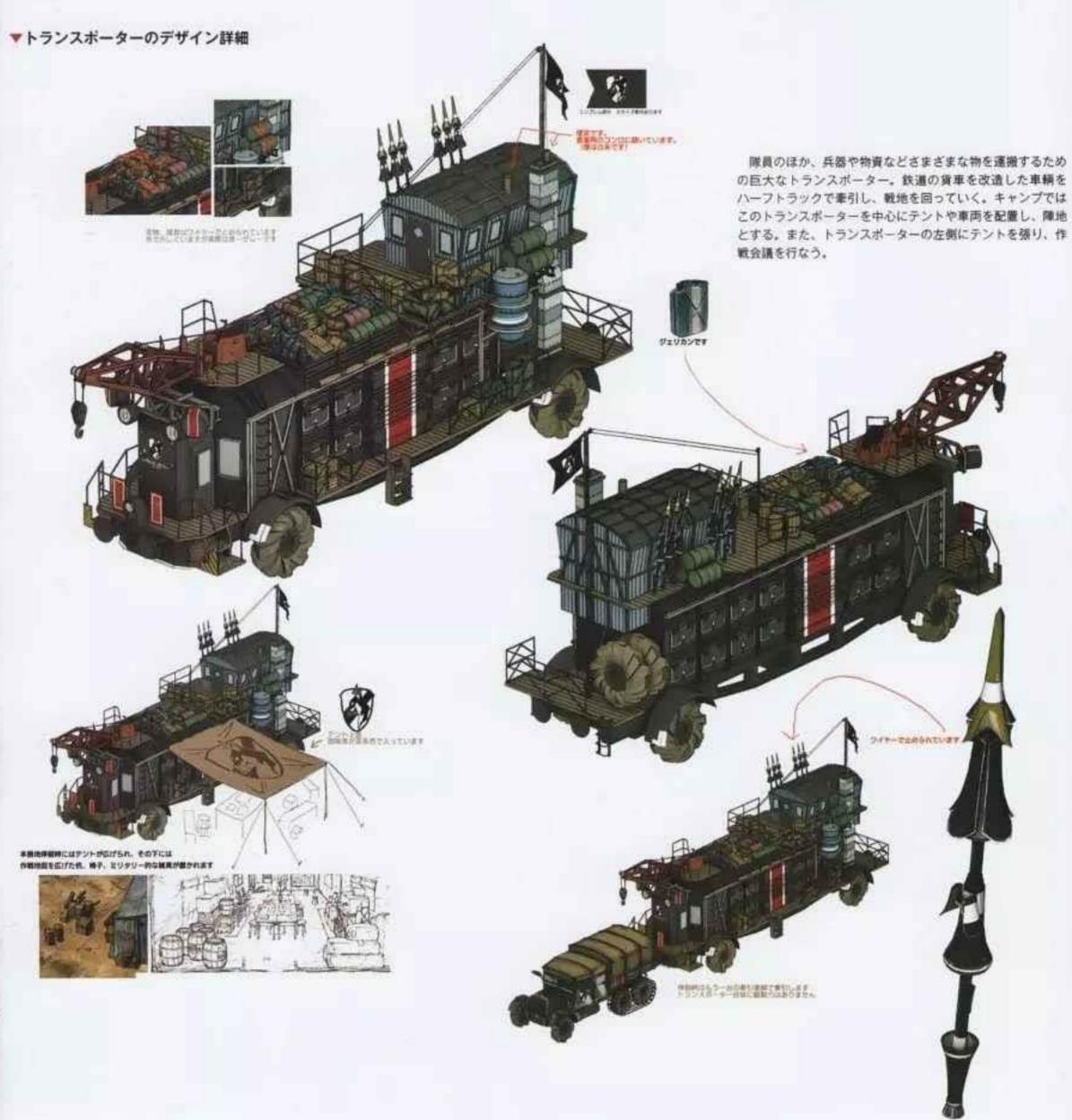
▼キャンプまわりの配置物や設定

キャンプまわりには木箱や樽などの物資が雑然と並ぶ。作戦内容や連絡事項を伝える掲示板は左下のほか、右側のトラックの車体にも貼り出されている。なお、訓練場はキャンプと離れた位置にあり、トラックで移動して訓練を行なう。

▼完成イメージ

▼トランスポーターのラフデザイン

▼トランスポーターのデザイン詳細

隊員のほか、兵器や物資などさまざまな物を運搬するための巨大なトランスポーター。鉄道の貨車を改造した車輌をハーフトラックで牽引し、戦地を回っていく。キャンプではこのトランスポーターを中心にテントや車両を配置し、陣地とする。また、トランスポーターの左側にテントを張り、作戦会議を行なう。

ジェリカンです

▼ネームレスの初期イメージデザイン

開発チームが流浪の懲罰部隊というイメージを共有するために、最初に描かれたネームレスの初期デザイン画。夕焼けは本作のモチーフとして、各所で用いられている。

▼タンクトランスポーター

その名のとおり、戦車を運ぶためのトランスポーター。戦車での移動は故障の原因になるほか、乗員の疲労も大きくなるため、長距離を移動する場合は、このタンクトランスポーターに戦車を乗せてつぎのキャンプまで運ぶ。

放熱板描写部分（別紙参照）
逆サイドにもあります

▼トラック

トランスポーターに乗り切らない隊員や物資を運ぶための3輪トラック。車体の左右にはネームレスのエンブレムがマーキングされている。車体側面には掲示スペースがあり、隊員たちに作戦内容や連絡事項を伝える。

▼調達屋の装甲車

ガリア軍兵站部のカリサが使う装甲車。ネームレス担当の物資調達係である彼女は、この装甲車で武器を売りつけにやってくる。車体にマーキングされた「C」は「Carisa」のCで、彼女愛用のカマロに描かれているものと同じ。

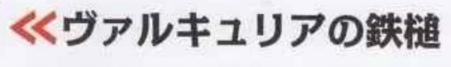
跳ね橋

本作に登場したふたつの跳ね橋。上の設定画の左がヴァーゼル橋。首都ランドグリーズ防衛の要として中世後期に建設され、もとは跳ね橋ではなく一本橋だったが、19世紀に独特な蛇腹式の開閉機構が取り入れられた。右はボーガー市の名物ともなっている跳ね橋、ボーガーズウォール。

ランドグリー

ランドグリーズ城の正門へと通じる目抜き通り。巨大戦車エヒドナの侵攻により、石畳が粉々に破壊されている。もとは左上の原画だったが、地面にタイリングした石畳をエヒドナがえぐりわけたような残骸に見えるよう、細かく砕いた描写に修正され、エヒドナの巨大さを物語るものになっている。

ヴァルキュリアの鉄槌

▼完成イメージ

　帝国領内に存在するヴァルキュリアの遺跡のひとつ。巨大な外観は古代ヴァルキュリア神殿そのものだと思われる。いにしえから残る建造物らしく、石材等には経年劣化がみられ、一部分は緑によって侵食されている。そのため、一見、純粋な歴史的遺産として見ることもできるが、実はこの建造物の中央には強力な弾道兵器が設置してあり、その破壊力は都市を一瞬にして廃墟にできるほどである。

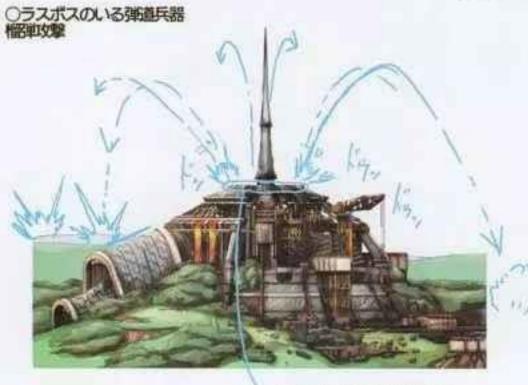
　この弾道兵器は、元々はヴァルキュリアの聖槍の系譜であり、発射と軌道制御にはヴァルキュリアの力を用いる様式だった。これをヴァルキュリア人の力を使わずに運用するため発射台と弾道兵器本体の下部推進機構は現代の技術で改修された。また増改築工事によって遺跡部分の一部は取り壊しが行なわれ、下層の草原丘陵地帯は砲台然とした防衛施設に変貌を遂げている。弾道兵器は地下の格納庫に12発備蓄されており、複数回の使用が可能となっている。

▼モデルと周辺の設定

設定詳細
・元々はヴァルキュリアの遺跡です。ヴァルキュリア1の古代ヴァルキュリア神殿と同じディテールです。表面等。
・中央に弾道兵器があります。弾道兵器はヴァルキュリアの遺物と現代の技術（ロケット、推進力）を組み合わせたものです。
・発射工事の為、遺跡部分は一部破壊され、建設の足場、クレーンなどが建てられています。
・下層部、草原丘陵地帯には　発射台建設工事のための資材置き場、建物などが点在しています。また、ヴァルキュリア遺跡の遺構も見受けられます。
・ヴァルキュリア遺跡部分は経年劣化のため相当古びた外観になります。
・一部分は緑が多く侵食しています。
・この部分はゲーム本編最終戦の中で破壊され、このような状態があらわになっています。MV10はここからさらにロケットが発射、上空で撃破され落下している状態になります。
・帝国旗です。
遺物
現代技術
エレベータ
エンディング、ロケットを正常に発射させる為この固定装置をイムカが破壊します。
対人スケール参考
クレーン、帝国旗各所されています
この部分が沈み込んで地下の制御室に繋がっています。
建物の周りの資材、雑多なもの参考
これ以外にも土嚢、木箱、ドラム缶、など至所高く置かれています。
下層部　建物ディテール参考

・弱点はこの放熱弁状の部分です。ラグナイト発光しています。
・120度の壁で3つに仕切られている空間の中に3箇所あります

○ラスボスのいる弾道兵器
榴弾攻撃

ドグァッ

着弾はコマンドモードで

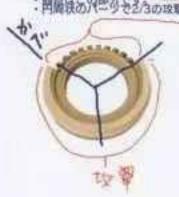
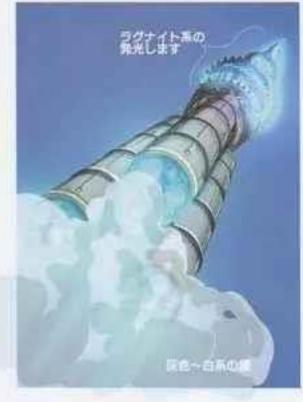
このあたりの天井上面から
3エリアに向けて（堀井に聞いたところエリア1だけではないっぽいです）
1エリア2発〜3発
色、エフェクトはゲイレルル系の青色です。

2戦目の弱点
・1戦目の弱点を破壊するとこのようなものがあらわになります。
・円筒状のパーツで2/3の攻撃面と1/3の弱点面に分かれています。120度の壁で露出部分が異なります。

円状パーツからの攻撃　ラスボスバトル後半戦

▶弾道兵器

▼制御室の設定

制御室設定 ライト反映 EBG作成時はこれを使用して下さい

壁面をヴァルキュリア文字で埋めます

この辺特徴的なので　レイアウト内に入れば
入れて下さい
向かいの壁にもはいっているという事でOKです

ブラス、ライト増設部分とか
ヴァルキュリアの遺跡とロケット打ち上げのため
敷設した組み合わせ感

特典イラスト下絵

予約特典テレカ用の本庄氏描き下ろしイラストのなかから、未使用となった3枚のラフ画を掲載。また、最初はバニーガール姿であったユリアナ&セルベリアの描き下ろしイラストのラフ画と線画およびエピソードも併せて紹介する。

▼没カット(リエラ)

▼没カット(リエラとイムカ)

▼没カット(リディア)

予約特典テレカのひとつとして、ユリアナとセルベリアの組み合わせでリクエストをいただきました。本庄さんには自由に描いてくださいとお願いしたのですが、最初の案が下のバニーガールだったんですね(笑)。さすがにこれは突っ走りすぎということで、カクテルドレスになりました。説得に2時間かかりましたけど。 (セガ・本山)

▼ユリアナ&セルベリア

戦場のヴァルキュリア3
UNRECORDED CHRONICLES
インタビュー
Interview

戦場的女武神3
COMPLETE ARTWORKS
戦場的女武神3
COMPLETE ARTWORKS